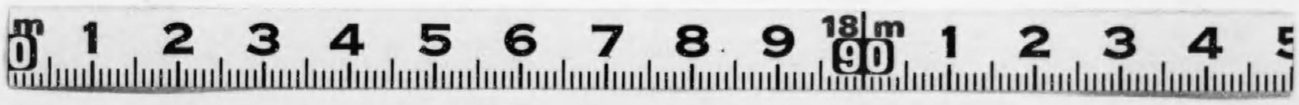
512
624



赤木雅二著

最新經濟界觀察要義

東京　寶文館藏版

大正
13.8.14
内交

序

私有財産制度と複雜なる分業制度と活潑なる自由競爭の原則とを基調とする現代の經濟組織にありては物價、金利、勞銀の變動多くして景氣循環の現象を觀測すること殆ど不可能に近く、如何に進歩したる統計材料を用ふるも到底判斷の精確を期するに由なし。今の商業學又は經濟學を學ぶ所の青年者流或は此等の學問の力に依りて經濟界の觀測を爲すこと猶天文學者が數學の應用に依りて一年の曆本を作製し、氣象學者が諸般の觀測に依りて明日の天氣を豫報するが如くなるべしと誤信するものあるは科學萬能の迷信に陷りたるなり。

然れども人事の複雜なるを以つて之を知ること全然不可能なり

と爲し、唯運を天に任さんと欲せば最初より思慮を用ひざるに如かず。既に思慮を用ひて經濟界の事に當るとせば現に得らるゝ限りの資料を基礎として多少の合理的判斷を爲さゞるべからず。岡山縣立商業學校教諭赤木雅二君は熱誠を以つて教務に當るの傍ら多年此種の資料を蒐集して本書を完成し、學窓の理論と實際界の現象と距離の餘りに遠きを救はんとす。蓋し吾人が同志の一人なるべし。今や我中等教育界が智的沈滯の風ある時に當り決然として此難問を解かんとするの擧あるは寔に推奬するに堪えたり。一言以つて序となす。

大正十一年七月

上田貞次郎

112-62

例言

一、「如何にして經濟界の大勢を觀測すべきか」、是れ實業に就かんとする者の特に知らんと欲する處なり。本書は此點に關し財界觀察の要義を說明し、經濟に關する報道、實業に關する統計の觀方を記し、以て商業學上の智識を應用すべき方向の一端を示したるなり。

二、商業學校を出でたる青年實業家の最初の感想は、恐らく學校に於て修得せる商事要項、經濟學等の原則が、實際社會に於て如何に應用され居るかに就き何等の自信なく、教科書に記載の事項には通ずるも、新聞雜誌經濟記事の意味は咀嚼する能はず、學窓の理論と實社會の現象との距離が聊か多きに過ぐる點に在ら

ん。本書は之を商業學校上級生の商事要項科又は商業實踐科の教科に用ゐ、若くは實業に就かんとする青年の自修參考に供し、以て上述の遺憾を少からしめんとするに在り。

節末に挿入の統計は本文と對照の便に資せん爲に掲げたり

三、然れども實業界の事は固より廣汎茫漠、說述の完全を期する事は一代の碩學を以てするも尙至難の業なり、況や後進淺學の著者に於てをや。編著の微意只目前如上の缺陷を補はんとする意思の急なるが爲のみ、誤謬杜撰、大方の高敎により他日改訂の資を得ば乃ち幸甚なり。

大正十一年七月中浣

著者識

最新 經濟界觀察要義

目次

第一章　總說……一

第一節　緒論……一

經濟界の大勢に通ずるの要……經濟現象の影響

第二節　觀察の材料……三

著眼の要點……觀測の資料

第三節　好景氣と不景氣……六

景氣の循環……好景氣の現象……好景氣頂點及打擊の現象……不景氣の現象……景氣恢復期の現象……景氣循環の周期……中間景氣……景氣表徵の指數

第二章　通貨及金融市場の觀察……一二

第一節　金融の繁緩……一二
金融の性質……金融市場……金融の系統……金融の中心……金融の繁緩……物價と金融との關係……金融界觀察の標準
第二節　金利の觀察……二一
金利の高低……景氣と金利との關係……利子と利潤との關係……金利と經濟界文化との關係……通貨と利子との關係……金利歩合の種類……金利表に就き觀測すべき要點……海外金融市場に對する著眼……金利と手形との關係
第三節　通貨及信用の觀察……三〇
其一　通貨流通高……三〇
通貨の消長と物價との關係……通貨流通高の研究
其二　正貨……三二
正貨存在高……金の現存高……金の產出額……金の流出入……正貨減少の影響……正貨吸收の方法……正貨流入の利害……在外正貨の影響……在外正貨增減の影響……在外正貨增減の原因
其三　紙幣……四一
兌換券發行高の觀察……不換紙幣と其影響
其四　手形交換高の觀察……四三
手形取引の分量……交換高の消長と市場景氣との關係……株式市價と手形交換高との關係……決算日と手形交換高との關係……手形交換高に關する研究の一例……不渡手形の觀察……不渡手形研究の一例
第四節　銀行諸勘定の觀察……五一
銀行の貸借に對する著眼點……經濟界の消長と銀行の勘定……預金貸出の內容……當座預金と定期預金の消長……長期の貸出と短期の貸出……コールの種類……コールの利鞘……金融緩漫時代に於けるコール毎月の常態……コール利率の季節的移動……コールと一般利子との鞘に關する著眼點……紡績手形……不動產貸付……

……支拂準備金と金融の張弛との關係……預金、貸出、手許在金の比率に對する著眼點
第五節　預金部の狀況……六三
預金部の運用……手形交換高と郵便貯金との關係
第六節　金融季節……六六
毎年の常例
第三章　放資に關する觀察……六九
第一節　放資決定の原因……六九
放資決定の要素……利廻の多少……元本回收の安危……賣却及擔保の難易
第二節　內國債に對する觀察……七一
內債の募集と其影響……內債の償還と其影響……公債の借換と其影響……國債利拂と其影響……內地に於ける外國債募集と其影響……外債募集外資輸入幷に償還と其影響……公債の市價……仲値と實際値段……外國に於ける我公債市價の騰落……大藏省證券と金融市場との關係……一時借入金と金融市場との關係
第三節　株式市價の觀察……七八
株式市價と放資方向幷に事業計畫……株式市價騰落の原因……會社基礎の强弱に關する著眼點……收益力の動搖に關する著眼點……遊資の增減に關する著眼點……投機株と放資株……感受性の强弱……取引所取引高と取引所株の高低……外國貿易と株式との關係……株式市價の先驅性……相場の騰落と賣買出來高の大小……一年間に於ける株式市價變動の常勢
第四節　事業の新設及擴張に對する觀察……八七
事業計畫と景氣との關係……事業計畫膨張の程度……破產に關する觀察
第五節　國際放資に對する觀察……九一
對外放資の動機……對外放資の方法……外資輸入の利害……外資

輸入と貿易との關係
第四章　農作物の豐凶に關する觀察……九四
第一節　豐凶の影響……九四
豐凶の影響する範圍
第二節　米價に關する觀測……九六
米價騰落の原因幷に其豐凶の觀測
第三節　農家經濟の一斑……一〇二
第五章　工產品及鑛產品の市況に關する觀察……一〇四
綿絲綿製品の市況……生絲市況……石炭消費高……銅の產出高……地方的工產物の消長
第六章　外國貿易に關する觀察……一〇七
第一節　貿易消長の觀方……一〇七
貿易消長の影響……貿易に關する統計……貿易統計に對する著眼

點……貿易の消長と景氣との關係
第二節　貿易の消長を惹起する原因の二三……一一五
海外景氣の影響……國際放資と國際貿易との關係……爲替相場及銀塊相場と貿易との關係……本邦商品の競爭品
第三節　貿易と季節……一一八
季節と入出超
第七章　外國爲替に關する觀察……一一九
第一節　爲替相場變動の原因……一一九
爲替相場變動の原因と其影響……一一九
爲替相場騰落の單位……爲替相場騰落の影響……利子步合と爲替相場との關係……クロッス・レート……對米爲替相場の騰落……英米間クロッス・レートと對英爲替相場の騰落……對英米以外の爲替相場の騰落
第二節　特別の原因に依る爲替相場の變動……一二六
正金輸送點の例外……恐慌と爲替相場との關係……戰爭と爲替相

場との關係……金の輸出禁止と爲替相場との關係……紙幣國と爲替相場との關係
第三節　銀塊相場高低の觀察……一二八
銀塊相場騰落の影響……銀の需給……倫敦及紐育銀塊相場……對支爲替相場と銀價との關係……銀塊相場の騰落と對銀貨國貿易消長との關係……銀塊相場と放資との關係……印度爲替と銀塊相場との關係……銀塊相場騰落と對金貨國貿易消長との關係
第八章　運輸通信に關する觀察……一三八
第一節　交通機關の收入額……一三八
荷動き數量と景氣との關係……鐵道貨物收入統計
第二節　市況と海運との關係……一四〇
海運界の觀察……海運々賃の騰落……傭船契約と市況との關係……運賃市場……海運々賃低落の趨勢
第三節　通信統計の觀察……一四四
通信統計
第九章　倉庫業に關する觀察……一四五
在庫貨物の增減と其著眼點
第十章　物價に關する觀察……一四八
物價變動と景氣との關係……物價と金利との關係……物價指數の作成……國內商品の市價と國際商品の市價……物價騰落の順序
第十一章　財政の金融界に及ぼす影響……一五四
第一節　財政と市場との關係……一五四
財政の影響
第二節　租稅に關する觀察……一五五
租稅と一般財政との關係……租稅と金融との關係……徵稅期の觀察……徵稅金額の觀察……關稅率の變更と市況との關係
第十二章　其他……一六一

國際關係と市場……勞働の狀態……煙草賣上高・麥酒及酒稅消費稅
納入高・生命保險契約高等の觀察……天災地妖の影響……人氣
第十三章　每月經濟界の常勢……一六六
一月の經濟界……二月の經濟界……三月の經濟界……四月の經濟界……五月の經濟界……六月の經濟界……七月の經濟界……八月の經濟界……九月の經濟界……十月の經濟界……十一月の經濟界……十二月の經濟界
第十四章　結論……一七二

目次終

最新經濟界觀察要義

赤木雅二著

第一章　總說

第一節　緒論

經濟界の大勢に通ずるの要　商業經營者の備ふべき必要なる資格の一は實に一般經濟界の大勢に通ずるに在り。一般經濟界の大勢に通せざれば如何に一事務に精しく一事業に通ずるも商人として成功を期し得べからず。自己の職業が經濟界の如何なる關係位置にあるかを知り、經濟界に發生する事實が如何に己れの事業に影響を及ぼすべきかを觀察するは蓋て其職業の現在及將來に處するの途を講ず

の基礎なればなり。

經濟現象の影響　今假に經濟界を一の池沼に譬へんか、池の一部に投せられたる一塊の石は其大小と情況とに從ひ漸次波動を他の部に及ぼし、或は巨浪を起し或は細漣を生せしめ、大なるは舟を搖がし、小なるは樹影を動かす。經濟界の廣き水面は互に相關係し相影響する事恰も此池の如く、金融に物價に貿易に、北米の風、南亞の雨、大小濃淡の差こそあれ、一事件の發生は常に他の諸事業と相影響して殆んど息むことなし。

さらば如何にして此刻々變化極まりなき經濟界の大勢を測知すべきか。凡そ商業上に於ける一の現象は各種原因の發生し相融和し相牽制したる結果にして、決して個々單獨の原因が直ちに其結果を示したるものと斷ずべからず從て研究の範圍極めて廣汎複雜にして其全體を詳にする能はずと雖も、財界の大勢に關係すべき重なる事項に就き觀察著眼の要義を研究するは、事の至難なる故を以て漫然放任するを許さざる緊要事に屬す。況や他の事情にして牽制するなくんば、個々の現象が財界に及ぼすべき當然の影響を觀察するは必ずしも不可能の事にあらざるをや。

第二節　觀察の材料

著眼の要點　經濟現象を判斷し財界を觀察するには其觀察判斷の基礎たるべき數字又は報告を必要とす。されど是等の材料には一般的に財界を變化せしむるものと、一般的には影響少きも狹少なる範圍には甚大なる影響を及ぼすものとあり。此兩者は互に相竝行する場合あり又相背馳する場合あり。而かも財界に影響を及ぼすべき世上幾多の現象は一つ一つ獨立して現はるゝ事少く、積極・消極相重疊しプラス・マイナス相錯綜し、之に加ふるに將來に對する豫想と風說と人氣との心理作用を以てするが故に一の現象を見て直ちに其結果を卜するを得ず。されば常に萬般の材料に注意し觀測の材料を得る毎に

一、其性質は財界に影響を及ぼすべきか……（性質）

二、其影響を及ぼすべき程度は如何……（分量）

三、其影響を及ぼすべき時期の遲速如何……（時期）

等に就きて調査考察を怠らざるを要す。かくの如くあらゆる經濟上の現象を觀察

すること精緻なる時は、遂には財界の天地を覆ふべき風雨を其一雲影の時期に於て豫察するを得べく、又怒濤狂瀾の裡に在りてよく光風霽月の期を豫測するを得べきなり。

觀測の資料　一般財界觀測の資料たるべきものは指を屈するに遑なく、又其統計も不備なるもの少からず、諸般の原因によりて正確を期し難きもの多しと雖も其最も普遍的にして便利なるものを擧ぐれば概ね左の如し。

一、金利の高低
二、通貨流通高
三、手形交換高
四、銀行預金・貸出の狀況
五、有價證券市場の狀況
六、事業計畫の消長
七、重要農產物の豐凶
八、重要工・鑛產物の市況
九、外國貿易の消長
一〇、外國爲替相場の騰落
二、水陸運輸の狀況
三、倉庫貨物出入の狀況
三、物價及勞銀の高低
一四、財政狀態其他

右の內、外國爲替の騰落、海陸運輸の盛衰、入出庫の增減、勞働賃銀の高低等は何れも生產の消長・商取引の狀勢等によりて動かされ獨自の事情に依りて變化するものにあらず。總て發動的にあらずして受働的、原因にあらずして結果、本體にあらずして影響なり。されど其勢の著しきに至るや、爲替の大騰落は貿易を浮沈せしめ、滯貨山積しては商品市場を壓迫し、海運振はずしては造船製鐵の業衰ふる等、結果は却て原因となり、影響は進んで本體を動かすに至る事少からざるなり。

而して之等の資料は日々の新聞紙は固より、官報、大藏省金融事項參考書、銀行局年報、外國貿易年表、同月表等の如き政府發表の出版物及報告、大日本紡績聯合會月報、通

商公報、內外商工時報、銀行通信錄、商業會議所手形交換所發表每週報告等の如き各部門に屬する定期刊行物並に各種雜誌通信等によりて其內容を知るを得べし。

第三節　好景氣と不景氣

景氣の循環　潮の滿干交々到るが如く好景氣Activeと不景氣Dullとが互に相循環するは經濟界の法則なるが故に、財界には(一)好景氣時代あり、(二)不景氣時代あり、(三)好景氣より不景氣に移る過渡の時代あり、(四)不景氣より好景氣に移る回復時代あり、而して恰も干潮の速力が滿潮の速力よりも急なるが如く好景氣より不景氣に陷る速度は其回復期よりも速なるを常とし、又不景氣期間の長き程好景氣時代の熱狂程度も大なるを普通とす。

好景氣の現象　今其各時期に應ずる財界の狀況を見るに、活躍期に於ては

イ、一般の需要盛にして
ロ、取引數量增大し
ハ、物價は騰貴し
ニ、賣行盛にして
ホ、利潤の步合多く
ヘ、企業家は競ふて資金を借受け
ト、新事業を創設し又は事業の擴張を行ひ
チ、從て資本の固定を見るべく
リ、家賃及不動產の價格騰上し
ヌ、勞働賃銀亦騰貴を見るべく
ル、銀行の貸出增加して金利の騰貴を促し
ヲ、鐵道海運の事業熾盛にして之が擴張はまた自ら資本を固定せしむべく
ワ、一般に人氣沸騰して投機奢侈の風を釀成するの傾あり

好景氣頂點及打擊の現象　既にして事業の活躍其極度に達するや

イ、資本の注入、生產の供給其度を超え
ロ、企業に對する公衆の信用膨脹其極度に達し
ハ、原料、賃銀及金利の騰貴は生產費の上昇を招き而かも原價の騰貴する割合に

は賣値を高むる能はず

ニ、物價騰貴の爲め俸給及財產に依る衣食者は其消費を手控ふるに至り、特に奢侈品の需要減すべく

ホ、遂に一般に生產過剩となり

ヘ、物價の騰貴は茲に停止して下落の端を發くべく

ト、物價の下落と生產費の上昇とは利潤を減退せしめ

チ、一の蹉躓を生ずるものあらば之を動機として忽ちに經濟界の瓦解を招き所謂恐慌を現出すべく

リ、有價證券市價の慘落、投機事業の瓦解となり

ヌ、世間一般不安の念に襲はれ、債務者は債權者の督促急なるも之に應ずる能はず、閉店破綻踵を接して到り

ル、金融の硬塞は此勢をして益々餘儀なきに到らしめ

ヲ、財界の機能一時痲痺狀態に陷る事あり

不景氣の現象　かくて不景氣時代に入るや

イ、信用萎縮し

ロ、銀行の貸出頓に減退し

ハ、通貨縮少し

ニ、物價は低落し

ホ、需要減少に從ひて事業は縮少の外なく

ヘ、生產制限となり

ト、勞働者の失業となり、賃銀の低落となり

チ、資金の需要少くして銀行の遊金多く

リ、金利の低落を現出すべし

景氣恢復期の現象　然るに一方打擊及不景氣の爲めに事業界に於て嚴密なる自然淘汰行はれ比較的堅實なる事業會社のみ殘存するに至り、殘れる者は著々實利を收め、一般に勤勉力行の風行はれ、節制謹愼の生活は貯金の蓄積となり、貿易事業も順調に向へる時は

イ、供給減退の結果物價は騰貴に向ふべく

ロ、而かも金利低廉なるを以て事業を起すに利益多く

ハ、先づ社債の借換頻りに企てられ、續いて公債の賣行良好となり、銀行保險株之に從つて騰貴すべく

ニ、品ガスレ補充の爲商工業亦活躍の機運に向ひ

ホ、貨物の荷動き增加して運輸業者の運賃收入亦增大すべく

ヘ、一般の勤儉貯蓄は財界をして歩々好景氣に向はしむ

景氣循環の周期　從來の記錄に徵するに景氣不景氣は概ね七八年乃至十二三年を周期として循環すること猶干支のめぐるが如し

古相場の事を記したる八木虎の卷(寶曆六年猛虎軒著)に曰く

「人の氣分陽に進み登り詰めたる時は陰來つて陰に赴き下る者也又陰に下り詰めたる時は陽來つて上る者也云々」

と言ひ、又諺に相場の天井と底の時期として「もうはまだ也、まだはもう也」と云へるものすべて景氣循環の法則を示せるものと云ふべし

中間景氣　財界の衰退より好況に移る大循環の中途、特に不況期の初期に於て一時景氣恢復に似たる現象を呈することあり、之を中間景氣と云ふ。打擊に依る事業の破綻整理を終り、一般に落付き氣分となり全體的不況期に入り、一二年を經過するや金融緩漫に伴ふ金利低落の爲めと、打擊期に於て極端に安値に叩かれたる相場竝に行過ぎたる人氣の反動とに依りて有價證券に對する需要起り、證券市場に所謂金融相場を表はし、時としては經濟界各方面に亙りて好況を呈することあるものの之れなり。

中間景氣は株式等の一時的反動の如き目先小景氣の起伏と其趣を異にし、金融の一般的緩漫、物價の低落、貿易の順調等を前提として表はるゝ相當基礎ある現象なりと雖も、破綻整理後の餘力と打擊後短日月間の蓄積とを消盡するものなるが故に、其景氣も短期間にして中間景氣衰退後の財界は一層の不況を呈し、長日月に亙る大蓄積によりて來るべき大好況を準備するに至るを常態とす。

景氣表徵の指數　されば現在の景氣は如何なる點にあるやを知らんが爲め一般經濟界景氣の程度を表示するに足るべき指數を求むるは必要且便利なることにして、例へば銀行の割引歩合、正貨準備額、外國貿易額等の一二のみを捉へて其象徵なり

と斷ずることを得ば甚だ好都合なるもかゝる適宜の表徵的數字は實際に存在せざるを以て止むを得ず數十種の參考事項を掲げ、其一定時に於ける全指數を一〇〇として一般指數を作り、以て經濟界の景氣を測定する標準とするの外なきなり。今其一例を掲ぐれば

一、産業に關する事項
　蒸氣汽罐數　工業用蒸氣汽罐の馬力　石炭の産額　石炭消費量
　鋼鐵其他重要鑛産物の産額　米の産額　麥の産額　茶の産額
　生絲の産額　紡績錘數　其他重要工産物の産額　水産收入額
　農産物價格指數
二、交通通信に關する事項
　鐵道乘客數（鐵道延長哩數との比率）　鐵道貨物數量（同上）　鐵道收入額（同上）
　水路運送貨物（一浬平均噸數の水路浬數との比率）　入港船舶純噸數　郵便收入額　商工業關聯電信數
三、商業及金融に關する事項
　輸入額　輸出額　手形交換高　手形割引高
　郵便爲替料收入額　手形割引平均歩合　中央銀行正貨準備額　事業新設擴張資本額
　破産の數（營業稅納入者數との比率）
四、消費に關する事項
　酒消費高　煙草消費高　砂糖消費高　平均勞賃
五、租稅に關する事項
　相續稅收入額（前年の死亡數との比率）　所得稅收入額　地租收入額

以上の各指數の總平均指數を算出し、その消長を以て景氣の程度を卜するの用に供するが如き之なり

註 1. 括弧内に比率の對照を記したるものゝ外は人口との比率を求むる事
2. 破産數の如き負指數（少き程好景氣）を計算するには他の正指數（多き程好景氣）と反對に計算す。例へば一〇五は九五として計算す。
3. 各項の中には其消長が經濟界に影響を及ぼすこと大なるものと其影響の小なるものとありて之等を平等に平均するは不都合なるも、其度合 Weight を測定することは困難なるを以て、止むを得ず何れも相等しき程度の影響を與ふるものと假定して平均するの外なし。
4. 前記の各項目はジューラン氏が白耳義に於て選擇したる項目を基礎としたる摘錄にして固より缺陷を免れず。只其一例を示したるに過ぎず。

第二章　通貨及金融市場の觀察

第一節　金融の繁緩

金融の性質　金融關係の經濟界に於ける猶神經系統の人體に於けるが如し、茲を以て財界觀察の第一義は金融の狀態を知るにありと謂はざるべからず。金融とは貨幣及其代用物たる支拂用具（廣義に於ける通貨）の時、場所又は種類を異にする交換

にして

イ、預金及貸出

ロ、爲替

ハ、兩替

の三者なり。右の內兩替は往古盛に行はれたる金融事項なりしも現時に於ては餘り重要ならず、前兩者こそ現代金融界に於て最も重大の關係を有するものなりとす。

金融市場　而して之等資金調達の事を業とする銀行・ビルブローカー・信託會社・質屋・金貸等の職業は金融業にして、之等金融業者を中心として之れと取引する所の政府、公共團體、商工業者及一般人間に成立する資金需給の關係を名けて金融市場と云ふ。

凡そ企業の要素は資金と意思となり。然るに世には企業の意思と結び付き居らざる資金あり、資金と結び付き居らざる企業意思あり。此兩者を彼此相結び付くる事によりて、資金も意思も、財も手腕も、共に遺憾なく其力を發揮し得べきなり。換言せば企業化せざる資金を企業化することによりて國利民福は愈々增進すべきなり。

而して之を媒介する任に當るものは主として銀行なりとす。

然らば資金の企業化せざるものとは如何なるものかと云ふに

一、餘りに巨額なる資金(多くは有價證券放資となる)

二、餘りに少額なる資金(多くは貯蓄預金、產業組合の預金となる)

三、職業年齡等の關係により企業化せざる資金(多くは貯蓄預金、定期預金、有價證券放資となる)

四、商人の有するものにして一時企業より離れ居る資金(多くは當座預金となる)

等にして之等の大部は所謂銀行資本 Banking Capital となり、一方事業は之等の資金を所謂事業資本 Business Capital たらしめんとする吸收の作用をなし、兩者の關係により金融の繁緩を生ずるなり。

金融の系統　銀行は未だ企業化せざる資金を餘裕ある處より集めて其管理に任ずると同時に自己の信用を利用し之を數倍の資金として需要ある處に供給する機關にして、金融市場は實に銀行を中心として組織せらるゝものと謂ふべく、所謂金融の繁緩は最要最大の金融機關たる銀行を通じて表はるゝ現象なるが故に、銀行は實

に無上の金融觀測所なりと稱するを得べし。

されど等しく銀行と云ふ中にも地方の銀行あり、都會の銀行あり、等しく都會の銀行と云ふが中にも大銀行あり小銀行ありて自ら系統をなし、地方の銀行は都會の銀行に小銀行は大銀行に其資金の過不足を需給し來るべく、從て一地方金融の繁閑は自ら中央市場に波動を及ぼすべく、時季により地方による金融の張弛は絶えず中央金融市場を刺激すると同時に中央市場の金利歩合は自然全國の金利を支配するの力を有するなり。

金融の中心　我國に於ける金融は概ね靜岡、長野、新潟を連ぬる線によりて東西に區分されたる二大系統をなし、東京、大阪は各之が中心地にして（北海道及新潟縣は兩屬の姿なり）東京は更に全國金融の中心たる地位に在り。

世界に於ける金融の中心地は倫敦、巴里、紐育、伯林等にして、歐洲大戰後紐育が世界金融の中心地たらんとする勢あるも、大戰前までは倫敦が永く世界金融の樞軸たりき。之れ倫敦は金の自由市場にして資金を有する者は何時にても之を金貨に引換ふるを得しは勿論、倫敦拂手形は全世界到る處に流通し、各國の取引は日佛取引たると蘭米取引たるとを問はず、すべて倫敦手形を以て決濟せられ、殊に倫敦の株式取引所は世界の株式市場なれば、此地にて賣買せられたる國際證券の受拂代金は自ら倫敦に集まり、又茲に集中したる手形は形の需要となり、故を以て手形の支拂資金は倫敦に集まり、直ちに賣買して資金化せらるゝを以て、倫敦のロンバート・ストリートは世界金融の中心をなし、磅手形は所謂世界的通貨（インターナショナル、カーレンシー）たるの資格を有したりき。

金融の逼迫と緩漫　企業盛にして事業の資金吸收力大ならんには銀行資本は貸付割引等によりて漸次事業界に入るべく、資金の需要多き爲め金融は從て逼迫を告ぐるに至り、銀行は貸出の利率を引上ぐると同時に預金の利率をも高めて資金の吸收に勉むべく、茲に金利の騰貴を現出するに至るべし。

然れども利率高きに過ぎんか、資本は自然に事業に向はずして銀行に入り來り、貸出請求者の減少となり、預金者の增加となり、資金の供給漸く多くして需要少く、金融は自然に調節せられ金利は低下するに至るべく、金利低下せんか、茲に再び資金の需要を喚起して金融市場を緊縮せしめ利子歩合を騰上せしむ。

されば金融の緩漫 Easy と云ひ逼迫 Firm と云ふは資金の存在高を云ふにあらずして、

畢竟資金の存在高と事業の吸收力との關係を云ふなり。されど等しく金融緩漫と云ひ逼迫と云ふ中に就きても一時的のものあり、比較的永續的のものあり、自然的のものあり人爲的のものあり、其狀必ずしも一ならざる點にも留意するを要す　而して事業資金を得んとするものゝ多寡は主として一般經濟の狀況如何に因り、資金を放下せんと欲するものゝ多寡は職として金融市場の狀況如何に因るものと概言するを得べし。

金融繁閑の因をなす重なるものは概ね左の如し。

（金融緩漫の原因）

外資の輸入
輸出超過
公債の償還
事業の沈滯
金の產出增加
公債の利拂

（金融逼迫の原因）

內資の流出
輸入超過
公債の募集
事業の勃興
金の產出減少
納稅期
諸會社の配當後
季節輸出品の荷爲替期限
其他

物價と金融　物價の騰貴は普通生產業の興起を促し資金の需要を增加し金融を引締むる作用をなし、物價の下落は諸種の生產業が從來得來れる利益を減少せしめ增資又は新規事業の興起は爲めに岨害を蒙り資金の需要減退して金融不振となるを通例とす。

諸會社の株金拂込
季節產業の資金需要期
其他

金融界觀察の標準　金融狀態を觀察すべき標準は大約左の數者に依るを便なりとす。

金融基數
通貨流通高
正貨在高
兌換劵發行高
預金高

銀行預金高
郵便貯金高
授信狀態
銀行貸出高
手形交換高
計畫資本高

而して其關係は切實に金利の高低に顯れ來る。

參考統計

大藏省理財局編纂銀行及擔保付社債信託事業報告、大藏省銀行局年報　官報　銀行通信錄　大阪銀行通信錄
遞信省郵便爲替貯金局統計年報
（參照統計）

▼銀行現立調（大正十一年十一月末現在）

種類	行數	資本金（円）
日本銀行	一	六〇、〇〇〇、〇〇〇
日本勸業銀行	一	三四、六六八、七五〇
北海道拓殖銀行	一	二〇、〇〇〇、〇〇〇
橫濱正金銀行	一	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
日本興業銀行	一	五〇、〇〇〇、〇〇〇
臺灣銀行	一	六〇、〇〇〇、〇〇〇
朝鮮銀行	一	八〇、〇〇〇、〇〇〇
貯蓄銀行	一四九	六六、〇七四、六〇〇
特種銀行（株式會社）	一六七八	二、一六六、一二〇、一三〇
特種銀行（合資）	五七	四、五八八、四〇〇
特種銀行（個人）	三二	一、五一六、二一〇
合計	二、〇一二	二、八六〇、八四四、九五五
農工銀行	三一	八六、一〇〇、〇〇〇
外國銀行（貯蓄）	二	一、五〇〇、〇〇〇
內地支店（普通）	一七	三、七二五、〇〇〇

▼全國各銀行資本金累年表　（單位百萬圓）

（年次）	特種銀行	普通銀行	外國銀行
大正四	四三七	三一七	—
六	四七六	六六四	三
八	七〇四	一、一三八	三
（年次）	特種銀行	普通銀行	外國銀行
大正五	四六八	三一四	—
七	五八〇	七一	三
九	一、〇三一	一、六八二	三

第二節　金利の觀察

金利の高低　貸出は現在の通貨と將來の通貨との交換にして、金利は現在の通貨の値が將來の通貨に勝る額なり。されば企業化せざる資金卽ち浮動せる自由資本の分量は自ら金利 Money rates の高低に顯はるべく、浮動資本の分量の少き時は金利高く、浮動資本の分量多き時は金利廉きを常とす。然れども利子は單に時日の待ち料たるのみならず、此間に生ずべき(1)不拂なる危險に對する保險料、(2)物價の騰落に

よる貨幣價値の增減見込、(3)貸出及回收の手數料等をも包含するものなれば之等に關係ある條件の差異によりて利率も亦自ら異ならざるを得ず。例へば長期の貸付は短期の貸付に比し債務者の信用に動搖の機會多かるべく、又日濟の貸付は手形割引に比して手數煩雜なるを以て何れも前者は後者に比し自ら高利なるの類之なり。

景氣と金利との關係　今一般經濟界の景況と金利との關係を觀察するに、金利廉き時は事業を起すに利便多きを以て一般企業家を刺激して事業を計畫せしむるに至るべく、既にして好景氣の時期に入らば利潤愈々增大するを以て企業家は競ふて資金を求め、益々事業の新設擴張を行ふが故に自ら金利の騰貴を見るべし。市場の活況其極に達し、騎虎の勢、將に其度を超えんとする虞ゐるや銀行は更に金利を引上げ一方放漫なる貸出を戒めて事業の濫興を防遏すると同時に、一方事業界に向ひて警戒の鼓を鳴らし、投機を抑へ、以て恐慌を未然に防ぐの策に出づべく、既に恐慌の起るに際しては更に利上を行ひ以て貸出の制限を見るを常とす。

されば金利昂騰の原因には(1)資金需要の旺盛に依るものと、(2)銀行の警戒に依るものとの二あるが故に金利の騰落を以て直に生產の隆替に伴ふ資金需要の增減なりとは速斷すべからざるなり。

利子と利潤との關係　右述ぶるが如く利潤多ければ事業興起すべく事業興起すれば資金の需要從つて起らざるを得ず。茲を以て經濟上の發達迅速なる處にては利子は利潤に應じて動搖し、資金潤澤にして貸付資本多き割合に企業の利益少ければ利子は自ら安からざるを得ざるなり。故に利潤は利子の最高限度を示すものと謂ふべし。

金利と經濟的文化との關係　概論する時は金利は經濟的文化の高き國又は其方向に向へる國に於ては漸次低廉を示し、之に反する國に於ては概して高步を示せるを普通とす。

通貨と利子との關係　物價騰貴する時は從つて事業に要する資金を多からしめ物價低落する時は事業に要する資金も自ら少額を以て足るべし。然るに通貨の增減は通例物價の騰落を伴ふが故に自然資金の需要を上下し、通貨の增加は物價の騰貴を馴致し自ら資金の需要を多からしめ、通貨の縮少は物價の低落を誘致し資金の需要を少からしめ、結局資金の需要關係に變化を及ぼさざるを以て、理論上より云ふ

時は金利に影響を及ぼす事はなかるべきなり。されど一時的の現象としては通貨の増加は其過渡期に於ては貸出資金の増加を伴ふ事多く、從て其期間は物價の騰貴に伴ふ金利の騰貴の影響を抑へ、却て利子歩合の下落を見ること少からざるべく又既に物價騰貴して資金の需要を増し、其度合強大なる時は却て昂騰するを見るべし。再言すれば通貨の膨脹は理論上金利に影響する事なきも一時的には通貨膨脹に因る物價騰貴の勢が資金供給の力よりも大なる時に於ては金利の騰貴を見るべく、之に反する場合は金利の下落を示すものと謂ふべし。

金利歩合の種類　金利歩合は中央銀行の割引歩合と他の一般市中銀行に於ける第一流手形の割引歩合と區別し前者を銀行歩合 Bank rate 又は公定歩合 Official rate 後者を市場歩合 Market rate 又は私定歩合 Private rate と呼ぶ。前者は其變動頻繁ならざるも後者は金融市場の景況により常に變動して止むことなし。日本銀行は一般銀行の親銀行たるを以て其利率は市場利率の中心となり基準となり以て金融界に及ぼす影響の極めて重大なるはまた論を俟たざる處なりとす。

金利表に就き觀測すべき要點　金利表に就きて觀測すべき要點大略次の如し

日本銀行金利に就きては

貸付(國債抵當、國債以外保證)

手形割引(國債保證、國債以外保證)

商業手形(當所割引、他所割引)

當座貸越

定期預金

に亙り最近の歩合を前年の同期に於ける歩合と比較すべし

又東京及大阪に於ける組合銀行金利並に全國の平均利子を

貸付(證書貸付と手形貸付)

手形割引

當座貸越

に亙り最高、最低、平均の三者に就きて注意すべく、又定期預金の利子に就ても前記の貸出利子と共に最近の狀態を前年同期のものと比較し、以て全國金利の大勢を窺ふべし。

海外金融市場に對する著眼　資金は低利の地より高利の地に向ひて移動すること猶水の低きに就くが如し。されば之を妨ぐる事情だになくば外國の金利安きに拘らず單り內國の金利のみ高き時は資金は自ら外國より流入して金利を低落せしむるに至るべく、又外國に比し內國の金利安き時は利益を求めて資金は自ら海外に流出すべければ外國の金利騰貴は自然國內の金利高となることを意味すべく從て內地の金融市場に就きて著眼を怠らざると同時に海外金融市場の繁閑に就きても留意するを必要とす。

參考すべき海外金融市場の狀態は大約左の如し

倫敦金利週報――最近の狀況を前月、前年同期、前々年同期と對比し、バンク、レート日貸利子(最高と最低と)、市中割引步合(三ヶ月拂銀行手形、六ヶ月拂銀行手形、三ヶ月拂商業手形)、預金利子等に亙りて研究すべし

歐洲大陸諸市場金利週報――右と概ね同樣にバンク、レートと市中金利とを研究すべし。着目すべき重なる市場左の如し。

巴里、伯林、アムステルダム、ブラッセル、維也納、聖彼得倶羅士、馬德里、羅馬

紐育、桑港金利週報――紐育に於ては日貸利子、ブライムペーパー、二ヶ月及三ヶ月手形等に亙り最高、最低及平均利子を研究すべく、桑港に於ても割引步合、公債擔保商業手形等に關し其金利を前月、前年同期、前々年同期と對照研究すべし

金利と手形との關係　手形を有するもの之を銀行に就きて割引を求むるに當り當時の利率若し高からんには多額の割引料を差引かれ手取金少かるべく、之に反し利率若し安ければ少額の割引料を差引かるゝを以て其手取は多かるべし。此理を外國爲替に適用するも亦同じく金利安き時及處に於ては手形は高價に賣買せられ金利高き時及處に於ては自然手形は低價に賣買せらるべし。故に手形債權者は之を賣放つに當り低利なる市場及支拂地を選ぶは勢の免れざる所なり。斯くの如く市場の資金低利なる時は手形を呼び之を資金化するに利あるべきを以て手形は低利市場に集ること猶資金の高利市場に赴くが如し。戰前倫敦に世界の手形の集りしは他に諸種の理由あるも此低利資金の惠澤に浴せんとすることも亦其有力なる理由の一たりしを失はざるなり。(第七章第一節と照合せらるべし)

(參照統計)

▼金利平均表

年次	貸付（全國）	貸付（東京）	貸付（大阪）	割引（全國）	割引（東京）	割引（大阪）	當座預金（全國）	當座預金（東京）	當座預金（大阪）	定期預金（全國）	定期預金（東京）	定期預金（大阪）
明治五五	三・三一	二・八五	二・六〇	三・五九	三・六七	二・四〇	一・四八	一・五一	一・〇四	〇・六〇	〇・六六	〇・六七
四〇	二・七一	二・五五	二・二五	二・六五	二・一七	二・〇一	一・〇一	〇・八一	〇・五五	〇・五七	〇・五三	〇・五五
大正元	二・四五	二・一五	二・〇三	二・四一	一・九九	一・八七	〇・八八	〇・八六	〇・六一	〇・五二	〇・五〇	〇・五一
三	二・六九	二・四八	二・五五	二・七一	二・三一	二・一四	一・〇六	一・〇一	〇・八〇	〇・六二	〇・五九	〇・六〇
五	二・四三	二・二一	一・八九	二・二九	一・五七	一・四八	〇・七八	〇・五三	〇・四〇	〇・五二	〇・四一	〇・四〇
六	二・三二	二・〇二	一・八八	二・一七	一・六六	一・六二	〇・七四	〇・五六	〇・四三	〇・五〇	〇・四二	〇・四二
七	二・二七	二・〇四	一・八九	二・一五	一・七九	一・七五	〇・七八	〇・六九	〇・五一	〇・五二	〇・四〇	〇・四七
八	二・二七	二・二一	二・〇九	二・三一	二・〇七	二・〇一	〇・八六	〇・八六	〇・六六	〇・五六	〇・五五	〇・五七
九	二・九一	二・七七	二・六〇	三・〇五	二・八六	二・八九	一・〇四	一・〇二	〇・八四	〇・六六	〇・六三	〇・六四

▼各國銀行割引利率

日本	八・〇三%	英	三・六三%	獨	六・三一%	佛	三・〇八%	白	四・七一
典	四・八五	諾	三・四六	伊	五・七五	米	六・五八	丁	五・一三

▼列國中央銀行割引利率比較（一年平均）

	倫敦	巴里	紐育	伯林	ルアダムスタ	東京
大正八年	五・分 1/6	五・五 0	四・1/16	五・0	四・五	六・八
十九年	六・0 2/3	五・五 2/3	六・1/16	五・0	四・五	八・0

▼日本銀行利子歩合の一例　（大正八年十一月十九日改定）

商業手形割引歩合	二錢二厘
國債を抵當とする貸付利子及國債を保證とする手形割引歩合	二錢二厘以上
國債以外のものを抵當とする貸付利子及國債以外のものを保證とする手形割引歩合	二錢四厘以上
當座貸越及コルレスポンデンス貸越利子	二錢五厘
定期預金（一ヶ年）	三分

▼大阪銀行集會所組合銀行協定預金利率の一例　（大正十一年四月一日改定）

定期預金（六ヶ月以上）	甲六分以下	乙六分五厘以下
當座預金	甲六厘以下	乙七厘以下
小口當座預金	甲一錢一厘以下	乙一錢三厘以下

▼倫敦金利一例　（大正十二年十一月）　（倫敦エコノミスト誌に依る）

英國銀行金利	四%	銀行手形割引	三7/16—三5/8	大藏證券割引	三%
コールマネー	一—二	短期貸付	四7/16—一	銀行預金率	二

三ヶ月大藏證券の落札平均利子は英國市中金利の標準として知らる

▼紐育金利一例　（大正十二年一月）　（紐育ブラッドストリート誌に依る）

コール	五—四%	レニューアル	四3/4—四%	長期コール	五%
商業手形	五—四3/4				

第三節　通貨及信用の觀察

其一　通貨流通高

通貨の消長と物價との關係　貨幣數量說は幾多の缺陷を有すと雖も、概して通貨の膨脹は物價の昂騰を促し、縮少は其低落を誘ふものなる事は爭ふべからずする事實なり。茲に所謂通貨の膨脹とは貨物の量に比して購買力の增加する事にして、細說すれば購買力の增加が商品の增加を伴はず又商品の減少が購買力の減少を伴はざる場合の如き、何れも物價の騰貴を見るべく、之に反し通貨の縮少とは貨物の量に比して購買力の減少する事にして購買力の減少が商品の減少を伴はず、商品の增加が購買力の增加を伴はざる場合の如き何れも物價の低落を招くに至るべし。而して購買力の增減は概ね通貨の流通高と銀行預金高とに依りて測定せらるべく又銀行の貸出は之に依りて購買力を增加せしむるものなれば此點に就ても著眼を怠らざるを要す。

通貨流通高の研究　現時の如き信用經濟時代に於ては金融界研究の上に通貨として採算に入るべきものは啻に硬貨及紙幣のみならず、之に銀行預金をも加へざるべからずと雖も、正貨を準備の中心として兌換券は發行せられ、其兌換券を重なる準備として多額の預金通貨を發生するものなるが故に、兌換券の發行は正貨準備に關係する處多く、又預金通貨も一は支拂準備金に制せられ、一は顧客の資力に自らの限度ありて、無限に擴張し得べきものにあらざれば信用の基礎は究極に於て中央銀行の保有する正貨なりと云ふを得べく、從て正貨のみを見て現代の通貨を律すべからざると同時に、信用經濟時代なればとて漫に正貨を輕視すべきにあらざるなり。

通貨流通高は官報記載の數字及日本銀行兌換券週報を基礎として計算する事を得べし。即ち

イ、金貨補助貨の合計
ロ、兌換銀行券發行高
ハ、右合計

右の內「イ」は硬貨發行高より官報に記載されある鑄潰高、純輸出高、小額紙幣引換準備、日本銀行兌換券準備、臺灣銀行券準備に充當高を控除し、舊金貨は倍位に計算すべく

「ロ」は兌換劵發行高中日銀兌換劵にして小額紙幣引換準備及朝鮮銀行正貨準備に充當高を控除して計算するを可とす。

（參考統計）

▼通貨流通高　（單位千圓）

（年次）		（年次）	
大正三	三八八、一八九	大正七	一、四三二、六三四
四	六三二、五三六	八	二〇、三二、六〇一
五	八四〇、三一九	九	一、九六八、〇九八
六	一、一二五、一四三		

（此年五月以降硬貨の流通高は發表せざることゝなる）

（此以後は前項「通貨流通高の研究」の計算にて算出せざるべからず）

其二　正　貨

正貨存在高　正貨Specie存在高の消長を知らんと欲せば先づ(一)金の現存額、(二)金の產出額、(三)金の流出への三者に就きて研究を遂げざるべからず。

金の現存高　我國金貨の所在場所は日本銀行の發行準備としての正貨、大藏省預金部の殘金、各種の剩餘金、國債整理基金の大部、國庫の非常準備金、民間に流通せる金貨等にして海外に保管運用せるゝもの所謂在外正貨亦其額少からず。

金の產出額　世界に於ける金の主要產地は南阿弗利加、米國、濠洲、露西亞、加奈陀、墨西哥、英領印度等にして就中南亞トランスバールを以て最とし之に亞ぐを米國及濠洲とす。かくて英國の產金額は世界全產額の七割を占めて世界最大の產金國たるの位置にあり。亞弗利加及濠洲の金は一旦英國へ輸出せられたる後更に各國に輸送せらる。倫敦が戰前世界的金の自由市場たりしは之が爲なり。金の產額は財界の關係によりて著しく左右せられ好況時に於ては物價騰貴するを以て金の採掘は不引合となり(物價の騰貴は即ち金の價格の下落なればなり)採掘費の增加と相待つて金產額の減退を表はすべく、不景氣の時は事情全く之に反するを以て其產額は增加を見るは自然の道理なり。

本邦の金產額は一千萬圓內外にして其大部は金貨に鑄造せられ、裝飾具は主として海外よりの輸入品を用ふ。

金の流出入　正貨の流出入は Specie Movement 又は Gold Movement と稱し其原因三あり。

一、金銀の產出上の關係

二、國際貸借上の關係

三、金利關係

之なり。

第一の金銀の產出上の關係とは新鑛山の發見採掘權等の關係にして別段に論を要せず。第二の國際貸借上の關係に就ては重なるもの次の如し。

イ、輸出入貿易の關係

ロ、有價證券の賣買・募集・償還

ハ、在外有價證券の利拂

ニ、外國旅行者の失費、出稼人の送金

ホ、運賃及保險料其他諸種の手數料

ヘ、外國に於ける事業に對する支出、收入

右の內一國が外國より收入する運賃保險料を算定する事は甚だ困難なるも、ウキザース氏の所說に從へば世界各國の輸出總額と輸入總額との差を各國商船の噸數により按分比例にて算出する事を得べしと云ふ。蓋し各國共輸出額は運送中の諸費を加算せざる本船渡値段f.o.b.によりて算出せられ、輸入額は運賃、保險料込値段Cif.によりて計算せらるゝを普通とするものなれば、此兩者の差額は實に各國に於て支拂はれたる運賃保險料の總額なるが故に之を各國所有船舶噸數に按分すれば其國の運賃保險料收入の概算を得べしと云ふなり。

第三の金利關係に就ては、既に記すが如く資金は常に低利の處より高利の處に向つて動くものなれば金利の高き國は自ら正貨の流入を來すべく、此事實は單に資金貸借上のみに依らず、有價證券の賣買によりても亦盛に移動を見るべし。何となれば金利高き市場に於ては有價證券の市價從て低かるべきを以て、此地の有價證券は自ら去つて金利安き市場即ち有價證券の市價高き地に送りて賣却せらるべく、自ら正貨の流出入に關係を生ずるに至るべきなり。

正貨減少の影響　一般世間には一定量の通貨を要するが故に正貨減少する時は日本銀行に對する預金を減少すると同時に日本銀行の貸出增加するを以て金利從て昇騰す。然るに日本銀行は無制限に貸出を爲さゞるが故に通貨の總量は容易に民間の要求する額に達せず、金融は緊縮を示すの止むを得ざるに至る。

金融の形勢漸く緊縮(時には險惡に傾くや、銀行家は急に貸出を警戒すると共に預金利率を引上げて極力資金の吸收に努むるに至り從て愈々其緊縮の度を增すに至るべし。

正貨吸收の方法　されば正貨をして一定の程度以上海外に流出せしめず國內に之を保有する爲めには、左に掲ぐるが如き所謂正貨政策なるものを行ひ、其海外流出を防ぐ場合少からず。

1. 正貨輸出の禁止又は制限
2. 正貨輸出運賃の引上
3. 兌換停止又は制限(兌換に手數料を徵するの類)
4. 金を以てする預金に高率の利子を附す
5. 金の高價買入
6. 證券動員一般の所有する外國證券を集め之を海外に賣放ちて正貨の流入を圖る方法)
7. 外債の募集
8. 爲替相場の調節(低利資金の貸出等)
9. 金融手形の利用(例へば上半期輸入超過の爲外國に對する送金の申込多く正貨の流出を促すべき勢にありとするも、下半期に於ては輸出超過の見込充分立ちて將來爲替關係の調節さるゝ事明かなる場合に銀行が一時金融の目的を以て尙盛に爲替手形を振出し送金爲替の依頼に應ずるの類)
10. 金利の引上
11. 產業の助成

正貨流入の利害　正貨の流入は準備の增大を促し、資金の供給を誘ひ、產業の發展を助くるの效大なりと雖も一方に弊害なき能はず、即ち一時に多額の正貨流入を見る時は爲に物價の奔騰を來し貿易の硬塞を馴致し、遂に恐慌を起すに至る虞ある事之なり。

在外正貨の性質　在外正貨 Specie abroad とは國際貸借の決濟上正貨の輸出入に代へて何時にても支拂に充て得べき狀態に於て外國に保有せらるゝ資金を云ふ、而して其目的が利殖にあらざる點に於て後に述ぶる對外放資 Oversea investment と其性質

を異にする事に注意すべし。されば在外正貨たるべきものは左の如き三條件を備へざるべからず。

一、其所在地が國際貸借決濟の中心市場たるか、又は特に多くの支拂をなすべき必要ある市場なること

二、何時にても支拂に用ゐらるゝ事

三、政府又は中央銀行の如き公益を目的とする機關によりて保有せらるゝこと

在外正貨には政府の所有に屬するものと日本銀行の所有に屬するものとの二種あり。政府の在外資金は一旦日本銀行へ政府預金として編入せられ、日本銀行は更にこれを在外代理店の勘定にうつし、或は預入或は寄託として海外に保管運用するなり。

在外正貨增減の影響　在外正貨の增減は海外に於ける本邦財政の信用に影響するを以て自然我公債の市價に反響すべく、爲替資金の關係上對外貿易にも波及すべく、又兌換制度の基礎にも少からざる關係を有すべし。例へば輸出超過等の爲め爲替關係順となり爲替相場受取勘定に於て著しく騰貴し、採算上我輸出貿易は甚害を蒙るに至り、將に正貨輸入點に到達せんとする際、之に先ちて在外正貨を買取り、之を以て正貨の輸入に代ふる時は以て爲替相場を調節し貿易上に與ふる利益頗る大なるべく、又外債は急に之を輸入する時は正貨の急激なる流入に依る不利あるを以て一旦之を在外正貨として保有し置き徐々に輸入するが如き其運用の利益二三に止まらざるなり。

在外正貨增減の原因　在外正貨の增減を來す原因は概ね左の如し。

1. 外債の募集及償還
2. 市外債又は社外債の募集及償還
3. 外債、市債及社債の利拂
4. 貿易の入超及出超
5. 製艦費及同材料等購入費の支拂
6. 正貨の現送及取寄等

（此外に爲替相場の換算率變更は邦貨の名稱を以てする在外正貨の額を增減せしむるものなり）

（參照統計）

▼正貨在高　（單位百萬圓）

（年次）	（總額）	（內地）	（海外）	（年次）	（總額）	（內地）	（海外）
大正三	三四一	一二九	二二三	大正八	二、〇四五	七〇二	一、三四五
四	五一六	一二七	三七九	九	二、一七九	一、一七〇	一、〇二二
五	七一四	三二八	四八七	一〇	一、〇八〇	一、二二五	八五五
六	一、一〇五	四六一	六四三	一一	一、八二〇	一、二二五	六一五
七	一、五八八	四五三	一、一三五	一二	一、六五三	一、二〇八	四四五

（正貨在高は大正十三年一月以降發表を停止せらる）

▼世界の金產額

（年次）	千磅	（年次）	千磅	（年次）	千磅	（年次）	千磅
一八九三	三二、〇〇〇	一九一五	九六、〇〇〇	一九一九	七五、〇〇〇	一九二一	六六、〇〇〇
				一九二〇	七〇、〇〇〇		

右の內、美術工業用として用ゐらるゝもの歐米にては二割三分八厘、東洋（主として印度）にては一割八分七厘なるが故に世界に於て貨幣として用ゐらるゝものは殘りの五割七分五厘なり

▼トランスバールの金產額（一九二一年）八、三八、七三三オンス　三四、五四七千磅

▼米國の金產額（一九二一年）二、四〇一、〇〇〇　九、七九五

▼輸出入金銀價格表　（單位千圓）

（年次）	輸出	輸入	超過	（年次）	輸出	輸入	超過	（年次）	輸出	輸入	超過
四	四四、五六六	二、一九七	出二〇、二七〇	七	九三八	五、〇一八	入四、〇七八	一〇	〇	一三八、六二三	入一三八、六二三
五	二八、〇七九	一〇一、〇二〇	入七二、九四〇	八	五、一五四	三七、四七七	入三二、四二三	一一	二、一八二	一、六四二 出	五一〇
六	一五五、七三六	三九二、三三五	入二三八、四八九	九	三、八九七	四〇四、七一七	入四〇一、八二〇	一二	五、四九六	一八 出	四、八二三

其三　紙幣

兌換券發行高の觀察　兌換券は正貨を基礎として發行され、其分量に於ては實に我國內通貨の大部分を占むるものなるを以て其消長に就ては特別の注意を拂はざるべからず。

兌換券發行高 Actual Note Issue に就て承知すべき項目概ね左の如し。

日本銀行兌換券

發行高、正貨準備高、保證準備高（國債、政府證券、大藏省證券、證券、商業手形の額）

制限外發行高又は發行餘力

臺灣銀行券

發行高、準備（金貨及金地金、保證準備（諸證券、商業手形の額）

朝鮮銀行券

發行高、準備（金貨及金地金、日本銀行券の額）、保證準備（政府證券其他の額）

而して之等の消長を知らんには常に前年前々年等に遡りて同時期に於ける流通高

若くは發行高と對照考察するを必要とす。

凡そ經濟界の殷盛を呈する場合には銀行に對し貸出を要求するもの增加すべきを以て自ら兌換券の增發を見るに至るべく、又輸出貿易の著しく增加する場合に於ては爲替銀行は手形買入の資金として中央銀行より貸付を仰ぐべく、商工業の發達は事業計畫の膨脹を促すべく、何れも兌換券增發の因をなし、商工業者消費の增大は益々其勢を助長するものあり、概ね信用の膨脹と相俟つて增發を示すに至るべきなり。されば兌換券增發の過大なるは財界景氣の頂點として警戒を要するなり。若し夫れ一たび恐慌の起るや其程度の大なれば大なるだけ兌換券の增發も亦自ら大ならざるを得ず、此增發は財界の衰退に伴ひ漸次回收せらるゝは論を俟たざる處なれば其回收の速度と程度如何によりて財界爾後の回復も亦豫想せらるべきものとす。

又政府が財政の必要上公債を發行し、之を一般市場に募集せず、中央銀行をして引受けしめ、其應募金に對し兌換券の發行を許すが如き場合も亦增發の原因をなすべし。

不換紙幣と其影響　不換紙幣 Inconvertible paper money と雖も發行者最後の信用に疑なく、發行額一國の通貨需要高に超過せずんば一時の原因が異狀の作用をなすの外漫りに其價格の下落を見るものにあらずと雖も、正貨の如く自然に屈伸張弛する力なきを以て、其一たび增發せらるゝや紙幣の價格忽ち下落して金紙の間に開きを生じ、物價は爲めに騰貴し、投機は勃興して驕奢增長し輸入超過して實業衰へ、利率上騰して取引澁滯する等の諸弊を釀成し、經濟界に不利の影響を與ふること擧げて數ふべからざるなり。

（參照統計）

▼日本銀行兌換券發行高

（年次）	千円	（年次）	千円	（年次）	千円
明治四一	三五二、七三四	大正八	一、五五五、一〇〇	大正一一	一、五三七、五九〇
大正二	四二六、三八八	九	一、四四九、二四〇	一二	一、七〇三、五九六
七	一、一四四、七三九	一〇	一、二三二、九一四		

▼日銀兌換券發行高種類別（大正十年九月マデ）

	千円		千円
一圓	五〇、六六〇	二十圓	一三二、一五五
五圓	二七八、八三五	百圓	一六〇、五四五
十圓	六三〇、六四八	合計	一、二三二、九一四

第四　手形交換高の觀察

手形取引の分量　既に述ぶるが如く、金融界研究上の通貨としては貨幣及兌換券の外に銀行預金即ち預金通貨をも數へざるべからず。而かも其分量より見る時は此預金通貨第一位に居り、兌換券之に次ぎ正貨は更に之に次ぐべし。或經濟學者の統計に依れば英米の諸國に於ては代價支拂總額中の九割二三分は小切手によりて行はれ、我國にても商業都市に於ては支拂額の七割以上は小切手を用ゐられ居れりと云ふ。斯くの如き小切手即ち預金通貨流通額は畢竟信用の計量たるべき數字にして其測定の標準は之を手形交換高 Clearings に求めざるべからず。

（參照統計）

▼最近十ケ年全國手形交換高

（年次）	（交換高）	（年次）	（交換高）
	百万円		百万円
三	一〇、一六九	八	七六、四二七
四	一一、六二八	九	七三、三五六
五	一〇、一二六	一〇	六七、四四三
六	三一、七四〇	一一	七〇、九一八
七	五三、一三六	一二	六七、九六七

交換高の消長と市場景氣との關係　手形交換高の消長を研究せんには常に其枚數金額及一枚平均手形金額を毎年の合計高、最近各月の統計、前年同時との比較等に就きて調査するを要す。蓋し手形交換高は取引の分量と資金の回轉とを示すべきものなるが故に、財界の景氣と手形交換高とは相伴ひて上下するものなり。即ち市場活況を呈し、商情好調を示す場合に於ては手形交換高は繼續して堅實なる增加を表はし、不景氣の時代に於ては交換高は自ら減少を示さゞるを得ず、恐慌前景氣の頂點に在る時は交換高亦不眞面目なる膨脹を見るべく恐慌後にありては信用萎縮し手形取引の減退を免れざるが故に交換高の減少も亦著しきものあるべし。されば久しき不景氣の後に於て手形交換高の漸く擡頭し來るは以て景氣恢復の兆と見るを得べく又交換手形一枚の平均額が增大するは取引の大量となりたると信用の膨脹せるとを示すものと云ふべし。されど交換高の消長は單に數字の變化にのみ拘泥することなく、物價の騰落、組合銀行の增減を常に考慮に加へ置かざるべからず、何となれば物價騰貴する時は取引物品の數量に於て增加をざるも交換高は數字に於て增大すべく、又銀行の合併等によりて組合銀行減少する時は取引數量に變化を見ざるも交換高の減少を示すこと少からざればなり。

株式市價と交換高との關係　元來株式市價と手形交換高と普通市況とは通常相

伴ひて上下するものにして、之を基本的に言ふ時は(1)株式市價先づ上りて(2)手形交換高の增加之に追隨し(3)續いて市況漸く活況を呈するの順序にして、之に反する場合は、通常(1)株式市價先づ下落し次で(2)手形交換高の減少を見、續いて(3)市況の不味を現はすものと知るべし。何れにしても右の三者は互に相伴ふを普通とするも、手形交換高の急激突飛なる增加は財界の不眞面目に傾けるを語るものにして警戒を要するものとす。

決算日と手形交換高との關係　手形交換高が株式受渡日、決算日等に於て增額を示すは見易き道理にして倫敦に於ては手形に三日間の恩惠日を與ふる商習慣あるが故に手形交換高は毎月其第三日に於て俄然增加し、又公債其他主要なる株券社債券の利子配當の支拂日に於て增大するが如く經濟界活動の狀態は適切に數字之を示せり。

手形交換高に關する研究の一例　手形交換高に關する研究の一例を擧げんに、大正九年四月は歐洲戰後經濟界の大反動ありし月にして、同年の後半期は財界の最も振はざりし時なりき。今其交換高を見るに

大正九年全國（十三箇所）手形交換高

（月）	（枚數）		（金高）	
	千枚	前年ニ比シ增減歩合	百萬圓	前年ニ比シ增減歩合
一	二,〇〇八	增 一,二四六	七,二一〇	增 一,四三九
二	二,一四一	增 一,三三四	七,八九九	增 一,五九三
三	二,五四〇	增 一,四〇〇	九,三八六	增 一,七六四
四	二,二三二	增 一,九六	七,五二二	增 一,四二〇
五	二,一二七	增 〇,〇三三	六,五七五	增 一,一二一
六	二,〇三八	減 〇,一一九	五,六四三	減 一,一五三
七	一,九七三	減 〇,一三三	四,八七六	減 一,二四二
八	一,七七六	減 〇,九九	四,六四一	減 一,二五六
九	一,九五七	減 〇,〇三六	四,六六九	減 一,三一八
一〇	二,〇一二	減 〇,〇六〇	四,四九七	減 一,三七二
一一	二,一四九	減 〇,一四七	四,九〇九	減 一,三四七
一二	二,六〇二	減 一,一二二	五,九二七	減 一,二八三
計	二七,五〇〇	增 〇,〇四〇	七二,七二四	減 〇,〇四〇

にして三月迄は其前年同期に比し金額に於て六七割、枚數に於て三四割の增加を示したりしが、打擊後は頓に其增加率を減じ六月以降に至りては前年同期に比し金額に於て二三割、枚數に於て二分乃至一割の減少を示すに至れり。而して其原因とする處は大約左の如きものありしなり。

1. 商工業の不振　各種重要商品の市價暴落し、商業萎靡を極め、從て取引の金額を減少せること。

2. 株式取引の減少　有價證券市價の崩落及其取引の減少せること。
3. コール取引の減少　五月末頃より銀行の支拂停止續出しコール取引一時杜絶せること。
4. 貸出の引締　各銀行が新規貸出を控へ、却て其回收を圖れる事。
5. 組合及代理銀行の減少せること。

又一年を通じて其增減率を地方別に見るに

東京	減 〇·〇八	大阪	增 〇·〇九
神戸	減 〇·一三	京都	增 〇·〇三六
横濱	減 〇·一五六	名古屋	增 〇·〇二
小樽	減 〇·一三七	札幌	增 〇·〇六八
關門	減 〇·〇三二		

依之觀之、減少割合の最も甚だしかりしは横濱にして小樽・神戸・函館・東京之に次げり。之れ四月以後の財界混亂と共に前年來巨額を算したる各種輸入約定品が其著荷に先ちて解約若くは轉賣され、其著荷せるものも金融硬塞、作業休止狀態の爲め引取を拒めるものあり。輸出品亦海外に於ける同樣の事情にて荷捌不良の爲め各開港場は一時取引杜絶し、多量の滯貨を見たる爲め自然貿易場所在の手形交換高に前記の如き打擊を與へたるものなりと知るべし。

又株式取引高の消長と對照するに左の如き激減を示せるを見る。

東京株式取引所株式定期取引高

大正七年下半期	一、七六六	百万円
同八年下半期	三、九五四	
同九年下半期	一、〇〇四	

以て兩者關係の實際に相因果するの一斑を知るに足るべし。

不渡手形の觀察　手形交換高を知ると同時に研究を怠るべからざるは不渡手形 Bills dishonoured の枚數、金額及其振出人の職業等なりとす。金融圓滑にして企業の利潤多き時代に於て不渡手形の極めて少く信用に動搖を來し金融疏通を缺く時機には其額勢ひ多きを免れざるなり。

統計の示す處に依れば

不渡手形

	(東京) 枚數	金額	(全國) 枚數	金額
大正三	六四〇	二五四千円	二、三二一	八三八千円
四	一四〇	一七〇	一、四一九	四五五
五	三四四	一一〇	一、三八一	三四二
六	三九六	二六二	一、一五〇	六〇一

七	四二〇	三三五	一、五八七	一、三七八	
八	五五九	六七〇	二、三五四	二、四七三	
九	六五〇	一、一二一	四、五六七	六、六二五	

大正七八年の頃、全國の統計に比し中央市場たる東京に於ける不渡手形の增加率特に著しかりしは當時既に財界が警戒時期に入り居りしを暗示せしものと云ふを得べし。

（參照統計）

▼大正九年不渡手形

月	枚數	金額 千円	月	枚數	金額 千円	月	枚數	金額 千円
一	一八三	一五〇	六	六四五	一、一二一	十一	二五五	二九八
二	二〇二	二三六	七	四一四	五五七	十二	三二二	三四六
三	二二五	二四一	八	二九五	四二〇	計	四、二四一	六、三〇〇
四	四一九	八五九	九	二四一	二三七			
五	八〇七	一、四七六	十	二二三	一六九			

（打撃のありたる四、五、六月に於ける不渡手形の著增に注意すべし）

▼倫敦及紐育手形交換高

	（倫敦） 千磅	（紐育） 千弗
大正八	二八、四二五、三九二	二三五、八〇二、六三五
九	三九、〇一八、九〇三	二四三、一八五、〇一五
一〇	三一、九二〇、五五九	一九四、三一一、二二〇
一一	三七、一六一、四六一	二二七、九二〇、五八六

第四節　銀行諸勘定の觀察

銀行の貸借に對する著眼　曩に述ぶるが如く銀行の預金貸出は購買力測定の要點にして經濟界の消長變遷は悉く銀行帳簿の上に反映し、その營業統計は財界觀測上重要なる憑據を與ふるものなりとす。就中(1)貸出、(2)預金、(3)準備金に關しては特に研究を集中せざるべからず。

交換所組合銀行の週報は之によりて諸種の統計を求め得べく、其金額の消長及割合に著目し

イ、預金に就ては定期預金高、當座預金高、特別當座預金高、諸預金高、以上の合計高

ロ、貸出に就ては貸付高、當座貸越高、手形割引高、以上の合計高

ハ、有價證券所有高

ニ、現金保有高

の外、爲替取組高及支拂高、荷爲替取組高及取立高、他所割引手形及代金取立手形取組高及取立高等に關して前月と對比し前年同期前々年同期と比較して其消長の趨勢を觀察すべし。

全國銀行の貸借對照表合計高に就き預金を一〇〇として貸出高有價證券在高の指數を算出し之を前期又は前々期と對照する事も亦有力なる觀察の方法なり。

經濟界の消長と銀行の勘定　經濟界の穩健なる狀態に在りては預金も貸出も其割合多きに過ぎず少きに失せず、互に適當なる比率を保ち、且つ適當の準備金を有し居らざるべからず。

不況の終期に於ては尙當座預金及手形割引の增加を見ざるも一般の貯蓄は定期預金又は通知預金等となりて表はれ其增加率は貸付の增加率よりも著しきも事業界好況を呈すれば事業の旺盛に伴ひて資金の需要多く從つて貸出高の增加著しく、預金額の增加率を凌駕するに至り、預金特に定期預金の如きは自ら減退せざるを得ず、準備金の步合非常に低下するを以て、銀行は金利を引上げて預金を招き貸出を抑制すべし。此貸出引締による金融の硬塞は遂に恐慌の端を發くに至る。不況期に於ては事業沈衰の爲資金の需要を見るに至らず貸出の高從て減少し各人の貯蓄は漸次預金の增加となりて準備金の割合增加して金利は低落し再び好景氣時代を準備するに至る。

されば事業界活況を呈せる時代に於て、總資產勘定準備金及預金に對する貸出の割合著しく增大するは好況既に其頂點に達し、漸く不健全の狀態に近づけるを暗示するものにして其膨脹急激なる時は、特に最も警戒を要すべし。

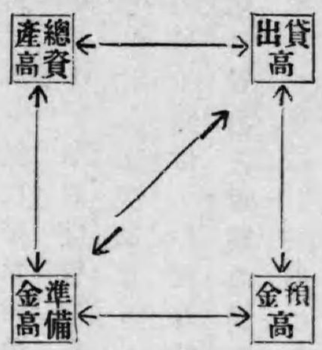
斯の如く貸出高の過大なるは事業界過度の膨脹を告ぐるものにして危險なる現象なりと雖も其過少なるはまた企業界不振の證左にして喜ぶべきにあらず。不況時代の後に貸出高の漸く擡頭し來るは正に景氣恢復の機運に向へるものと判斷するを得べし。預金貸出の一斑は全國銀行勘定によるも重要都市の銀行勘定によるもまた日本銀行週報によるも其大要を知るを得べきなり。日本銀行の民間に對する貸出は其貸借對照表中外國爲替貸付、割引手形、貸付金の合計に就て見るべし。

支拂準備金と金融の張弛との關係　信用は正貨を受取るの權利なるが故に其權利を保證する所の銀行は必ずや相當の準備金を備へ置きて之が信用を維持するを

要す。然るに資金の需要增加せば貸出盛となるを以て支拂準備金の預金に對する率は減少するを免れず、依て銀行は之を調節せんが爲めに金利を引上ぐべく、又若し資金の需要減退せば貸出の減少となりて支拂準備金の預金に對する率は增加する傾向あり、從て銀行は之を捌かんが爲めに金利の引下を行ふべし。故に銀行支拂準備金の增減は資金需給の重要なる計量器にして、準備金の增減と金利の高低とは反比例する傾向ありて、何れも金融界の繁閑を有力に表徵するの具なり。例へば不景氣にして事業の興らざる時期には準備金の預金に對する率大なるべく、漸く其減少を見るは景氣回復の曙光と見るべく、又好景氣の極支拂準備金の枯渴するは景氣の頂點に達したる一信號なりとす。

預金貸出現金有高の比率に對する著眼點　又預金貸出手許現金有高の三者に就て見るに預金額に對する貸出高の比率と、貸出額に對する現金手許有高とを比較し若し後者の線が前者の線よりも上にある時は金融は緩漫狀態に在るを示すものとなす。

故に銀行の諸勘定により景氣の循環を測定するには大凡左表の如き相互關係に着目するを可とす。



預金貸出の內容　貸出されたる資金は多くは一時當座預金の形をとるべし。諺に「銀行の貸付は銀行の預金を造る」と云ふ事あり。されば預金の增加のみを見て直ちに金融界は緩漫なりとは斷ずべからず。必ずや貸出又は準備金等との諸關係に著眼せざるべからず。例へば預金增加するも貸出の增加せざるは金融緩漫の現象なりとすべく、又等しく預金の增加と云ふ中に就きても其增加が定期預金にあるや當座預金にあるやに就きても研究を要すべし。

當座預金高と定期預金高の消長　預け主にとりて當座預金は活動中の資金にして、定期預金は當分活動を休止せる資金なり。故に當座預金の增加が定期預金の增加よりも著しき場合は經濟界に資金の動き初めたる時機にして金融の引締りを豫報するものなり。之に反し當座預金の增加著しからずして定期預金の增加甚しき

時は資金が休止の狀態に向ひつゝあるを示すものなれば金融界一般に閑散を告ゞるものと見做すを得べく又久しき不景氣の後に定期預金の漸く增加し來るは國民貯蓄の增大を示し景氣回復の前提をなすものと謂ふべし。定期預金は財界前途の景況を豫告すると云ふは即ち之なり。されど金融著しく緩漫にして金利格外に低下せる場合に於ては資金は銀行の預金を去つて公債社債等の有價證券に向ひて放資さるべければ之が爲め却て定期預金高の減少を見ることありとす。抑々銀行の貸借對照表を見れば當座預金の反面は割引手形にして定期預金の反面は貸付なるを知るべし。されば當座預金高と手形割引高は相伴ひて消長し其額も亦定期預金及貸付に比して少額なり。されば金融界の大勢は特に大なる關係を有するものは定期預金と貸付との相互消長に在りて存す。

長期の貸出と短期の貸出　貸出に長期のものと短期のものとあり。此兩者は資金の源泉を異にし、長期の貸付は長期の預金又は社債に依らざるべからず、短期の貸出は短期の預金に依らざるべからず。又長期貸付は其返濟を受くる際に於ける市場資金需給關係の著しく相違して貨幣の購買力に差を生じ居る場合あり、且つ長期に亙るを以て債務者の身上に異變の起り得る機會多く、從て長期貸出は短期のものよりも高利率なるを普通とすべく、又短期の放資は金利變動の影響を受くること頻繁なるも長期の放資は其影響割合に著しからず、之に反し最も短期の貸出たるコール、ローンは金融界の張弛に伴ひ一進一退切實に目前財界消長の感應する處となり、特に其翌日物は最も敏感に經濟界の現狀を語るものなり。

コールの種類　コール・マネーには左の如き種類あり。一口は大抵十萬圓以上にして其取引は日々の交換尻を知り得る午前十一時頃に多しと云ふ。

1. 翌日物＝翌日に支拂ふべきもの
2. 無條件＝別に條件なきも返濟にも返濟要求にも普通前日に通知を要するもの
3. 條件付＝一週間据置或は何日拂とするもの
4. 普　通＝一週間据置にして其以後は前日の通知を要するもの（東京のみに行はれ大阪には行はれず）
5. 月　越＝月末を超えて翌月に亙るもの（之に無條件と條件付とあり）
6. 三十日物、六十日物、九十日物、六ヶ月物

コールの利鞘　利子は短期のもの程安く、長期のもの程高きを普通とし、金融界平

調の場合に於ては翌日物と六十日物との間には利鞘一錢乃至一錢二三厘位を存するを最大限度となす。然れ共時としては逆鞘を生ずることあり、これ現在に於ては資金の逼迫を告ぐるも一定期間經過後は常態に復し金融の緩和さるべき見込ある場合にして長期物は現在の高率と數日後の低率とを平均するが故に、其利子歩合は却て翌日物よりも低率となる譯なり。かくの如き逆鞘は目先金融の最も繁忙なる月末と月初に於て現はるゝを通例とす。又公債の募集に當りては應募者は銀行預金を引き出すを以て自らコールの騰貴を來すを免れざるべし。

金融緩漫時代に於けるコール毎月の狀態　一ヶ月中に於て月末は商取引決濟の爲め金融界繁忙を呈し、翌日物は二錢五厘より三錢迄も騰貴し、月を越す時は需要激減し一日毎に一厘内外場合により三厘位宛低落し、中旬頃は日歩一錢を割るに至るを常例とす。

コール利率の季節的變動　又之を季節に就きて見るも三月及十月末は納税期に當り、六月末及十二月末は勘定決濟期竝に株式配當期に當り、六月は春繭の製絲資金を要し、七月中旬及八月は盆節季に相當し二百十日前後は米穀投機資金として何れもコールの騰貴を見るべし。

コールと一般利子との利鞘に關する著眼點　コールと一般利子との間に大なる鞘開きある間は未だ資金の需要なきを示し、其鞘の接近するは資金の需要漸く起りたる證左なり。何となれば不景氣時代に於て其不景氣の未だ極點に達せざる間にありては銀行は未だ貸付利子を引下げざるも多くの資金を無爲に堆積するの不利を避けんが爲め、低利を忍んで之を運用せんとするを以て自からコールと一般利子との間に鞘開きを大ならしむべく、事業漸く活氣を呈し資金の需要漸次多きを示す時は低利のコールに向つて需要先づ起り、一般利子との鞘を縮むるに至るなり。又期に亙りて金融に異動なきを知るも株式受渡の際の如き當面の必要に驅られて一長時受渡資金の需要多き場合の如きコールは著しく騰上を示すべし。此場合手形交換高の增加を見るも亦普通の現象なり。

▼コールの利率平均（自大正九年十二月至大正十年十一月平均）

	翌日物	六十日物		翌日物	六十日物		翌日物	六十日物
一	一〇、〇厘	一六、五厘	三	一四、〇厘	一六、五厘	五	一三、〇厘	一六、五厘
二	一七、二	一六、五	四	一三、〇	一六、五	六	一三、一	一六、五

日	翌日物	六十日物	日	翌日物	六十日物	日	翌日物	六十日物
七	一三、五五	一六、五五	一五	一八、六	一五、五五	二三	六、九	一六、〇
八	一二、四四	一六、五五	一六	一八、五五	一五、五五	二四	七、三	一七、〇
九	一二、四四	一六、〇	一七	一八、三	一五、〇	二五	九、一	一七、五五
一〇	九、四四	一六、〇	一八	一八、一	一五、〇	二六	一三、四	一七、五五
一一	八、八	一六、〇	一九	八、〇	一五、六	二七	一七、八	一七、五五
一二	八、二	一六、〇	二〇	七、五五	一五、五五	二八	二一、〇	一七、五五
一三	八、七	一六、〇	二一	七、三	一五、五五	二九	二三、五五	一七、五五
一四	八、六	一六、〇	二二	七、六	一六、〇	三〇	二四、四	一七、五五

▼金利週報の一例（大阪）（大正十二年三月上旬）

	最高	最低
コール翌日拂	二三〇毛	一八〇毛
コール無條件	二一〇	一八〇
月越	二一〇	一九〇

		最高	最低
紡績手形		二三〇毛	二一〇毛
商業手形		二二〇	二一〇
擔保附手形	（一七）		二一〇

▼東京市場平均金利表（大正十三年二月上旬）

コール翌日物	二二〇毛	二一〇毛
コール普通物	二一〇	二一〇
紡績手形普通物	二二〇	二二〇

商業手形 同	二二〇—二二〇毛	
擔保附手形 同	二二〇—二二〇	

紡績手形と生絲資金　紡績手形とは綿絲棉花擔保の手形にして特に大阪に於て盛に流通し金融市場に於ける第一流手形として最も尊重せられ、時には大藏省證券よりも低歩を以て割引せらるゝ事あり。ビルブローカーはコールを此の種の手形に放出し、其差額五毛乃至一厘を益す。又金利表に生絲資金とあるは製絲家が繭の買入資金を得る爲めに振出す手形を云ふなり。

不動産貸付　不動産貸付は期限長きに亙り、貸付に手數を要し、貸付金額も普通大なる上に回收時に甚だ容易ならざるが故に其利率は割引歩合よりも高し、尤も金融界一時動亂し、資金の逼迫甚だしき時は短期資金に對する需要著しく增加し、割引歩合從て甚しく上騰する事ありてかゝる際にも不動産貸付の利子歩合は俄かに昇騰するものにあらざれば割引歩合よりも低利にあることあり、又恐慌事變等の際に於ては人々何れも危惧の念に馳られ凡ての放資を手控へするものなりと雖も、不動産抵當貸付は比較的安全確實なるが故に右の如き場合に於ても尙之に資金を投ずるものあり、從て其利子歩合は反て安き事なきにあらず。

▼日本銀行營業週報の一例（大正十二年九月）

◎負債之部

資本金	六〇、〇〇〇、〇〇〇円	
積立金其他株主勘定	七八、九六三、二八二	

◎資產之部

拂込未濟資本金	三、五〇〇、〇〇〇円	
割引手形	五一五、六六三、二四九	

兌換券發行高	一、四六〇、一〇九、七八〇
小額紙幣準備寄託	九〇、〇〇〇、〇〇〇
政府預金	八八、〇六〇、六六一
他店借	一七〇、六八六、七八三
本支店間未達勘定	八、九六三
	三三、二三一、一〇七
合計	二、七六六、三六六、五五七

▼全國銀行貸借對照表

資產之部

公稱資本金	二、七六七、二八三
本支店勘定	一、八九八、一三四
兌換券	一、七三三、〇四九
債券	一、〇三三、六八二
諸預り金	一〇、四二八、一九六
再割引手形	二〇六、一五七
他店ヨリ借	三四六、一九四
借入金	一、〇九二、八二四
各種勘定	一、三四七、六六五
諸積立金	六三三、〇九七
純益金	二三〇、二一三
合計	二二、七〇二、〇五四

政府法定資金　二二、〇〇〇、〇〇〇
政府一時貸金　二五、七四八、七二
貸付金　九、六七四、六四九
外國爲替貸付金　七、九〇八、三五九
代理店勘定　三四〇、九一六、〇〇二
他店貸　一三一、八五四
公債　三〇七、九〇、三〇五
土地建物　三、六三三、九八四
小額紙幣準備保管　一七九、一七、〇〇〇
通貨及地金銀　一、二四四、九九一、七三
合計　二、七六六、三三八、六五七

未拂込資本金　九八〇、八一七
本支店勘定　一、八九五、三九〇
諸貸金　八、〇一三、二六八
割引手形　二、三五八、五七七
買入及利付爲替手形　六六二、八〇七
荷爲替手形　一三一、九七四
他店ヘ貸　一、〇一〇、三三一
有價證券　二、五七八、〇二八
預ケ金　八四四、九七一
地所家屋什器　二二四、二九五
各種勘定　一、九四六、七二〇
純損金　一八、六二三
合計　二二、七〇二、〇五四

（大正十二年末）　（單位千圓）

負債之部

▼全國組合銀行勘定　（單位百萬圓各年末）

	拂込資本	積立金	預金	貸出及割引	有價證券	現金有高
七	四二五	二六九	四、三七五	三、六九九	四九五	三八五
八	四二五	二六五	五、〇〇〇	四、六九二	九六〇	五四〇
九	八〇八	二七〇	四、九七五	四、八九五	一、二六二	五二二
一〇	八六八	三三五	五、二七七	五、一九三	一、五六三	五一三
一一	九二九	四〇七	五、二五三	五、二〇一	一、六三四	五二一

▼普通銀行に於ける預金の内譯　（大正十年末）　（單位千圓）

公金預金	一四五、九六九	特別當座預金	一、四八四、二一一
定期預金	二、八二三、二八三	其他	七五五、一〇五
當座預金	二二七、六八二	計	六、四四四、八三六

▼普通銀行に於ける貸出の内譯　（大正十年末）　單位千圓）

證書貸付金	七五七、〇八〇
手形貸付	二、九四九、五七六
當座貸越	八一六、五六六
其他	三四八、七五四
合計	四、八七一、八七七

第五節　預金部の狀況

預金部の運用　明治十八年太政官布告預金規則により大藏省內に預金局なるも

のを置き、郵便貯金(當時驛遞局)一切の保管利殖に任せしめ、其手續利率等は大藏省の所管に屬することゝなしたるもの之れ預金部の起源にして現時其出納は特別會計となし、日本銀行をして之が運用利殖を取扱はしむる事となり居れり。預金の大部分は勿論郵便貯金にして此外普通及特別の債券預金、保管金、供託金等あり。運用せらるゝ重なる方面は

1. 公債及債券の購入利殖
2. 各種資金及基金等の利殖
3. 民間低利資金の供給
4. 一般會計に不足を生ぜる場合の一時的金融
5. 公債の買上償還
6. 公債の市價維持の爲にする買上及賣却
7. 一時貸出金

等にして、公債の買上償還を行ふ場合の如きは直接株式市價に影響を及ぼすこと多し。

(參照統計)

▽大藏省預金部狀況　(大正十三年末現在)　單位百万圓

資金之部		運用ノ之部	
郵便及振替貯金	一、一三〇	國債證券	三四
貯蓄債券賣却代預金	二	地方債證券	一一七
各特別合計其他預金	一六八	勸業債券	一四七
預金部積立金等	一六八	興業債券	一三三
		其他社債券	六三
		支那政府債券	四一
		英國大藏省證券	三一
		英國國庫債券	一九
		帝國鐵道會計等貸付金	三三五
		在外預金	六三
		內地預金	二五五
合計	一、四九五	合計	一、四九五

手形交換高と郵便貯金との關係　郵便貯金額の增減は其當時の經濟狀態の支配を受けて增減すること手形交換高の消長と同樣なり。從て手形交換高の增加する場合には郵便貯金高亦增加を示し郵便貯金の減少する時は手形交換高も亦減少し兩者の割合は二十年來每年一分乃至二分を保ち居れるを常例とす。

（參照統計）

▼郵便貯金高の消長並に手形交換高との割合　（單位百萬圓）

（年次）	郵便貯金高	手形交換高	割合	（年次）	郵便貯金高	手形交換高	割合	（年次）	郵便貯金高	手形交換高	割合
三三	二一四	二一、六二〇	〇、九	四一	一〇四	六、三二一	一、七	五	二九九	二〇、二三六	一、四
三四	二七	二一、四一五	一、一	四二	一二四	七、二二八	一、七	六	四一七	三二、七八九	一、三
三五	二九	二一、八九一	一、一〇	四三	一三四	八、三二六	一、七	七	六〇五	五三、四一五	一、一
三六	三一	二一、五五四	一、〇九	四四	一四一	八、四二四	一、一〇	八	六九七	七七、一一〇	一、〇九
三七	三九	二四、一六八	一、〇九	四五	一八四	九、四〇三	一、一三	九	八二八	七四、〇六九	一、一
三八	五二	五、五二四	一、〇九	二	一九七	一〇、二〇一	一、一九	一〇	九〇一	六七、四二二	一、三
三九	七二	七、一三四	一、一〇	三	一九六	一〇、一六九	一、一九	一一	九七六	七〇、九一八	一、四
四〇	九二	七、四四八	一、一三	四	二二二	一一、六二六	一、一九	一二	一二四〇	六七、九六七	一、一七

第六節　金融季節

毎年の常例　公債社債の募集償還、戰爭事變等突發的又は異常事件のなき限り一年間には自ら金融繁忙なる一定の金融季節 monetary Season なるものありて毎年多くは其常例を繰返すものとす。こは取引上貸借の決濟期、季節的産業の關係、納稅期等に依りて恒例的消長を繰返すものにして例へば製絲、製茶等の特殊的工業の生産期紡績毛織物等の原料購入期、農産物生産期等は一時期又は一地方の金融を左右するの力ありとす。之を通覽する時には我國に於ては上半期は概ね緩漫にして六月の決算期には繁忙を呈するも下半期初に至り再び一時緩漫を示し更に漸次緊縮を來し年末に際しては愈々逼迫を告ぐること普通にして之を詳說せば

一月。上旬に於て年末の決濟資金漸次回收されて緩漫を示したるもの中旬より舊節季の資金として聊か繁忙となる

二月。舊節季資金の戻入によりて緩漫

三月。四月。酒造稅及其他の國稅、棉花資金の需要多く、從て多數の釀造家及紡績會社を有する大阪に於て繁忙を告ぐ

製茶資金の需要起る

五月。棉花資金の需要あり

六月。關東には製絲、製茶資金の需要盛なり

會社決算期に付配當金、銀行の手許準備として需要起る。金融市場は一般に引締を告ぐ

此月は生絲資金の需要最も盛なる月なり。抑〻春繭の出廻期は六月にして

夏繭は七月、八月、秋繭は九月なるが故に製絲に要する資金の需要は五月末より十月末に及ぶものなれども右の内、春繭最も産額多く且夏秋繭の買付には春繭による製品を賣却して得たる代金を用ふるが故に市場に表はるゝ生絲資金の需要は此月に限らるゝとも云ひ得べきなり

七月。利益配當金及利息金の散布ありて閑散

中旬頃より冬物仕入期となり漸く資金の需要を生ず

八月。舊盆節季資金の需要あり

九月。概して緩漫

十月。米の收穫期にして其出廻に要する資金多く、一般商況活動して金融亦繁忙を呈す

十一月。十二月上旬。比較的閑散

十二月下旬。年末決濟資金及諸會社配當金等の需要起りて繁忙を呈す

英國にては毎年北米合衆國よりの穀物輸送期たる十月上旬より十二月末迄の四分の一年(時として翌年二月上旬迄一クオーター半)に於て金融の繁忙を示し、それより一般に閑散にして六月中旬より七月上旬迄は閑散の極に達し、七月中旬より引締りの傾向を示し、前述の繁忙期に入るを常とす。大陸諸國亦米國に對する穀物代金の支拂は倫敦宛手形を購入し茲にて金に引換へたる後送金するを常とするを以て、愈々此勢を助長する也。米國に於ける金融季節は英國よりも少しく早く八月上旬より十月上旬に亘る穀物收穫期に於て逼迫の頂點に達するを常とす。

第三章　放資に關する觀察

第一節　放資決定の原因

放資決定の要素　世人の放資を決定する原因に三あり。左の如し

1. 利廻の多少
2. 元本回收の安危
3. 放資物件の賣却及擔保の難易

利廻の多少　凡そ株券と云はず債券と云はず、利廻りを得る目的を以て放資せら

るゝ物件の相場は、一般の景氣及市場の人氣平調にある場合にありては、金利の高き時は其市價低く、金利低き時は其市價高きを原則とす。就中公債の市價は以て一國金融の狀勢を明示するものと稱せらる、市場の金利と證券の利廻とは同一の方向に動く傾向あるものなれば、金利高き場合に於ては社債等の募集困難なるは止むを得ざる處なり。

然れども等しく金利安と云ふ中にも市況不景氣にして商工業萎靡し資金の需要起らざる結果なる場合に於ては事業會社の利潤も少く、從て株式の市價を騰貴せしむるに至らず、單り公債社債のみは其騰貴を見るべきなり。

右述ぶるが如く、金利貴き時は有價證券の市價低落すべく自然好利廻となるが故に金利安き外國の放資家は爭ふて之を買入るべく、其代價だけ內國に資金の流入を見るに至るべし。殊に最近交通の發達と資本の證券化とは相俟つて著しく國際金融を容易且圓滑ならしめたり。

元本回收の安危　如何に好利廻なる放資と雖も元本の回收に危險を伴ふ事大ならば一般の資金は其方面に向はざるべし。故に財界平穩の時には利廻高き證券多く需要せらるゝも財界一度不安の時期に遭遇せんか元本の安否が最も重要視さるるに至るべきは明かなる事なりとす。

賣却及擔保の難易　利廻等しくして安全の程度相似たらば放資は擔保力大にして賣却の容易なる證券に向ふべし。地方債が國債に比して其價格通常低位にあるは地方債は其發行少額にして且一般に擔保力薄弱なるを以てなり。

第二節　內國債に對する觀察

內債の募集と其影響　國債 National Debt の募集は個人の經濟を國家に借上ぐるものにして其額も自ら巨大なるを以て一般金融を緊縮せしむる作用をなすべく、其影響の程度は募債當時の經濟事情に依りて一樣ならず。適度の內國債募集は爲めに一般遊金の善用となりて國民經濟上に與ふる利益多きも、其度を超ゆるか又は利子歩合高きに過ぐる時は國內の產業資金を吸收して實業界は壓迫を蒙ることあり。故に左の各項に就きて留意するを要す。

1. 種類、性質(確定公債か流動公債か直接生産的公債か間接生産的公債か等)
2. 募集金額の多少
3. 賣上條件と利廻(利廻好き時は其公債の市價は昂騰し株式價格は低落の影響を受くべし)
4. 募集の時期
5. 募集金の使途(內國にて使用せらるゝものは後に到りて再び市場を潤すべきも外國に流出するものは其影響長期に亙る)

かくて募集の成績良好にして募集金額に對し著しき應募超過を見るが如き場合は金融界潤澤の證左にして、株　界は之を樂觀材料として相場は上向となるを例とす。

內債の償還と其影響　內債の償還殊に不生産的公債の償還は財政の基礎確實の證として一般財界に歡迎せらるべく、其償還額は一面有價證券の數量を減少し一面金融を緩和し、一時銀行預金の形をとるべきも遠からず其放資を他に轉ずべく、國債有價證券又は土地等に向つて放下さるゝに至るべきを以て、理論上有價證券市價騰貴し、其實入値高まり、土地熱勃興し、兌換券の增發と共に物價の騰貴、商工業活躍の徑路を履むべきものとす。されど其影響の大小は左の數項を顧慮するを要す

1. 金額の多寡
2. 財源
3. 時機(好景氣時代に於ける多額の償還は兌換券の增發、物價の騰上となり貿易入超の因となるべし。又金融緩漫にして金利低落するも資本家は過去の失敗に懲りて愼重の態度をとり容易に株式に放下せざる場合の償還は確實株の漸騰を見るの外他の株式市價は寧ろ漸落すべし。又買上償還の方法により金融逼迫に際し其局所に資金を注入する時は金融上受くる利益は特に大なるべく、內國の金融緩漫にして國庫に餘裕あり外國に於ける我公債の市價割合に低廉なる時は其買上は偉大なる效を奏する事ありとす)

公債の借換と其影響　公債の借換とは從來の公債の條件を變更する爲一先づ之を償還し、代ふるに新なる條件の公債發行を以てするを云ふ。一時拂及定時有期拂國債の借換は之を行はざるを通例とするも、有期隨時拂或は永遠國債は財政の操縱上借換を行ふを有利とする場合少からず。而して其之を行ふ主たる目的は既存公

債の利率低減竝に其整理にあり。

近時の借換は多く任意的に行ひ公債所有者にして借替を欲せざるものには現金償還を行ふが故に、公債借換の行はるゝ場合は多く金融緩漫にして金利廉く、從來の公債市價が額面以上を唱へある場合に限らるべく、會社は又其短期なる社債を長期のものに借換ふべし。斯の如き現象は經濟界が久しき不景氣より將に好景氣に移らんとする時等に於て屢々之を見る。凡そ公債借換の成功不成功は民間金利の標準を決する所以にして其成功は主として金融緩漫其不成功は金融緊縮の象徴なりと云ふを得べし。

國債利拂と其影響　公債中外人の所有にかゝるもの即ち在外正貨を以て支拂はるゝ部分を除き、內國人の所有公債の利子は國內に散布せらるゝを以て金融界を潤はす力あるも、其時期は金融繁忙なる季節前等に定めて金融市場の調整に顧慮され通常六月と十二月とに分たるゝもの、三月と九月とに分たるゝものゝ兩種あり。何れも重なる國稅の納期と略々同時なるを以て結局利拂の爲め金融緩漫の現象を呈する程度には至らざるを普通とす。

內地に於ける外國債募集と其影響　內地に於ての外國債募集も亦內債募集と同樣の感應を財界に與ふべしと雖も此の場合に於ては往々にして正貨の流出を來すことあるべく其波動は特に深刻なるものあるべし。

外債募集外資輸入竝に償還と其影響　外債の募集外資の輸入は國內正貨の增加金融前途の緩漫、通　增大に因る物價騰貴、起業熱の勃興を豫想せしむべく、之を企畫する場合に於ける外國市場金利の低落は其成立を容易ならしめ、外國市場に於ける金利の騰貴は其成立を困難ならしむべし。而して其影響を研究するには左の諸條件を考慮に加へざるべからず。

1. 使途——外國に支拂はるゝか又は爲替作用によりて內地に輸入せらるゝか
2. 金額
3. 發行條件——賣出價格、手取金

外債の償還に關しては、之を在外正貨を以て行ふと內地より送金するとに依り內地の金融界に及ぼす影響に差あることに注意するを要す。

公債の市價　公債の市價に就ては茲に詳說せざるも公債の一般的需要供給の增

減を示す條項は概ね其市價に反響すべし例へば相當に大なる整理債は零碎なる小國債に比して融通力大なるを以て需要多かるべく、支拂期限の確定し資金回收の迅速なるもの、國債に馴染あるもの、其起債さるゝ原因たる出來事又は事業に特に好感情趣味若くは利害關係を有する場合、一國の資本增殖大にして而も事業界の之を吸收すること少き處及び利廻よりも絶對の安全を求むる資本の多き處等に於ては凡て公債の需要多くして其價格高きを示すが如し。若し夫れ國債にして甚しく好利廻なる時は世の投資は株式を離れて國債に向ふべく株式市價の低落を惹起する場合も亦少からず。

仲値と實際値段　新聞等に發表せらるゝものは多く實際の賣値段と買値段との中間相場にして之を仲値と稱す。されば實際有價證券商の買値段は之よりも低く賣値段は之よりも高し。

外國に於ける我公債市價の騰落　公債の自國に於ける價格は其外國に於けるよりも高きを常とす。之れ國內に於ては其國の財政に對しては絶對の信用あるも、外國に於ては市場金利の騰落に依るの外公債發行國の財政の反映と外交關係に依る場合少からざればなり。されば外國に於ける公債市價の騰貴は我國事業界に取りて樂觀材料となり株式市價の騰上を促すべきも、在外公債下落する時は

1. 國家の信用を減じ
2. 次の公債募集に不便を生ずべく
3. 內國に流入して正貨の流出を見るに至る

等の損失を生ずべし。

大藏省證券と金融市場との關係　大藏省證券 Treasury Bill は其性質公債證書に似たるも其期限短きを以て金融界に於ける作用は寧ろ最も確實なる商業手形に類し時としては政府が金融調節の爲に發行する場合もありて其發行步合は直ちに金融繁閑の狀勢を語るものと云ふべし。又此證券は性質上通常會計年度の始めに於て發行せらるゝを常とするが故に五六月の頃の金融には特に關係を有するものとす。

一時借入金と金融市場との關係　豫算の實行上、一時支出に不足を生じたる時は政府は應急手段として、大藏省證券の發行に代へ、日本銀行或は預金部より一時借入をなす事あり。一時借入金の最高額は大藏省證券發行制限額として大藏省證券と

併せて毎年度の豫算に依りて一定せるも、非常事變等に際し緊急に出費を要するが如き場合に在りては豫算又は緊急勅令によりて其制限額を超過して借入れ得ることゝなり、且其期限も必ずしも該會計年度内に止まるを要せざることゝなり居れり。日本銀行より巨額の借入金をなす時は勢ひ兌換券の増發となるも多くの場合直ちに大藏省證券を發行して之を返濟するの例なるを以て其影響は只一時的に止まるべし。

（參照統計）

▼國債現在高　（大正十二年十一月末）

內國債	千円	外國債	千円
雜五分利公債	二、五〇、二〇六	外國債合計	一、三〇、六二四
甲號五分利公債	四五四、二五四	外二	
特別五分利公債	一四一、二二八	臨時國庫債券	五三、二三二
四分利公債第一回、第二回	二六八、二二七	米穀證券	二、二四三
五分利國庫債券	一、三四、七二一	國債總計	四、三九六、六三九
鐵道債券	七九、九九九		
計	二、五三一、五四〇		

第三節　株式市價の觀察

株式市價放資の方向並に事業計畫

株式相場は市價のバロメーターとして知らる。由來株式の賣買は極めて感受性のものなるに依り、其相場の變動は一般商品の價格に比し頻繁且鋭敏にして資本供給の多少に因つて影響を蒙るべきあらゆる財産價格は直接間接に之が影響を蒙らざるなく、又遊資の所有者をして新資本投下の方向を決せしむる作用をなすなり。即ち大手筋の操り其他の人爲的相場、人氣の誤解等によりて高低するが如き例外の場合を除きては、一般に某株式の市價は其會社の實力を正當に換價せんとしたるものに外ならざるが故に、其騰貴は該會社の基礎堅確、收益增進、配當增加を示すものと言ふべく、從て世人をして放資の方向を之に向はしむると同時に同種事業を刺戟して其計畫を多からしむるの動機となる場合もあるべし。之に反し某事業株の市價低落するは該會社の基礎薄弱、其事業の收益遞減、配當減少を示すものとして、同種事業に對する放資を手控へしむる作用をなす場合ありと謂はざるべからず。又株式市價低落する時は銀行の其會社に對する資金の融通高減少して會社は金融の梗塞に苦しむべく、其原因が利子騰貴に因るものなる時は會社に取つての苦痛は利率と融通高と兩面より二重に感ぜざるを得ざるなり。

株式市價騰落の原因　株式の相場は

1. 會社基礎の强弱
2. 事業收益力の動搖
3. 一般浮遊資本の增減

の三者によりて動搖するものなり。會社の基礎堅く、收益力盛にして、一方資金の潤澤なる時は株式市價は騰上すべく、之に反し會社の基礎弱く、收益減退し、又一般資金の緊縮せる際には低落を免れざるべし。故に之等三者の一又は數者に影響を及ぼすべき事實の發生消滅は直ちに其市價に反響を與ふべきなり。

會社基礎の强弱に對する著眼　會社基礎の强弱に就ては其營業報告により資本金額、未拂資本金額、諸積立金及準備金繰越金額の多少、及夫等の資本金に對する比率を算出すべく、社債借入金、支拂手形の多少及其用途を調査し、且つ之等及配當率動搖の歷史を調査する事によりて大體を明かにする外特に其會社經營の衝に當る重役の人格手腕を考慮に加へざるべからず。然らざれば不當の資產評價等によりて蛸配當其他思はざる缺陷を暴露することあればなり。

尙基礎强弱の判定を各種事業會社に就て一斑を述ぶれば、銀行株に於ては銀行の種類に應じて特權の有無預金貸出の多寡特に貸出の內容、手許現金在高と預金との比率國庫金及官金取扱の有無等に著眼すべく、紡績電氣、瓦斯、鐵道、汽船、等の營業に就ては固定資本の多寡並に其評價、減價償却等に就きて注意するを要す。特に紡績業に於ては原料貯藏品及仕掛金の評價、電氣瓦斯會社に在りては供給區域に於ける需給の狀態と發展力の有無、報償契約及電力供給契約と其料金等、鐵道に在りては其收入額、特權の有無、料金の條件等、海運業に在りては船舶の評價、航路及重要なる積荷の種類保險業に在りては保險契約高、貸出及所有有價證券の內容及評價、取引所に在りては毎期平均賣買出來高に就き著目すべし。

收益力の動搖に對する著眼點　收益力の動搖に就ては該會社製品販路の消長其他利害の影響を受くべき一切の事項に著眼すべく、特に紡績に在りては(1)內地購買力の消長、(2)綿價の騰落、(3)銀塊相場の高低、(4)支那に於ける政治經濟上の變動等切實に影響を蒙るべく、鐵道及海運業に在りては(1)一般世間の景氣、(2)炭價の騰落、(3)運賃の高低、(4)競爭の出現消滅(海運に在りては勿論、鐵道に在りても競爭線の出願及許可

の類)(5)海運に於ては航路補助金の增減、鐵道に在りては線路の延長と收益の關係等を考慮すべく、又取引所株に在りては市場の景氣は固より相場の高低頻繁にして取引活潑なる時は賣買出來高增加すべきが故に其收益從て增大すべく、銀行株にありては收益每期大差なく配當亦畧々平均せるに依り市價の伸縮力他の商工株に比して微少なるを常とするも經濟界亂調の場合には相場に變動なきを得ず。平素の營業振、重役の關係せる他會社の營業狀態所有有價證券の騰落に留意するを要す。

遊資の增減に對する著眼點　利廻りの計算は重要なる需要の動力となるものなるが故に、市場に於ける遊資の增加即ち金利の低落は第一に債券市價を騰貴せしめ次で株式市價の騰上となり、遊資の減少即ち金利の騰貴は有價證券市價下落の因となるべし。されど財界陰惡にして一般に投資の危險を感ずる場合にありては金利安くとも一般株式の騰貴を示さず、單り安全なる一流株のみ騰貴するを常とす。又株式騰貴の勢にある時は世人の心理概ね樂天的にして投機心熾なるを以て金利高くとも騰貴を續くることあり。之に反し株式の市價低く投機熱盛ならざる時は資金潤澤にして金利低き場合と雖も株式市價の低落を見ることありとす。

投機株と放資株　等しく株式と云ふ中にも單に市價の變動の差額を利せんとする投機の目的たる所謂投機株と、主として株式の表示する事業よりの利益を收むるを期待する純放資株との兩種あり。前者は相場の動搖殊に鋭敏にして金融市場の狀態によりて波動を受くる事特に大なるべきも、其騰落の理法に至りては前述ぶる處の外に出づべきものにあらず。

感受性の强弱　株式の種類に依りては或る少數の材料の外に感ぜざるものと廣く幾多の材料に感ずる株とあり。銀行株、商工業株の如きは前者に屬し、取引所株の如きは後者に屬す。

取引所取引高と取引所株の高低　投機市場の般賑と閑散とは一に金融繁閑と市場景氣の好惡とに因る。公債社債の如き放資專一のものは財界の不況時に却て取引高の增加を見ることあるべきも一般株式にありては市場一般に沈衰して商況活氣を呈せざる時に在りては取引高從て減退を免れざるべく、其一たび活況を豫想するに及び取引高增加し來り商況殷盛を告ぐる時期に於ては最も巨額に達すべし。殊に相場沸騰し變動甚しく又は崩落せる時代には其賣買出來高は非常の多額に上

るを常とするが故に、廣く金融と景氣を消長すべき諸原因に亙り切實に影響を蒙るべき取引所株の相場は常に波瀾を生じ高低を惹起するなり。

外國貿易と株式　輸出超過を示す時は普通に正貨の流入を誘ひ、金融緩漫となりて金利は下落すべく、又輸出超過がダムピングの如き損失を厭はざるものならざる限り國内産業の利潤增加し、株主への配當從て增大すべく、此二重の關係に依りて株式市價は騰貴を見るべく、又輸入税の增徵にして當該産業を保護するものなる時は其事業の株式は昂騰を示すを普通となす。

景氣と株式との關係　好景氣に際しては企業の利潤多きが故に、株式市價は從つて高かるべく、不景氣に際しては事業沈衰して株式市價は自ら低かるべし。殊に不景氣に際しては工業的起業に有利なる放資少きを以て資金は純放資的證劵たる公債、社債又は株式中にても既に試練を經たる舊事業株に向ふの傾向あり。概して述ぶる時は創立年代の古くして基礎確實なる株式は價格變動の幅員少きを普通とす。

株式市價の先驅性　資本家は常に其資金を有利に放資せんが爲めに事業の收益に關する研究と市況の推移に對する著眼とを怠らざるを以て、市場の好況を豫期さるゝ場合には債劵の騰貴に次で株式の需要を起すべく、之に反し金融引締りを示すか、又は不景氣恐慌等の徵候少しにても現はるゝや世人は先づ最も處分し易き有價證劵を賣放ちて現金に換え置くか又は將來の有價證劵市價の低落より蒙るべき損害を免れんが爲めに賣繋ぎをなすを以て市價は忽ち下落して不景氣の先驅をなすべく、又既に恐怖の端を發くや賣退の競爭漸く熾烈を加へ、銀行の如きは擔保に取れる株式の下落に伴ひ不足分に對する增擔保を請求すべく、其請求に應じ得ざるものは所謂處分玉と稱し之を市場に投げ出すに至り益々市價の低落を來すに至る。斯の如く有價證劵の需要供給は景氣の推移を豫測して行はるゝを以て、株式市價は商況の恢復に先つて騰貴し、恐慌に先つて下落すべく、手形交換高に正比例し且之に先んじて上下すべし。

相場の騰落と賣買出來高の大小　等しく相場の十錢高と云ふ中に就きても取引高の巨額なる場合と其極めて少額なる場合とありて財界の狀勢を示すこと兩者決して同一ならざるが故に吾人は相場の歩みに注意すると同時に其出來高につきても考察を怠るべからず。例へば等しく五錢高と五錢安と相踵いで表はれたる場合

と雖も前者の取引高は後者に比し著しく少額なる時は其大勢は下落に赴けるを知るが如き是なり。

一年間に於ける株式市價變動の常勢　以上述ぶるが如く、株式市價は市場の遊資景氣の好惡に隨伴して動搖するものなるを以て、既に金融に季節ありとせば、株式市價の動搖にも亦自ら常勢無かるべからず。今一年間に於ける株式市價變動の軌跡を辿るに

1. 年末より翌年初一二月頃迄は決算資金一先づ片付き、公債社債の利息株式の配當等に依り市場に潤へる資金は自ら新たなる放資の途を求めて株式に向ふべきを以て一般に好況を呈す
2. 三四月頃となれば前項の定期取引當限となり、續いて受渡決濟期となり、且田租の納期に際し相場一般に不味を示す。俗に花見相場と稱するもの之なり。
3. 五六月の頃は生絲・茶等の資金需要期にして、田租・營業稅等の納期なれば金融一般に逼迫し株式界は概ね安値を示す
4. 七八月頃は未だ米作豐凶の見當付かず、株式に對しても見込立たず、六七月の決算期後なるに拘らず株式界は一般に保合又は不況を呈す、俗に避暑相場と云ふ
5. 十月頃となれば略米作の豫想も付き且つ生絲・羽二重の如き重要貿易品の賣行も判明すべく、且下半期は例年輸出超過を呈すべき時期なるを以て豐作ならば株式界の活氣を呈するを普通とす。

（參照統計）

▼東西株式取引所主要建株組場指數（建株數は夫々二十二三種の先物後場大引値段合計を各其拂込高合計を以て之を除して得たるもの大正三年六月の平均相場を一〇〇とす）

	（東京）	（大阪）		（東京）	（大阪）
大正十一年一月	三一、八	三三、七	七月	一六二、五	一八〇、七
二月	一九、五	二〇、二	八月	一六一、三	一六八、六
三月	一九、六	八六、〇	九月	一五二、四	一五七、五
四月	一五六、七	一七二、三	十月	一五〇、九	一五六、八
五月	一六五、三	一七二、二	十一月	一四四、二	一六〇、一
六月	一六六、八	一九九、九	十二月	一五六、五	一六〇、一

第四節　事業の新設及擴張に對する觀察

事業計畫と景氣との關係　事業の行はるゝには企業の意思と事業運行の資金とを要す。而して企業の意思は市場に於ける該事業の收め得べき利益の程度により

て著しく左右せらるゝが故に、財界好況を告げ、營業の利益大にして、且資金の豐富潤澤なる場合に於ては、事業の勃興を見金利は漸次昂騰すべく、金利昂騰するも營業の利益大なる見込ある場合は依然事業の新設擴張を見るべし。然れども其昂騰著しき時は爲めに事業の興起を抑制するに至るは論なき處なり。之を實例に徵するも歐洲大戰當時に於て企業の利潤增大に伴ひ我國に於ける新事業の計畫新會社の設立を促したるは統計の示す處に依りて明かなるものあり。

事業計畫擴張の程度　されば新企業の目論見增加するは直接には建築工業又は建築材料に關する事業を刺激して好況に導き間接には財界の景氣の好調を語るものとして喜ぶべしと雖も其程度を超ゆるに至らば信用の過大なる膨脹を來し其間には不堅實なるものも交るべく、又自ら生產の過剩を馴致して暗に恐慌又は打擊の危險を釀成するに至るべし。殊に輓近文明國の事業は概して資本的企業にして大仕掛のもの多ければ注入されたる巨額の資金は多く固定資本と化し、進むに易けれども退くに難く、擴大膨脹は容易なれども縮小轉業は困難なるものなれば、過大なる事業の勃興は金融梗塞等の爲動もすれば恐慌の禍を釀し、不景氣の因を作るべく、最も警戒を要する事に屬す。

財界不景氣となりて利潤薄きに至らば事業の擴張計畫自ら減少すべし、而して其最小額に達する時は實に不景氣の終末に近づきたるものと見るべく、其再び擡頭し來る時は景氣恢復の曙光漸く現はるゝものと認むるを得ん。然れども恐慌後に於て見る處の社債發行の增加は事業整理の性質を有し、新事業計畫の目的にあらざるを以て前記の如く景氣回復の兆候とは見るべからざるなり。

破產に對する觀察　事業の創立擴張膨脹の極に達するや、不健全なる事業亦從つて起るあり、投機流行し負債增加し、實力不相應なる事業の經營にして手持品の下落金融の梗塞、先約定品の契約不履行等の爲一朝蹉跌すれば茲に失敗の端を發くに至る。大恐慌は一二有力なる事業會社の失敗暴露を動機とする場合少からず。破產增加の始には通常破產數より破產金額の方顯著にして漸次に破產數の方破產金額よりも顯著なるに至るべし。而して破產の數極めて少きに至らば景氣回復の兆知るべし。されば不渡手形と共に破產及失敗の統計に意を留め、失敗の原因に就ては特に注目して調査するを可とす。就中投機、詐欺に依るもの信用の濫用に依るも

の、他人の失敗に累されたるもの競爭の結果に依るもの等の如きは以て財界一脈の眞相を語るものとして特に考慮に加ふべきなり。

小商店の倒產は普通大商店破產の後に在るものとす。

（參照統計）

▼事業の新設擴張　（日本銀行調査　公稱資本金十万圓以上ノモノヲ採錄ス）　單位百万圓

（年次）	（新設）（擴張）（合計）	（年次）	（新設）（擴張）（合計）
三	一一　一三三　二五一	八	二、六八一　一、三八二　四、〇六八
四	九六　一九七　二九三	九	三、〇四八　二、〇六六　五、一一四
五	二七三　三八六　六五八	一〇	一、四一一　八二五　二、二三六
六	八八七　六九六　一、五六五	一一	九五三　五六八　一、四九一
七	一、六五五　一、〇二二　二、六七七		

事業の新設擴張の統計に就ては日本銀行調査の外大藏省主稅局調、農商務省調、三井銀行調査等あり何れも參考とするに足る

▼拂込資本と組織別（大正九年）

（種類）	（社數）	（拂込資本額）
株式	一六、二八八	七、二八〇、三七一千円
合資	八、九八九	三、七〇、九七〇
合名	四、七〇〇	五七九、七七五
計	二九、九一七	八、二六、二一六

▼業務別會社數（大正九年）

（種類）	（社數）	（拂込資本額）
農	一四、〇二七	八八、三九二千円
商	一一、八二九	三、三六八、〇六二
工	四四七	三、〇五七、二三九
鑛	二、〇四五	六四一、五一〇
運輸	九四	七八九、九〇八
其他		二三九、〇〇六
計	二九、九一七	八、二六、二一六

▼會社、銀行社債發行高累年比較

（年次）	（會社々債）（銀行債券）	（年次）	（會社々債）（銀行債券）
	百万円　百万円		百万円　百万円
五	二九二　四三五	九	五一〇　八九八
六	三三八　四二六	一〇	六六六　一、〇四〇
七	五九一　一、九〇	一一（六月）	七二九　一、〇九一
八	八一五　七一五		

第五節　國際放資に對する觀察

對外放資の動機　對外放資 Foreign Investments の行はるゝは少數の例外を除きては資本を國內に於て運用するよりも外國に於て運用する方高率の利子收益を生せしむることを得るの一事にあり。されば多くの場合國際放資は現に資本の供給豐富にして利廻りの低き國より資本の供給少くして利廻りの高き國に向つて行はるるを普通とす。故に好景氣は外資を吸收する動力となる場合あるべく、又、國際放資の結果一時的には內國の利子を騰貴せしむるの作用をなすべし。殊に最近

1. 交通機關の發達したる事
2. 外國に於ける權利の保護確實となりたる事

3. 國際銀行等の發達して送金迅速安全となりたる事
4. 貨幣制度確立し、多くは金本位又は金爲替本位を採るに至りたる事
5. 資本の證券化したる事

等の理由に基き著しく國際放資をして容易ならしめたり

對外放資の方法　對外放資の方法は概ね之を、(1)對手國發行の有價證券類の購入に依るものと、(2)直接對手國の企業に資本を供給して事業の經營に關與するものとの兩者に大別することを得べし。

外資輸入の利害　外資輸入の利害に關しては可否說を異にするものあり。或は外資の輸入は低利資金を得、國內の事業をして盛ならしむる原動力を作り、以て他日の隆盛を齎すべきものなりと稱へ、或は外資の輸入は兌換券の增發、通貨の膨脹を來し物價の騰貴を招き、自然輸入增加して輸出減少し、對外債務增加して遂に何等益する處なきに至るべしと云ふ。何れも一應の理由なきにあらざるも共に盡せりと云ふべからず、要は其使途の生產的なりや奢侈的消費的なりや其時期は適當なりや否や、其金額は適量なりや否や、等に依りて決すべき問題にして、抽象的に一概には可否を斷定すべきものにあらず。

外資輸入と貿易との關係　外資を輸入する場合に於ては外國貿易關係は自ら輸入超過を現はすに至るべし。何となれば外資を輸入する目的は直接資金其者を要するにあらず、其資金にて求め得らるゝ物資を要するが爲めなり。從て正貨の輸入に更へて物品の輸入を見る場合多かるべく、然らざるも現送の危險と經費とを避けんが爲、借入の際には爲替關係順となりて輸入貿易を助長するに至るは自然の結果なるべし。又利子の支拂元金の償還に當りては必ずしも正貨を以て之を行ふことなく、貨物の輸出を以て之に代ふることを得るを以て、自ら輸出を促進するに至るべく、爲替の方面より觀察せば爲替相場支拂勘定に於て騰貴して輸出を奬勵するに至るは普通の現象なり。

對外放資、其利子の收入、元金の償還を受くる等の場合に於て右と反對の事實を呈するは復た論なき處なり。

（參照統計）

▼外資在高（現債、鐵外債出の內訳債權國方債外國人會社放資の社債合計額）

▼大正九年の外資在高分類

(年次)	(金額) 百万円		百万円
三一	一、四二八	國債	一、四二八
二	一、九七〇	海外流出內債	三四〇
七	一、七〇七	地方債	一三〇
八	一、七一六	社債	四八
九	一、六七三	外人會社放資	三五
		合計	一、六七三

第四章　農作物の豐凶に關する觀察

第一節　豐凶の影響

豐凶の影響する範圍　生産品の消費者、輸出入商品の需要者、都會に於て販賣する商品の顧客は大部分農家なるが故に、農家購買力の如何が都市の景氣に絶大の作用をなすことは復た言ふを俟たず、從て農村の景氣を左右すべき農産物の豐凶及其價格と市場景氣の好惡とは離るべからざる關係あるを知るべし。

農産物の收穫にして豐饒ならんには

1. 食料品の價格低落し
2. 運輸數量と其收益とを共に增加せしめ
3. 工業品・原料品の價格低落し
4. 輸出超過の勢を促進し
5. 正金の輸入增大すべく
6. 製造品の大需要者たる農家の繁昌は、企業の好刺激劑たるべく
7. 有價證券の市價又從て騰貴す

されば本邦農業の主位を占むる米作の豐凶は固より其副業たる養蠶の成績は、我財界の運行に大なる力を有し、大小豆の如き國民必需品の不作なる場合の如きも輸入を增加して貿易の不利を招き不景氣を招來するに至るべし。

これ『期米安の爲に株高し、期米高の爲に株安し』との語ある所以なりされど農産物の價、格外に低落し爲めに農家の貨幣的收入を減ずるが如き程度に至らば、却て農村の疲弊を來し、農家の購買力を減殺することゝなるは勿論なり。

參考統計　內務省勸農局府縣物産表　農商務省統計表　內務省國勢一班

(參照統計)

農村の人口は約二千九百五十八万四千人(農業從事者及其家族を含む)にして全人口の五割二分を含む

▼耕地面積（大正十年末）

田　三百〇四万四千町歩　畑　三百〇五万三千町歩　計　六百〇九万七千町歩

内地の總面積は三千八百八十六万四千町歩なれば耕地の面積は内地總面積の一割五分六厘に當る

我國民の生活必要食料費は大約一ヶ年五十億圓と稱せられ、全生計費の四割を占むるものと概算するを得べし

第二節　米價に關する觀測

米價騰落の原因並に其豐凶の觀測　既に米價變動の財界に與ふる影響の甚大なるを知らば、其變動の因て起る原因に就き一般的智識を有することは、また財界觀測の上に必要の事なるべし。

米價もまた需要供給の關係によりて動搖すること他の商品と異なる事なし。而して米の供給力に影響を及ぼすものは、(1)作付反別の消長、(2)農事の改良(3)年の豐凶を主なるものとす。

1. 作付反別の消長　主として米作の收益力の多少によりて起る。即ち米價の騰落と生產費の增減とは自ら作付反別の消長を齎す原因となるべし

2. 農事の改良　開墾・耕地整理・牛馬耕の普及・耕種法の改良・米種の選擇・肥料の改善・害蟲の驅除・稻病の豫防・產米の檢査等は其重なるものにして同一面積の土地にて多くの收穫を得るに至らしむ

3. 年の豐凶　米價變動の素因中、最も重大なる影響を與ふるものなり、氣溫・旱魃・暴風・洪水・霖雨・蟲害等は豐凶を左右する原因の重なるものとして知らる。氣溫は四月發芽の頃に高きを要し、莖葉繁茂中は概して氣候濕潤にして溫度の高きを可とし且其登熟期に至りては大氣乾燥し氣溫の昇るを必要とす。七月中旬より八月中旬までの間は降雨少く溫度高きを可とし、秋季氣溫の俄かに下降するは早冷と稱し收穫の不足を來すことあり。又土用中數旬に亙りて雨なき時は旱魃の爲枯死することあるべく、開花期三十日間卽ち二百十日、二百二十日前後の風害は最も恐るべく晴天の暴風は殊に不可なり。蓋し雨ある時は稻花瓣を閉ぢて花蘂と花粉とを保護する利益あるを以てなり。霖雨は其度を超ゆれば植付の機會を失し、氣溫の降下を來して株の張りを阻止することあり。蟲害は其被害多くは一地方に限られ全國に及ぶことは稀なるも、一たび其害を受けた

る地方は極めて猛烈なる損害を蒙るべし。

稻の播種より收穫迄の期間以外の時季に於ける天候は直接米作の豐凶に關する處なきも、此間は實に米の代用食料品たる麥作の時期なるを以て其影響は直接に麥價の上に、間接に米價の上に表はるゝものと謂ふべし

其年に於ける米收穫高の豫想は農商務省に於て、各府縣に命じて調査せしめたるものを集めて收穫豫想高を發表さるゝものあり。然れども其第一回豫想は二百十日の厄日前なるを以て、發表後の天候によりて收穫激減することあり、第二回の豫想は之等天災日以後の發表に屬するを以て第一回に比して更に正確に近しと謂ふべし

米の需要に消長を來す原因の主なるものは、(1)人口の增減、(2)國民生活程度の昇降の兩者を最となすも、此外米の代用品の生產、外國米の供給、酒造米としての需要高、殘存米の多少等は少からざる關係を有す

1. 人口の增加が米の需要を增加することはまた論なき處なり
2. 國民生活程度の上進は米食者を多からしめ、其消費量を增大す
3. 米の代用食料品の重なるものは次の如し

大麥、裸麥、小麥（產出の二割二分は釀造用及種子用に用ゐられ、他は小麥粉、麵類、パン、菓子、麩、團子等として食料に供す）、玉蜀黍、馬鈴薯、粟、稗、黍、臺灣米、朝鮮米、外國米

外國米の我國に輸入せらるゝものは左の五種類を主なるものとす

蘭貢米（緬甸米）　蘭貢より輸出さるるを以て此名なり
暹羅米　盤谷より輸出さる
西貢米（交趾支那產）　西貢より輸出さるゝを以て此名あり
東京米（安南・東京產）　西貢米と併せて佛領印度米とも稱す
支那米（重に湖南米）　集散地は漢口なり、上海にて積換へ輸出す

4. 酒一石を釀造するに要する玄米の量は七斗三升一合四勺なるを以て酒の造石高を知らば容易に酒造に要したる米の量を推算するを得べし。
5. 前年收穫米の殘存高多き時は當年の收穫高を補ふこと大なるべく、又天災地異戰爭等の勃發は米價に甚しき衝動を與ふべし。

【參照統計】

▼農產物價格と金利との關係　（日本勸業銀行調）

（年次）	（不動産利益）	（米價）	（繭價）	（年次）	（不動産利益）	（米價）	（繭價）
五	一一・六％	一五・六円	五四円	八	一〇・三％	三二・〇円	一一六円
六	一一・三〇	二二・九三	七三	九	一一・四一	二二・二九	一六八
七	一〇・四六	二六・八二	八四				

米價繭價共に一石の相場を示せり

▼田畑賃借料　（毎五年田畑一反歩平均）

（年次平均）	（田）	（畑）	（年次平均）	（田）	（畑）
明治三一―三七	一一・九三	〇・七八	四五―大五	四・三一七	一・一三七
大八―四三	三・七八五	一・〇一三	四―七	四・四三一	一・二一四

◀平均一反歩米收穫高

至自明治二十一年同二十一年	一石二三	大正六年	一・八四
至自明治三十一年同三十一年	一・四〇五	同七年	一・八二
至自明治四十一年同四十一年	一・五〇	同八年	二・〇一
		同九年	二・〇七
		十年	一・八一

▼田畑賃借料　（日本勸業銀行調査、坪當田一段歩ノ賃借金額平均）

（年次）	（田）	（畑）	（年次）	（田）	（畑）
五	一円二二	一円一	八	二円〇六	一円八
六	一二八	一八六	九	二六四	二二九
七	一四一	一一四一			

▼米收穫高豊年比較　（農商務省調査）

（年次）	（收穫高）	（年次）	（收穫高）
四四	三一・七二一・四四石	六	三四・六八・〇六石
元	三〇・一二一・三〇元	七	三四・六九・〇八七
二	三〇・一二三・一二六	八	六〇・八一・一六三
三	三七・〇〇六・四三一	九	六三・一一・一六二
四	三七・八一四・四六〇	10	三四・一八一・〇三四
五	三四・四四一・三六六	11	六〇・六九一・九〇〇

▼大正十一年米收穫豊凶表

第一回豊凶收穫高	六二・六三八・七六六	第二回豊凶收穫高	六〇・六四・一〇八
收穫高	六〇・六九一・九〇〇		

▼麗米　（五ヵ年平均）

（年次）	（麗米額）	（上米のうち麗米の割）	（年次）	（麗米額）	（上米のうち麗米の割）
三一―三五	二・三四一千石	三・三一〇千石	七年	三・一八七千石	三・六六三
三六―四〇	三・六八七千	二・六九一	八年	三・一九二	三・六六四
四一―元	三・一六〇	二・九七九	九年	三・三六六	三・一一四
二―六	三・一八七	二・九三三			

第三節　農家經濟の一斑

農家の經濟　農家に地主あり、自作農あり、小作農あり、專營のものあり、兼營のものあり、地方により年により其經濟決して一ならずと雖も左に其一例を掲げて參考に資せんとす。

地主の收支（日本勸業銀行第三回調）

（種類）	（實買價格）	（實收小作料）	（同上換算額）	（公課其他）	（管理取立費）	（純收益）	（利廻）
田 上	六一二円	一三八升	四八、三八	五、四七	八、九七	四一、七六	一、〇七四二
田 下	三一三	八〇	二八、一三	二、八九	六二	二四、六三	〇、〇九〇四
田 普通	五六九	一一二	三九、一二	四、四〇	七四	三三、九八	〇、〇七九二
畑 上	三五一	…	二四、〇八	二、五六	四〇	二一、一一	〇、〇六八一
畑 下	一五二	…	一一、一八	一、一〇	二八	九、七九	〇、〇七七七
畑 普通	二四九	…	一七、五六	一、八二	三四	一五、四〇	〇、〇七一〇
平均	三五八	…	二八、〇八	三、〇九	五四	二四、四五	〇、〇七六八

自作小作農家の一例

大正九年度に於ける香川縣井戸村の一農家、自作田三反、畑二反、小作田二反を耕作し、家族九人の經營によるもの

收入

米			
全收穫	16石		
內借地料	3〃		
〃食料	7〃	6石	¥ 180.—
麥			
全收穫	13石		
內食料	7〃	6石	〃 90.—
阿片	300匁		〃 87.—
罌粟種	400合		〃 20.—
粟	1石		〃 25.—
春蠶桑	100,000匁		〃 1.—
秋蠶上	7,000匁		〃 42.—
玉	,700匁		〃 1.40
中	,200匁		〃 .80
下	,400匁		〃 .40
甘藷	100.—		〃 10.—
玉葱	250.—		〃 50.—
蠶	1 頭		〃 30.—
牛乳	12,000合		〃 240.—
廢雞	6 羽		〃 4.80
雞卵	1,800個		〃 72.—
麥桿眞田	300反		〃 45.—
計			¥ 898.40

支出

諸稅		
地價40圓ノ自作田一反		2.948
地價20圓ノ自作田一反		1.742
村費負擔		19.348
村農會費		5.400
水利費		2.500
肥料代		271.075
稻田一反		
大豆粕5枚	@¥ 2.—	
硫安四貫五百匁	〃 7.50	
過燐酸石灰十貫	〃 2.50	
木灰20貫	〃 50	
以上5反ニ要スル經費		¥ 82.875
麥一反		
大豆粕七枚	@¥ 2.50	
硫安6貫	〃 9.—	
過燐酸石灰15貫	〃 3.—	
木灰30貫	〃 .50	
以上2反5畝ニ要スル經費		103.25
其他ハ省略		
飼料代		156.—
種子代		5.—
農具		1.—
人夫費		
常雇一年		
臨時雇女三十日	@80 ¥5.—	174—
病害蟲驅除費		5—
雜費		10.—
差引收益		222.72
計		¥ 898.40

〔參照統計〕

▲農業戶數　（大正十年末）

自作農	一、六六九、〇九〇	自作兼小作	二、二三一、九二四
小作農	一、五五四、六六七	計	五、四五五、六八一

水稻一反歩の栽培に延人員普通二十五人乃至三十人の勞力を要す

▲肥料購入資金　年額二億圓

第五章　工產品、鑛產品の市況に關する觀察

綿絲、綿製品の市況　工產品就中其主位を占むる綿絲、綿製品、砂糖等の盛衰は一般景氣に大關係あるを以て其事業の盛衰消長に就て研究するを要す。就中綿絲綿製品に就ては其錘數、棉花の消費總高、一人宛消費高、綿製品輸出總額等の統計に著眼するは勿論、紐育、印度、埃及、支那の棉花市場の狀態に注意し、東洋の購買力と不離の關係を有する銀塊相場にも著目するを肝要とす。

生絲市況　若し夫れ生絲に至つては、本邦輸出品の大宗なれば之に關する經濟上の著眼は特に必要なり。生絲一梱を製出するに要する原料繭の數量は春繭は概ね九石五斗夏秋繭は十石五斗を要し繭の出來高は年により差あれども通例六百萬石乃至七百萬石にして靜岡、岐阜以西を關西として關東と比較せば其產額略々相等しく製絲家の利益は一割五分乃至一割八分を通例とすと云ふ。財界を觀測する者は具さに天候に注意し、原蠶種製造高、霜害蠶病の有無及其程度成繭後解舒の如何、釜數の增減等に眼を注ぐべし。

石炭消費高　工業の盛衰は石炭消費高に比例すべきを以て石炭の消費高は事業界の活況に在るや否やをトする基準とも云ふべきものなれば常に其生產消費高、一人宛數量に就て研究すべし。

銅の產出高　我國は世界に二三位を爭ふ產銅國にして銅は石炭に亞ぐ重要鑛產物なるを以て、其產出高、市況就中米國產銅との關係に著目を怠るべからず。

地方的工產物の消長　右の外造船業、製鐵業の如き重要なる事業あり、又全國一般には其影響少きも一地方にとりては重要なる製產物少からずして、其市況の張弛は深刻に地方の景氣に影響を及ぼすものあり。

參考統計　農商務省統計表

【參照統計】

工産物價格

染織品	三、三六八、二四三千円	雜工品	四六八、九六一千円
機械器具	一、〇八七、六五七	電氣瓦斯	二〇八、四四七
化學工業品	九六八、〇四九	金屬精錬 計	六、八三三、〇一二
飲食物	七四〇、六七二		

世界の紡績錘數は一億五千二百万錘にして、其内五千六百万錘即ち四割弱は英國

▼生糸ノ輸出高

八年	六二三、五九八、九二四円	九年	三八八、二 三、五七四円
一〇年	四一七、一一四、〇八八円	一一年	六七〇、〇四七、五四三円

▼石炭消費高（單位千佛噸）

（種類）	（四年）	（五年）	（六年）	（七年）	（八年）	（九年）
艦船用	三、九〇三	五、三〇二	五、一一〇	六、二七五	五、八四四	六、九七一
鐵道用	一、三八一	一、九九七	二、三九九	二、九四四	三、二二七	三、二二九
工場用	六、〇六二	一〇、二四〇	一三、二二六	一四、一四三	一四、八一九	一四、六九五
製鹽用	七二三	八三八	七七九	五六六	八六四	七七八
計	一二、〇七〇	一八、五七九	二〇、七一〇	二三、二五〇	二四、八〇〇	二五、六六四

▼工産物産額ノ一部

	綿絲（管糸）千貫	製布 百万碼	生絲 千貫
大正五	九四、六二六	七七〇	四、五一九
六	九四、七〇八	五九五	五、三一八
七	八八、六四二	六五七	五、七九六
八	九二、七二〇	八〇三	六、三六〇
九	九〇、〇五五	七六二	五、八二四
一〇	八九、四五五	七一〇	
一一	一〇八、五七七	八六六	

▼銅産額

（年次）	（産額）	（年次）	（産額）
元	六一、六五二噸	七	八九、二三六噸
五	九九、五九三	八	七五、〇二五
六	一〇六、七〇四	九	六三、七六六

銅價が一般物價の騰貴率に追隨せず産額減少

第六章　外國貿易に關する觀察

第一節　貿易消長の見方

貿易消長の影響　外國貿易 Foreign trade の消長が經濟界に絶大の影響を及ぼすべきは論を俟たず、吾等の取扱ふ商品の中何物か外國貿易の影響を受けざらん我輸出貿易の一進一退は啻に之に直接關係ある商品のみならず、一般商工業の盛衰に重大なる關係を有す。殊に重要輸出品たる生絲、羽二重の如き其生産は主として農家の副業に依るものなるが故に、其波動を受くる範圍頗る廣くして其程度も亦從て大なり。されば是等商品の賣行の好惡、相場の騰落等、貿易を消長せしむる原因の生ずるあらば、株式市價は之が爲め忽ち大なる反應を生ずるが如き實に此消息を語るに足るものあり。

貿易に關する統計　外國貿易月表として發表さるゝものに左の如き種類あり

横濱港外三港(新潟、夷、清水)外國貿易月表

大阪外七港(四日市、武豐、名古屋、敦賀、伏木、七尾、宮津)外國貿易月表

神戸港(外に絲崎、濱田、境を收む)外國貿易月表

門司、下關、若松、博多港外國貿易月表

長崎港外十港(唐津、住の江、三池、口津、三角、鹿兒島、嚴原、鹿見、佐須奈、那覇)外國貿易月表

函館港外六港(小樽、室蘭、釧路、根室、青森、大泊)外國貿易月表

等あり何れも輸出入貨物・金銀・關稅・貿易船・旅客船用品・保稅倉庫・假置場等に關する統計を載せたり。大藏省主稅局は之を纏めて大日本外國貿易月表、內地及樺太朝鮮貿易月表を發表し、更に大日本外國貿易年表を發行して一年間の統計を明かにし之を前二年のものと比較したる最も信憑するに足るものなり。此外外國貿易概覽として年々發表され、貿易の大要、通商國、通商港に就きて觀察し、單に統計數字のみならず說明を加へたるものあり。之等の材料により吾等は、(1)全國輸出入金額及數量、(2)各國別貿易高、(3)各港別貿易高、(4)各品國別の貿易高、(5)金銀輸出入高、(6)保稅貨物數量、(7)軍艦、船用品等の貿易高、(8)朝鮮、臺灣、樺太との移出入高等に就き每月、每年の統計を前年若しくは前々年同期の額と對比し以て貿易の消長、對手國の變遷、各港の盛衰等を洞察せざるべからず。

凡そ統計の用は或る事實を數字にて現はし、適宜之を排列して比較研究の資料とすにあるを以て單に表はれたる數字の大小にのみに拘泥することなく、各統計材料の異同・編成法・方法の改正を調査したる後、其數字を透して事實を詳細に考究し、以て時勢の趨く處を察せざるべからず。

貿易統計に對する著眼點　著眼すべき要點は概ね次の如し

(1)總價格　之を概觀する時は財界の好況時には貿易高多く不況時には少しと稱するを得べし。されど貿易高を比較するに金額に重きを置くべき場合と、數量に重きを置くべき場合とあり。金融を本位とする時は金額に重きを置かざるべからざるも、產業及貿易を本位として論ずる時は寧ろ數量を主とすべきものと云ふべく、一般的には合計金額を物價指數(正しくは輸出入品代價の指數)にて除したるものに就き考察するを便とす、又一兩年の特別の外五六年

の平均額により研究するを可とす

(2)輸入總額、其一人宛平均額、輸入品の種類　前項述ぶるが如く各貿易品の價格は之を商品市價の指數にて除したるものに就て研究すべく、輸入品の種類に就ては精製品・半製品・原料品の別に就き考慮すべし、例へば機械類の多きは資金を固定せしむべく、原料品の多きは製造加工の後再び輸出せらるゝに至るべく奢侈品、消耗品の多きは國資を消盡することゝなる事を推定するの類之なり。又其輸入が眞の需要に依るものなるか、思惑的見越輸入即ち假需要なるかに就きても注目を怠るべからず

(3)輸出總額、其一人宛平均額、輸出品の種類　大體前項輸入品に就て述べたる如く、物價指數との關係を顧慮すべく、又原料品の多きは國內產業の未だ發展せざるものと見るべく、奢侈品の多き時は其仕向地景氣の好惡によりて著しく影響を受くべし

(4)輸出入の對手　生產地又は仕向地の景氣、情報等に就き、其影響を測定するに極めて重大の關係あり

(5)輸出入額の對照　輸出超過か、輸入超過かに就きて觀察すべし。貿易の差額は國際貸借の主要なる原因にして、輸入超過は正貨流出の因をなし、從て國內通貨又は在外正貨の減少となり、外に在りては本邦財政の信用を薄からしめ、內に在りては國內通貨の急激なる減少の爲物價の暴落を來し、不景氣又は恐慌の素因をなすこと少からず。

輸出超過は輸入超過の場合に反し、他の事情等しくば正貨流入、在外正貨の增加、通貨の膨脹、物價の騰貴を招來すべし。

然れども之等の影響は急激に表はるゝ事少く、極めて徐々に表現するを常とす。蓋し外國貿易の多くは信用取引にして、其支拂期間三四ヶ月の後にあるを普通となし、爲替相場の景況等にて正貨を取寄するを便とする場合に於てのみ正貨を流入すべく、又正貨流入するも中央銀行にして金利の引下を行はず却て貸出の制限を行ふが如き事あらんか、事業は之が爲め濫興する事なく物資の需要も著しき增加を見ざるべく、物價も正貨流入の割合には騰貴する事無かるべし。然れども經濟界は極めて神經過敏のものなれば、每日の貿易

差額を見て直に將來を樂觀又は悲觀し、心理作用によりて有價證券・重要商品市價の騰落を生じ、延て一般物價に波及する場合少しとせず

等しく輸出超過と云ふ中にも(1)自國生產品に對する海外の需要增加し、又は新販路の擴張を見たる等の原因によりて外國に於ける賣價の騰貴又は輸出數量の增加を見る場合あり、(2)國內の物價低落の爲輸入の減退を見たる結果出超を表はすことあり、(3)又債務國が元金又は利子支拂の爲出超を促すこと等ありて其原因一ならざるも、就中其海外需要の增加に依るものゝ如きは爲めに之に從事する企業家・資本家・原料品生產者等を利し、勞働者の收入を增加せしむるに至るべく、其勢の盛となるや、一般物價の騰貴・輸出手形の增加を見るに至り、爲替相場の下落は遂に輸入增進の氣運を助長するに至るべし

貿易の消長と景氣との關係　されば財界高調を呈せる時に於て輸出入額を對比し、輸入額の一人宛平均金額の格外なる增加を見る時、又は輸出額の減退を示す時は經濟界の漸く不眞面目とならんとする兆候にして警戒を豫告する者なりと云ふべく、又此時期に輸入の減退し、又は輸出の增進するは好景氣の尙持續する證左と見るを得べし。又經濟界の萎靡不振の際には輸入の減退を見るを普通とす。不景氣久しきに亙りたる後輸入額又は輸出額の徐々にして堅實なる增加を示し來る時は、財界は漸く恢復期に入りたるを候ふに足らん

參考統計　本文記載の外國貿易旬報

外國貿易月報に於ける貨物の分類方法には表により多少の差あり。多くは食料品、原料品、原料用製品、全製品に分つも關稅の分は海產物、農產物、工產物、林產物、鑛產物に分てり

（參考統計）

▼輸出入物品價格表　（單位百万圓）

（年次）	（輸出）	（輸入）	（計）	（超過）	（年次）	（輸出）	（輸入）	（計）	（超過）
三	五九一	五九六	一、一八七	入 五	八	三九九	二、一七三	四、二七二	入 七三
四	七〇八	五三三	一、二四一	出 一六七	九	一、九四八	二、三五六	四、二八四	入 三八八
五	一、二七	七五六	一、八八四	出 三七一	一〇	一、二三三	二、八六六	四、一八九	入 五六一
六	一、六〇三	一、〇三六	二、六三九	出 五六七	一一	一、六三四	一、八四〇	三、四七四	入 二〇六
七	一、九六二	一、六六八	三、六三〇	出 二九四					

▼人口一人ニ付輸出入額

（年次）	（輸出）	（輸入）	（年次）	（輸出）	（輸入）
	円	円		円	円
四	一二、八九	九、六九	八	三七、〇四	五八、三五
五	二〇、二六	一三、六〇	九	三四、八二	四一、七四
六	二八、四五	一八、五九	一〇	三二、〇六	二八、四二
七	三四、六二	二九、四四			

▼輸入品價格分類表　（一〇〇分比例）

（年次）	（元）	（六）	（七）	（八）	（九）	（一〇）
粗製食料品	八、〇	二、〇	七、七	二、九	五、五	二、九
製造食料品	三、六	一、六	二、八	四、二	四、〇	四七、〇
原料品	四八、四四	五四、五	五一、三	五〇、三	五二、九	二〇、一
原料用製品	一九、八	三一、一	二七、四	二〇、八	二一、八	一九、三
全製品	一九、六	一〇、〇	一〇、一	二、〇	一四、一	〇、八
其他	〇、六	〇、八	六、三	〇、七	〇、七	〇、〇
計	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇

▼輸出品價格分類表　（百分比例）

（年次）	（元）	（六）	（七）	（八）	（九）	（一〇）
粗製食料品	四、一	四、五	四、七	三、一	二、三	六、四
製造食料品	六、二	六、二	六、三	四、〇	五、〇	
原料品	八、四	五、一	五、二	五、二	七、二	六、三
原料用製品	五〇、三	四五、三	三八、五	四三、二	三四、九	四四、一
全製品	二九、六	三六、七	四二、四	四三、〇	四九、四	四一、九
其他	一、三	二、二	一、九	一、五	一、三	一、四
計	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇

▼輸出入對手國歩合　（大正九年）

（輸出）	（輸出）	（輸出）	（輸入）	（輸入）
米 二、八〇〇	關東州 一、五八三	香港 一、三八〇	米 三、七三八	支 一、九三三
支 二、一〇五	蘭印 一、五五〇	佛蘭西 一、三六八	英印 一、六九〇	關東州 一、八四二
英印 一、九八七	英 一、〇〇二	濠 一、二九八	英 九九四	蘭印 一、二九四
				濠 一、二六九

第二節　貿易の消長を惹起する原因の一二三

海外景氣の影響　輸出品の騰落、賣行の消長、外國取引の盛衰等は海外市場の景氣に依り大なる影響を蒙るべし。輸出期に於ける海外の內亂、戰爭、天變地妖、恐慌、ボイコットの如きは輸出に影響する事極めて大なるは勿論、苟くも仕向地の景氣に影響を及ぼすべき事項は直接間接に貿易の消長に交感を及ぼすべし。就中其商品が奢侈品又は享樂品なる時は生活必需品なる場合に比して需要の伸縮力大なるを以て其影響從て大なるべく、又其商品が輸入國に取りて買獨占ある時は輸入地景氣の消長に依りて受くる處の影響亦從て大なるを免れじ。故に財界盛衰の變化を最もよく表示するバロメーターの稱ある鐵市場の米國に於ける、又英米財界の有力なる指標の一たる英米爲替相場の騰落の如き海外市況の新聞其他によりて報道せらるゝ事件に注意すべきは勿論、左の數字には常に注意しあるを良とす。

英蘭銀行營業報告に依りて

發行部の發行高・準備高

營業部の資產負債
（累年の狀況と比較すること）
倫敦交換所手形交換高表に依りて
毎年の總額
毎月四日目交換高（總計に對する百分比）
株式受渡日交換高（同　上）
公債受渡日交換高（同　上）
（最近、毎月、累計、數年間に亙り同期のものを對比すること）
紐育交換所手形交換高

國際放資と國際貿易　國際的資金の移動は結局貨物又は勤勞の移動となるを普通とする事曩に述べたる如きを以て、資金の輸出は商品の輸出を誘ひ、資金の輸入は商品の輸入を誘致するものなり。又放資國は直接其對手國に對し貨物を輸出することなく、其對手國は他の第三國より貨物を輸入するとするも、右の第三國に對して の資金支拂は結局貨物を以てすることとなるを以て此の場合に於ても放資國の輸出を促進するは異る處なし。之を要するに放資の關係上

輸出超過を促す場合は
1. 外國に對する貸付又は資金放下をなす時
2. 外國に對する債務の辨濟をなす時

輸入超過を起す場合は
1. 貸付又は放下資本の利子を受取る場合
2. 外債の募集又は外資の輸入をなす時

と云ふを得べし。

物價と貿易との關係　外國に比し自國の物價特に低廉ならば之を輸出して引合ふが故に、輸出增加すると同時に、外國品は之を輸入するも高價につくを以て輸入自ら防遏さるべく、從て輸出超過の勢を促すべく、外國に比し自國の物價特に騰貴せる場合は輸出を妨ぐると同時に外國品の流入を招き、自ら輸入超過の勢を馴致すべし

爲替相場及銀魂相場と貿易との關係　爲替相場順にして爲替相場受取勘定に於て騰貴する時は、輸入商は從來と同額の邦貨を以て從來よりも多額の支拂に充て得

べきを以て自ら輸入促進の機運に向ひ、之に反する場合は輸出の增進を見るべし。其詳細は銀塊相場の高低が貿易上に與ふる影響と共に後章に於て之を說明す

本邦商品の競爭品　海外市場に於ける本邦商品の競爭品市況に就ても留意を怠るべからず。例へば米國に於ける支那、伊太利の生絲、支那・瓜哇・印度・錫蘭の紅茶、支那の羽二重・絹紬、瑞典の燐寸、伊太利・支那の麥稈眞田、支那の花莚等の如き競爭品、又は代用品の市況に關する事項の如き之なり。

第三節　貿易と季節

季節と入出超　貿易品種の關係上季節によりて自ら入超出超の規律的傾向あり。例へば英國に於ては例年九月より十二月に亙り米國より棉花・穀物を輸入するを以て秋季は輸入超過著しく、正貨の流出を促すべく、從て英蘭銀行の準備金を減少するに至る。英國に於ける恐慌が常に秋季に起るは之が爲なりと云ふ。かくて國際金融市場の中心たる倫敦に於ける資金融通の澁滯は延て其影響を國際間に及ぼすに至るべし。又クリスマスの頃に至れば、流行の中心たる巴里の新意匠・裝飾品幷に佛國の葡萄酒は盛に海を超えて英國に輸入せらるるを以て、英佛間の爲替は著しき影響を蒙るが如きの類なり。我國に於ては概ね上半期は輸入超過下半期は輸出超過を示すを常例とす。就中輸出は一月、六月、七月、十一月の頃に減少し其他の月に增加し、輸入は六月七月の頃より減少し十一月十二月に增加を見るを常とす。

第七章　外國爲替に關する觀察

第一節　爲替相場變動の原因と其影響

爲替相場變動の原因　外國爲替 Foreign Exchange は外國貿易と離るべからざる關係を有す。其爲替相場 Rate of Exchange が手形の需要供給によりて變動する事亦論を俟たず。之を具體的に列記せば

1. 貿易上の差額(有價證券に關する取引を含む)
2. 國際的勤勞の差額、外債借入金に對する利子を含む)
3. 金貨の現送
4. 外國に於けるクレヂットの獲得

等なり。貿易上の差額が國際貸借の主因となり、從て爲替相場の騰落を招致することは明かなるも國際放資に對する利子、海運々賃、保險料等は之等貿易上の差額を緩和し、若くは增大し、又は却て貿易差額と反對の結果を現出せしめ、以て爲替相場を動かすべし。例へば歐洲戰前の英國は年々貨物の輸入超過一億三千萬磅內外を算したりしも、對外放資額三十五億磅ありて、其收入利子一億五千萬磅、海運々賃九千萬磅保險料二千萬磅合計二億七千萬磅の對外債權收入あり却て正貨輸入國の位置に在りしが如く又最近我國が海運々賃保險料等の收入巨額を算し以て國際貸借の計算に有力なる關係を有するが如き之なり。

爲替相場騰落の單位　爲替相場の騰落には一定の刻みあり。此刻み即ち騰落の單位をポイント Point と名け。或は一ポイント或は二ポイントと云ふが如く上下するなり。ポイントの例をあぐれば左の如し。

倫敦宛相場　一片の十六分の一
米國宛同　一弗の八分の一
佛國宛同　一參
獨逸宛同　一布
印度宛同　一ルーピーの四分の一
支那宛同　一兩又は一圓の四分の一

爲替相場騰落の影響　外國爲替相場支拂勘定に於て騰貴し、受取勘定に於て下落する時は我通貨の下落、外國通貨の騰貴なるが故に、外國貨幣にて金額の一定せる支拂額も受取額も共に內國貨幣の多額を示すことゝなり、債權者の利、債務者の不利となり、貿易上より見れば輸出業者の利となり、輸入業者の不利となり、輸出品は外國に於て低價にて販賣し得ることゝなり輸入品は內國にて高價につく計算となり、從て輸入減少、輸出增加、正貨流入の因を發くべく、從て國內金利の低落を招來することゝなる譯なり。之に反し相場下落せば其影響上述の諸項に相反し、外國貨幣にて金額の一定せる支拂額も受取額も、內國貨幣にて少額を示すことゝなり、債權者及輸出業者の不利、債務者及輸入業者の利となり、輸出品は外國にて高價、輸入品は內國にて低價を呼ぶことゝなり、從て輸入は增加し、輸出は減少し、正貨は流出、國內金利は騰貴の勢を促すべし。

利子歩合と爲替相場との關係　爲替銀行は爲替手形買入に對して邦貨を要す。その爲替買入資金は(1)日本銀行の外國爲替資金を借受るか(2)爲替銀行自身の預金借入金によるか、又は(3)コールマネーを漁るか等によるべく、又爲替手形賣渡に就ては內地にては邦貨を受取るも支拂地に於て其支拂に充つる資金を有せざるべからず。此資金は(1)爲替銀行自身の有する在外資金によるか(2)政府又は日本銀行の在外資金拂下によるか又は(3)海外市場のコールを取入るかに依らざるべからず。故に手形は其支拂地に於ける利子廉ければ割引率低かるべく、從て其手形は振出地に於て高價を呼ぶべきも、之に反し支拂地の利子高ければ割引率も從て高かるべきを以て手形は振出地に於て低價を稱ふべし。又振出地の利子高ければ手形の所有者は速に其手形を賣却し現金を得て運轉する方有利なるが故に手形の價格は低かるべきなり。

クロッス・レート　新聞紙上に散見する海外に於ける爲替相場は概ね其電信爲替相場にして、こは一面には其國の財政經濟狀態を暗示せるものと云ふべく、例へば英米爲替の騰貴は英國並に歐洲諸國經濟力の回復を示すが如し。

歐洲戰爭勃發に當りて交戰諸國は巨額の軍需品並に食料品を輸入して輸入額の激增を見たるに加へて、一方國內の生產力の減退せる爲輸出の縮少を免れず、貿易入超を示し、剩へ船舶の一部は政府に徵發されて軍用に就き一部は航海危險の爲繫留され自ら運賃收入激減し、手數料の收入亦同樣の影響を蒙り結局爲替相場不利となり、中立國に對しては貨幣價値低落せり

クロッス・レートとは爲替相場を第三國より見たる稱にして英佛間のクロッス・レートも、佛伊間のクロッス・レートもあり得るも、單にクロッス・レートとのみ呼ぶ時は倫敦紐育の爲替特に電信爲替相場を指すなり。

對米爲替相場の騰落　外國爲替相場は兩國間の支拂差額に依りて定まるを定理とするも實際は必ずしも此關係のみによりて相場の騰落を見るにあらず。外國爲替相場の變動絕ゆるなき間に在りて、最も安定に近きは日米爲替にして、時に英米爲替によりて影響を受くることあるも多くは日米間及び日本の全外國に對する輸出入關係によりて騰落し、其他の國に對する爲替相場裁定の第一基礎をなす。而して其第二基礎をなすものは對英爲替なりとす。即ち對米爲替相場の上に英米爲替の

變動を加算したるものが我對英爲替相場となり、此對英爲替相場に英佛爲替相場、英獨爲替相場、英印爲替相場等を加算したるものが、夫々我對佛爲替相場、對獨爲替相場對印爲替相場となりて表はるべし。蓋し、我國より歐洲大陸及印度、南米等の諸國に對する爲替は倫敦並に紐育を經由して取組むを最も便利且有利とするを以て之等の間接爲替相場が相場表に表はるゝなり。

英米間クロッス・レートと對英爲替相場の騰落　例へば對米爲替相場四十八弗と假定し、英米間クロッス・レートが三弗九十仙なりとせば

240d(£1)=$ 3.90　なる時は

$48 ゝ 滿斤なるか

の計算によりて我對英爲替相場は算出せらるゝを普通とす。尤も日英間が非常の片爲替を現はす時、又は英米爲替が急激なる變動を示すが如き場合には對英爲替は此裁定相場に依らざる場合ある事勿論なり。

對英米以外の爲替相場の騰落　對英米以外の爲替相場は主として我對英爲替と英國對該國の爲替相場を基礎として裁定さるゝなり。例へば對佛爲替相場は對英爲替相場と英佛間クロッス・レートとを加算したるものなるが故に、對佛爲替を考ふるには(1)英佛爲替關係如何、(2)對米爲替を變動せしむべき英米間クロッス・レート如何を考慮に加へざるべからず。

遮莫爲替相場の推移を考察せんには單純なる一二の事項に就ての調査によりて滿足すべからず、廣く我國際貸借、貿易金融、英米其他各國の經濟事情等に亙り審に研究を遂げざるべからざるなり。

（參照統計等）

▼手形銀面の貨幣

外國爲替手形の額面は大抵支拂地の貨幣を以て記され、利付手形は拂出地の貨幣を以て記さる

▼米國への現送費（大正十年）

運賃保險料利子を合算し百圓に付七十三錢六厘五毛

▼磅價の指數替年表（休戰成立の際を一〇〇とす）

一九一八年十一月	九八、七	二月	九九、一	五月	一〇一、二	八月	一〇一、六	十一月	一〇〇、二
十二月	九八、七	三月	九九、二	六月	一〇〇、四	九月	一〇〇、七	十二月	九八、三
一九一九年一月	九八、九	四月	一〇〇、三	七月	一〇一、七	十月	一〇〇、三		

一九二〇年一月	九八、五	六月	一〇六、三	十一月	一一一、二	四月	一一〇、〇	九月	一一四、六
二月	九四、九	七月	一〇〇、二	十二月	一一四、五	五月	一一九、一	十月	一一三、七
三月	一〇二、九	八月	一〇〇、一	一九二一年一月	一一三、四	六月	一一七、八	十一月	一一八、一
四月	一〇九、七	九月	一〇〇、二	二月	一一〇、九	七月	一一二、九	十二月	一一七、五
五月	一〇七、五	十月	一〇八、二	三月	一一五、〇	八月	一一五、〇	一九二二年一月	一一五、六

▼海外爲替相場の一例　（大正十一年四月）

○倫敦	四七法四六參	（紐育	四弗四一三/四仙	○銀塊相場			
巴里宛	一馬一八〇布	倫敦宛	四七弗五/八	倫敦	三四片三/八		
伯林宛	二二馬七二布	横濱宛		紐育	六七仙三/八		
ベルン宛	一志三/一六						
孟買宛	二志二/一六						
横濱宛							

第二節　特別の原因に依る爲替相場の變動

正金輸送點の例外　外國爲替相場極端に騰貴(支拂勘定に於て)する時は、外國への送金者は多額の金貨を支拂はざれば手形を買入る能はざるを以て、最早手形を買ひて之を送る事なく、寧ろ正貨を現送するに至るべく、又極端に下落する時は輸出商は手形を造りて銀行に賣る事なく寧ろ正貨を取寄すべきを以て、外國爲替相場は、正金輸送の經費を超えて騰落することなし。即ち正金輸送點 Specie Point によりて自らの限度あるものなれど、正金輸送點の作用せざる場合も少からず。其最も著しき例は、(1)恐慌、(2)戰爭、(3)正貨の輸出禁止の場合、並に(4)紙幣國に對する場合等之なり。

右の場合に於ける爲替相場の騰落は、二國間の貸借關係が均衡を保てる時は極端ならず、又長期に亙る事無かるべきも其貸借關係が均衡を失する時は忽ち正金輸送點を超えて動搖することあるべし。

恐慌と爲替相場との關係　他國に恐慌起る時は銀行は恐慌國に宛てたる手形は不渡の虞あるを以て之を買取るを喜ばず、又商人は手形を賣急ぐを以て其爲替相場は自ら下落すべし。又自國に恐慌起りたる時は金融逼迫するを以て、輸出業者は速に賣りて現金を得んとすべく、輸入業者は買入を一日にても延期せんとする爲其爲替相場はまた下落を免れざるべし。

戰爭と爲替相場との關係　戰爭の場合も亦恐慌の場合と相同じ。殊にモラトリウムの布告、不換紙幣の發行、信用組織の動搖等を慮り、競ふて正貨の獲得に勉むべく投賣の爲めに暴落を來すは睹易き道理なり。敵國宛の爲替に於て特に然りとなす。

金の輸出禁止と爲替相場との關係　金の輸出を禁止されある場合に正金輸送點のなきは無論なり。左表は其一斑を語れり。

	(倫敦宛)	(巴里宛)	(紐育宛)
大正三年七月末	二、〇七/16	二、五六	四九、5/8
同　六年七月末	二、一二/16	二、九五	五〇、7/8
法定平價	二、〇九/16	二、五八	四九、7/8

紙幣國と爲替相場との關係　金貨と紙幣との間に法定平價なるものなし、されば紙幣にして減價せずんば爲替相場を支配するものは支拂差額のみなるも、一たび紙幣にして減價せば、爲替相場は支拂均衡と紙幣の減價との二重作用を受けて騰落すべく結局外國債を起すにあらざれば其爲替關係の調節さるゝ事困難なるべし。

第三節　銀塊相場高低の觀察

銀塊相場騰落の影響　金貨國と銀貨國との間には法定平價なく、兩國の支拂差額と金銀比價の變動によりて爲替相場は非常の動搖を免れず、此點に關しては別に研究の要ありとす。

現に銀本位を採用せる國、並に主として銀貨の流通せる國は支那、印度(金爲替本位制なれど銀留比は無制限に通用せり)暹羅等にして、支那及印度は我輸出貿易の仕向地として、又印度は棉花の輸入先として、共に銀價の變動より蒙る我貿易上の影響は頗る大なるものあり。

銀の需給　銀塊相場とは金と銀との比價卽ち金銀交換の割合にして、其變動は此兩種金屬の生產額の大小、並に其工藝用及貨幣用としての需要の强弱に依て生ずべし。

世界に於ける銀の主要產地は墨西哥、北米合衆國、加奈陀等にして、就中墨西哥は世界銀產額の三分の一を產出すと稱せらる。其產額の消長は切實に銀塊相場に感應すべきなり。

倫敦及紐育銀塊相場　世界の銀塊相場は倫敦及紐育に於ける銀塊相場を基本とす。前者は$\frac{222}{210}$卽ち九二五位の標準銀一オンスに付幾片と定めて之を發表し後者は純銀一オンスの相場を公表す。蓋し倫敦は一には多年の習慣に依ると、又一には歐

洲諸國の註文を控へ、且銀の最大需要國の一たる印度を屬領とせる等の理由に依り、世界銀塊市場の中心と稱せられ、其相場は世界銀塊相場の基本をなすなり。

倫敦に於ては同地の銀塊アローカー毎日會合し、相場を建てゝ之を發表す。米國には斯る會合なきも倫敦銀塊相場を其日の英米爲替相場に基きて確實なる仙の相場に換算したるものを紐育銀塊相場となす。細説せば紐育の銀塊相場は右の如く其日の倫敦銀塊相場を米貨に換算したる後、倫敦相場は九二五位の銀塊を標準とするが故に之を純分の割合によりて換算し、之より銀塊純分試驗費、買入日より發送日迄の利子、紐育より倫敦までの海運々賃、荷造費、保險料、運送中の利子、發送中に相場變動の爲に生ずる損害の保險料多少の利益等の爲め、二十五仙乃至三十仙を引去りたるものなり。

對支爲替相場と銀價との關係　對支爲替相場は對英爲替相場と、英支爲替相場との裁定によりて定まること既に述べたるが如し。然るに英支間の爲替相場は倫敦銀塊相場に依りて決す。例へば上海の對英爲替相場は倫敦の銀塊相場に一、一八二なる恒數を乘じたるものを以て其平準點となすが如し。然るに倫敦の銀塊相場は銀塊の需給關係以外に英米爲替相場の變動によりて騰落(卽ち英米爲替下落せば銀塊は騰貴を示す)すべきを以て、若し銀塊の騰落が單に後者の原因のみによりて起りたる場合には其影響は英支爲替に及ぼすと同時且同率に日英爲替相場(日米、英米の裁定)にも影響するを以て、結局此場合には日支爲替は倫敦銀塊相場變動の影響を受くること無かるべし。故に日支爲替の相場は倫敦銀塊相場より英米爲替相場の影響を差引きたるもの換言すれば、紐育、銀塊相場の騰落と、歩調を一にして動搖するものと云ふべし。之を實例に徵するに

	倫敦銀塊相場	紐育銀塊相場	上海對日爲替相場
大正九年十二月九日～十一日平均	三九、6/8	六〇、1/2	七一、3/8
同　十年五月十日～十二日平均	三五、〇〇	六〇、7/8	七二、1/4

右の場合に於ける倫敦銀塊相場低落の理由は、九年十二月の當時は英米爲替三弗四十五仙附近なりしもの十年五月には三弗九十九仙乃至四弗に恢復せることに基因せるが爲にして紐育の相場に於ては兩期に著しき差あるを見ざりしを以て上海爲

替相場は倫敦銀塊相場に約一割の低落ありしに拘らず、左迄の變化を見ざりしなり。

銀塊相場騰落と對銀貨國貿易消長との關係　銀塊相場騰貴する時は銀貨國貨幣の對外價値增大すべく、即ち銀貨の有する購買力の增大となり、金貨國より銀貨國への輸出增加すべく、之に反し銀塊相場下落する時は銀貨國貨幣の對外價値の下落、銀貨の有する購買力の減少となり、從て金貨國より銀貨國への輸出は減退すべし。又輸入の見地よりすれば銀塊相場の騰貴は金貨國の貨幣の價値が銀貨國に對して下落するものなるが故に、金貨國の銀貨國よりする輸入品の價格は騰貴し、從て輸入減退の勢を作るべく、之に反し銀塊相場低落する時は金貨國の貨幣の價値が銀貨國に對して騰貴するものなるが故に、金貨國の銀貨國よりする輸入品の價格は低落し、從て輸入增進の因を作すべし。されば銀貨の下落は銀貨國の輸出を盛にすること恰も銀貨國に於ける輸入保護稅、輸出奬勵金の如きものとなるべしと雖も、銀貨國の生產者が金貨國より生產に要する機械器具の類を輸入する時は之に對し前よりも高き代價を支拂はざるべからざるが故に、かかる場合には銀塊下落の影響は一部のみに限らるべく、又銀貨國より粗製品を輸入する金貨國の生產者は前よりも粗製品を安價に買入ることを得て、同じく生產費を減少し得るを以て其製品の銀價下落による輸出困難の程度は著しく緩和せらるるものと謂ふべし。

我對支輸出は大體に於て下半期に於て盛なるを常態とするも、亦銀價騰落の跡を逐ひて消長するを常とするが故に、銀塊の市場强調を呈する時は其貿易盛となり、銀塊相場の前途不安なる時は對支輸出貿易の將來も亦樂觀を許さゞるなり。

銀塊相場と放資との關係　銀貨國に放資する金貨國の資本家は、其資本より生ずる利益を金貨に換算して計算するを以て、銀塊相場の下落は其利益の減少を齎し、銀塊相場の騰貴は利益の增加を示すものと云ふべし。

印度爲替と銀塊相場との關係　印度は金爲替本位にして法律を以て金銀比價を定め(一磅＝十五留比)內國にては金銀兩貨幣を流通せしめ外國に對しては金を以て決濟する制度なるが故に、對支爲替の如く直接銀塊市場の影響を受くるものにあらずと雖も最近戰爭中銀塊相場の奔騰によりて銀價は法定價格を超ゆるに至り、留比爲替の相場は銀貨國と同じく銀塊相場の影響を受くるに至れり。

抑々印度は每年輸出超過を示すを常とするを以て、印度の銀行は此輸出爲替資金を

得る爲め倫敦に於てカウンシル・ビル Council Bill を買取る。カウンシル・ビルとは英國の印度省が印度政府の大藏省宛に發行する留比爲替手形にして倫敦に於て英貨を以て賣渡し、其手形を以て印度政府が英本國に對し支拂ふべき政費其他の決濟に充つるものなり。我國亦印度より輸入したる棉花の代金支拂の爲倫敦に於てカウンシル・ビルを買取り以て印度に對する支拂に充るを普通とするものなるが、前記の如く銀價の暴騰と英國に於けるカウンシル・ビルの賣出制限とによりてカウンシルビルの相場亦銀塊相場によりて上下することゝなり、從て金爲替本位國たる印度に對する爲替相場も銀塊相場の影響を受くるに至れるなり。

銀塊相場騰落と對金貨國貿易消長との關係　銀塊相場の騰落は、啻に銀貨國との直接貿易の消長に關するのみならず、英米間クロッス・レートの如きも銀相場の變動によりて左右せらるゝこと少からず、殊に金貨國に對する輸出商品中銀貨國に關係あるものゝ販賣に大關係あるべし。例へば銀價下落する時は米國に對する我生絲の輸出は打擊を蒙るべし。何となれば米國に於ては日本より生絲を輸入するよりも銀貨國たる支那より輸入する方採算上有利となるべければなり。之に反し銀價騰貴する時は米國は支那よりの輸入には從前よりも多額の金貨を支拂はざるべからざるを以て、生絲の注文は勢日本に向て發せらるゝに至るべし。殊に米國は銀の大產出國なるが故に銀の騰落は同國銀鑛地方の景氣を左右すべく自ら生絲の需要を增減せしむるものあり、上述の關係と相待つて我輸出貿易に波動を及ぼす事少からず。

（參照統計）

▼世界の銀產高　（千九百二十一年）

總計數量　120,000 千（瓦オンス）　（銀產額ノ約三分ノ二ハ米國及メキシコより出づ）

▼主要銀產國の銀產額　（大正八年）

墨西哥　六三 千貫　北米合衆國　四五八 千貫
加奈陀　二三　日本　四五

▼歐洲戰開始後銀貨騰貴の原因

1. 歐洲諸國補助貨鑄造の爲盛に銀の吸收に勉めたる事
2. 米國の銀坑地方に於ける勞力の缺乏、生產高の增加（活動寫眞の流行に伴れ需要多し）
3. 墨西哥に於ける內亂の結果銀坑の多く廢棄されたる事

▼銀塊相場

(年次)	倫敦 (最高)	倫敦 (最低)	紐約 (最高)	紐約 (最低)
大正七	四九、〇片	四二1/2片	一〇一1/8仙	八五1/8仙
八	七九1/8	四七3/4	一三七1/2	一〇一1/8
九	九八1/2	三八7/8	一三五、〇	六〇、〇
一〇	四二1/2	三〇5/8	七三5/8	五三3/4
一一	三七2/8	三〇3/8	七三7/8	六三3/8
一二	(六月)三三1/61	三一1/16	六六3/4	六三

▼對支爲替相場と倫敦銀塊相場との關係實例　(大正五年に表はれたる)

月	銀塊相場	上海參着
一	二六、九六	八〇、一三
二	二六、九八	七九、四四
三	二七、五一	七七、一八
四	三〇、五四	七一、八七
五	三五、五六	六六、五〇
六	三一、一三	七一、五三
七	三〇、〇五	七四、一五
八	三一、四二	七一、七一
九	三二、五四	六八、六五
一〇	三三、三六	六八、一一
一一	三四、〇八	六三、五八
一二	三六、四一	五九、六一

▼倫敦の重なる銀問屋

毎日倫敦シャープス、ウイルキンス事務所の一室に會合して相場を立つる銀塊ブローカー四名

モーカツタ、ゴールドスミツド

サミユエル、モンタギエー

ピツクスレー、アーベル

シャープス、ウイルキンス

外に賣方としてのみ引合に參加する米國銀塊問屋アメリカンスメルチング、リフアイニング商會倫敦出張員あり

▲倫敦銀塊相場の發表

此相場の結果は平日は午後一時四十五分、土曜日は午前十一時四十五分發表す。買手は此相場の外に手數料として取引額の八分の一パーセントを支拂ふ此手數料は賣方買方ブローカーに於て二分す

倫敦よりの銀塊積出は毎週金曜日

▼經濟の重なる銀塊問屋

スメルチング、リフアイニング商會、リンデイー、ハーマン、ローゲル、ザントルマン等

▼對外爲替を取扱ふ重なる銀行

横濱正金、第百、香上、チヤーター、インターナショナル、ネザーランド、インヂア商業、貿易、魯亞、パークユニオン、日本興業、第一、朝鮮、臺灣、三菱、住友、安田等の諸銀行

第八章　運輸通信に關する觀察

第一節　交通機關の收入額

荷動數量と景氣との關係　産業の發達と交通機關の進歩とは兩々相伴ふものなるが故に、交通機關發達の狀態を以て産業進歩の程度をトするを得べく、又運輸交通の情況によりて市況の好惡を察するは難きにあらざるなり。市場好景氣を呈する時は商品の荷動繁くして貨物の出廻多く、不景氣の時は貨物の出廻自ら減少すべきを以て市價暴落に依る投賣其他特別の理由に依らざる限り一般財界の狀態は荷動の景況によりてトするを得べく、鐵道及船舶の營利力は商業狀態の指數とも見るべきなり。只其具體的に表はるゝ時機が手形交換高、株式市價の如く鋭敏にあらず、稍後れて表はるゝ事に注意すべし。

鐵道運賃收入統計　我國に於ける鐵道は殆んど國有なれば、毎月發表せらるゝ運賃收入表を前月及前年の同期と對照し貨物運賃、運輸數量、品種、仕向地乘客數等に著眼し、尙之を線路哩數と對比して研究せば商勢の向ふところを窺ふに足らん。

鐵道院運輸局報告に依る國有鐵道收入概算に依る時は、各管理局及各線毎に營業哩平均營業哩、旅客人員、貨物噸數、旅客收入、貨物收入並に一日一哩平均收入等を載せあり。重要なる參考資料たり。

參考統計

鐵道省運輸局報告　鐵道省鐵道統計資料　內務省土木局統計年報　遞信省海事統計類纂　大日本帝國港灣統計

遞信省年報

（參照統計）

▼國有鐵道平均營業哩

（年次）	哩	（年次）	哩	（年次）	哩
六	五、九二二、七	八	六、一三八、六	一一	六、九六〇
七	六、〇四一、二	九	六、三一五、〇	一二	七、三六

▼世界船舶現在數　（一九二一年六月末）

英國ロイド調査　總噸數百噸以上ノモノ
三萬三千二百〇五隻　六千百九十七萬四千六百五十三噸

▼本邦船舶現在數　（大正十二年六月末）

遞信省調査　百噸以上ノ汽船
千六百八十六艘　三百二十二万八千七百二十五噸

▼國有鐵道平均乘客

（年次）	（人員）	（實銀）	（年次）	（人員）	（實銀）
	千人	千円		千人	千円
六	一七七、二〇七	五八、七七七	九	三七二、三三六	七〇、二四九
七	二三五、二〇九	七五、五三七	一〇	四一四、一〇八	二二、四四一
八	三二四、三三九	一四八、五一六	一一	四七四、七二四	二三〇、九四四

▼同貨物噸數及貨價

(年次)	(噸數)	(運賃)
	千噸	千円
六	三九、一三六	六五、五九五
七	四六、〇四〇	八二、〇三五
八	五六、二〇五	二二四、八五二

▼同一日一哩平均收入

(年次)		(年次)	
	円		円
六	七五、四六	一〇	一五八、〇八
七	九六、六八	一一	一七二、四二
八	一二二、五一	一二(五月)	一七四、一二
九	一四〇、六二		

(年次)	(噸數)	(運賃)
	千噸	千円
九、	五四、五六一	二九、〇一九
一〇	五二、一〇五	一六二、六四七
一一	五七、二二六	一五九、五九一

第二節　市況と海運との關係

海運界の觀察　運輸貨物の增減は海運業者收入の消長となりて顯はるべく、海運Shipping Tradeの盛衰は造船業の興廢に關係すべく、造船業の興廢は勞力・鐵鋼並に石炭の需給を伴ふべく、全經濟界に反響する蓋し少きにあらざるなり。

海運の收入に著眼する者は、其原因が近海航路に依るか遠洋航路に依るかを確むべく、又貨物の仕向國、品種、人員を調査すべく、巨細貿易統計表を參照すべし。海運の活躍は好景氣の反影なるを以て、鐵道運輸數量の增大と共に喜ぶべき現象なりと雖も貨物出廻の突飛なる增加は銀行貸出高の急激なる增加と同樣最も警戒を要すべきなり。

海運々賃の騰落　海運々賃は運送に要する生產費のみによりて決定せらるゝものにあらず、運輸數量と供給船舶との關係によりて著しき影響を蒙るべし。換言せば海運々賃は產業貿易の發達と現在船舶及造船數との需給關係によりて上下すべし。即ち商況活潑にして船舶の供給少き時は自ら運賃の騰上を見るべく、運賃の比較的低廉なる航路に用ゐられ居る船舶、停船多く又は積荷少き港に在る船舶等は有力なる港に仕向けらるゝ傭船等に對しては生產費以下にても運搬を約し、所謂Bal-last Voyageを營み以て此方面に集中するに至るべし。此競爭は不定期船に於て特に甚しきを常とす。既にして海運界活況を告ぐるや一方には造船盛に行はれて船舶の供給增大するに至り、相俟つて船腹の增加は遂に運賃昂騰の勢を抑ふるに至るべし。かくの如き變動は地方的一局部に起りて漸次世界的變動を惹起するに至るべしと雖も、世界運送貨物の數量は之を豫想する事難く、又造船には少くも數ヶ月の日

子を要するを以て事業界活躍に際しては或期間は船主全盛の期あるべく、之に反し一度沈滯に陷るや、再び復歸順境の域に達するには更に貿易の發達と老朽船淘汰とに俟たざるべからざるが故に、其期間は自ら長きを免れざるなり。

傭船契約と市況との關係　海運と市況との關係右の如しと雖ども、就中傭船契約 Charter Party 特に定期傭船契約 Time charter の盛に締結さるゝは市況の好調尙持續さるゝを暗示するものと謂ふべし、殊に其期間の長きもの多き程將來の好況を豫期せるものと云ふを得べし。

運賃市場　海運運賃の變動すること右の如く、船腹の需要と供給とに依りて定まるものなるを以て、船舶仲立人、積荷周旋人、廻漕問屋等は船舶と積荷の現在及將來の關係を豫想して先相場を建てゝ運送契約に應ず。此運賃建相場又は仲直を運賃市場 Freight Market と云ふ。かくて運賃市場の標準は永續的にして且多量に運搬せらる、或航路の運賃率にして此賃率は他の一般積荷及航路に於ける賃率の標準をなすものとす。世界市場にては太西洋の穀物運賃、我國にては門司横濱間の石炭運賃は即ち之なり。蓋し石炭は概して一定方面に對し一定量の運送あるものにして、而かも季節的に出廻の差異を生ずる事少く、需要供給共に亙久的のものなれば其運賃は主として船腹の關係によりて高低すべければなり。

されど等しく石炭運賃と云ふが中にも、特に門司横濱間を採る所以は、瀬戸内海は種々の原因殊に曳船輸送の便あるを以て之れに牽制されて公正なる騰落の基準を示す能はざるを以て、外海を航行すべき横濱行運賃を採れる所以なり。

海運々賃低落の趨勢　海運々賃は產業の發達に伴ひ一般に低落の機運に向ふものと云ふべし。其理由は

1. 海運は全然世界的事業となり、同業者增加して競爭自由に行はれ、船舶は隨時隨所に廻航されて船腹の不足を緩和すべく
2. 石炭の消費減少は機關工業の進歩に伴ひて著しく航漕費を節約せしめ
3. 建造費減じて固定資本を少からしめ
4. 造船業の進歩は大船を建造して益々大量運送に適することゝなり
5. 積卸の設備完成して船積貨物の陸揚卸下の費用を節するに至れること

等に基因するが如し

▼運賃、傭船料、船價の一例　（大正十二年十月）

	最高	最低
門司横濱（石炭）	四、二〇円	二、八〇円
北米（雜貨）	六、〇〇弗	四、五〇弗
大連歐洲（穀類）	二八、〇〇志	二五、〇〇志
傭船料 大型	一、六〇円	
傭船料 中型	三、〇〇	
傭船料 小型	四、五〇	
新造船價 大型	一一〇円	
新造船價 中型	一二〇	
新造船價 小型	一五〇	

第三節　通信統計の觀察

通信統計　郵便・電信・電話の使用增加は景氣の盛なる證跡にして亦以て市況の一斑をトするに足らん。

参考統計　通信省通信統計要覽

（参考統計）

▼電信、書狀、雜書等統計

（年次）	電信通數	書狀	雜書	新聞雜誌	人口十ニ對スル比例
大正三	三三、二六九千通	三九三百万通	一〇四〇百万通	二一二百万	三三九
四	三三、九四四	四二二	一〇九三	二〇二	三四六
五	四〇、七三八	四六〇	一一九八	二二五	三六九
六	五二、五四三	五一六	一四三四	二三八	四二一
七	六九、一六〇千通	六二九百万通	一四〇〇百万通	二四三百万	四八八
八	七四、一四九	八〇四	一〇三一	二六二	五九五
九	六九、四六九	九二九	二三九一	二三八	六八〇
一〇	六九、五六五	九七七	二四四二	二九五	七〇四

第九章　倉庫業に關する觀察

在庫貨物の增減と其著眼點　在庫貨物の增減も亦市況觀測の重要なる資料なり、されど其研究は單に在庫數量に就てのみに止まらず、其價格に就ても研究を遂げざるべからず、價格も在庫高も共に減退するは需要減退によりて生ずる價格の滯貨山積と共に財界の不況を語るものにして、漸次販路開けて滯貨減じ價格の方面に騰上を見るは景氣回復の現象なり。價格增加し在庫高の增加するは商品荷動般盛の證

左なりと雖も繁榮期に於ける在庫高の激增は警戒を要すべき也。然し乍ら商品の出廻時期には自ら其商品の入庫多かるべきを以て庫入貨物の研究は單に在庫殘高のみに拘泥することなく入庫高と出庫高との數量を研究すべく、又單に其合計金高にのみ著眼する事無く數量に就ても研究せざるべからず。何となれば物價低落する時は在庫數量に於て減少を見ざる場合にても在庫金高に於て減少を示すべければなり。明治三十六年以來大正八年に至る大阪五大倉庫に於ける貨物の入出庫の狀勢を見るに大正四年迄は其增加の勢、徐々たるものなりしが、五年以來急激に增加し、入庫は約十六倍半出庫は約十五倍半となり其增加實に突飛なるものあり。かくて大正八年十月迄は入庫高增加すれば出庫高も亦增加し、同時に在庫殘高も亦增加し、概ね順調の道程を進み居たりしが、同十月を境として其後入出庫共に增加せる中にも出庫增加率は漸次減退を示し、在庫高は月を逐ふて急激なる增加を來し以て大正九年四月の財界反動期に及べり。而して財界の反動期に入るや、俄然恐慌狀態に陷り、相場暴落し取引杜絶し、貿易衰退に伴ひて出庫貨物の減少を來し、一方著しく擴張せられたる內地產品、巨大なる輸入品等は忽ち停滯を示して滯貨山積するに至れり。然るに入庫は大正九年四月を頂點として漸次下降し、製造者は生產を制限し、輸入は漸減し物價は下落し、在庫高は七月を頂點として之亦遞減するに至り各倉庫會社は在庫の稀少を示すに至りぬ。

▼大阪五大倉庫入出庫狀況　（明治三十六年を一〇〇とす）

（年次）	（入庫）	（出庫）	（年次）	（入庫）	（出庫）	（年次）	（入庫）	（出庫）
三六	一〇〇	一〇〇	四一	一八一	一五〇	四	二七九	二六九
三七	一四一	一二九	四二	一四七	一四六	五	五五五	四九七
三八	一七四	一四一	四三	一八八	一九二	六	九六六	九〇五
三九	一六五	一七一	四四	二二五	二二一	七	一四二〇	一四〇四
四〇	一七七	一七四	元	二五二	二四四	八	一六四六	一五六〇
四一	一八四	二四七	二	二四五	二四七			

▼大正八、九年大阪五大倉庫入出庫在庫高統計　（單位百万圓）

月	入庫	出庫	現在	月	入庫	出庫	現在
八年一	八〇	八一	一八九	九年一	一二四	一〇六	二八〇
二	九〇	八五	一六四	二	一四六	一三三	二九三
三	九〇	八九	一九四	三	一九〇	一五四	三二九
四	一〇〇	八七	二〇七	四	二一二	一四八	三九三
五	一〇八	九四	二一一	五	一九五	一四四	四四四
六	一〇九	一〇三	二一七	六	一四二	一〇八	四七六
七	一〇一	九九	二二九	七	一〇三	九四	四八七
八	九六	一〇一	二二三	八	八六	九一	四六五
九	一〇六	一〇三	二三〇	九	七六	一一一	四一〇
十	一一三	一一三	二四七	十	六三	一一九	三六二
十一	一四〇	一二三	二四七	十一	七三	一一〇	三三四
十二	一六七	一四二	二七四	十二	七二	一一〇	二九四

全國主要倉庫在庫貨物價格

（各年六月末現在、單位千圓）

（年次）	（價格）
七	五二六、五五五
八	七五一、五一九
九	八五五、二六一
十	五五〇、七七五
十一	四〇二、六九四

第十章　物價に關する觀察

物價變動と景氣との關係　物價の變動は言を換ふれば貨幣價値の變動にして、經濟界の盛衰を測定する有力なる標準たり尺度たるものなり。債權債務は之が爲めに影響を蒙り、定額收入の增減、定額負擔の輕重となるべし。

物價の高低が需要と供給との關係によりて定まるは明かなる處にして、好景氣の場合にありては物價は一般に騰貴すべく、物價騰貴せば工業者は普通低廉なる原料と勞力とを利用して造りたる製品を高價に賣却する事を得るを以て利潤從て多く工業界は自ら勃興を來すべく、商人も低廉に仕入れて高價に販賣する勘定となるべければ、定額債權を有する者、定額の給料賃銀に衣食せるものを除きては物價の騰貴は一般實業界に有利の影響を與ふるものと謂ふべく、又政府の財政にも一般に利益を與ふべし。何となれば官營事業は之が爲め其收入を增加すべく、實業界の所得增加は自ら租稅收入高の增大、徵稅の容易を馴致すべく、一方經費の膨脹を差引くも大體は利益の結果を示すべければなり。然れども物價騰貴其度を超ゆるや、投機熱起り事業界は過度の膨脹を示し、好景氣は茲に停止して一般經濟界は不安となり、購買力減少すべく、輸出衰へて輸入は增加し、正貨の流出を招きて兌換制度の基礎を危うするの虞あり、財界は最も警戒を要する時機に入るべし、而して一たび打擊の到るや、投機事業瓦解し、有力なる銀行會社の破綻となり物價俄然下落して不景氣の時代に入るべし、かくの如くして恐慌の後は物價の低落二三年を續くべく、相當期間不況の後物價の漸く擡頭し來るは實に景氣回復の曙光と見るべし。

物價と金利との關係　定額債權者は物價騰貴の爲に損害を蒙るべきを以て、初めより物價騰貴の傾向明かなる時は、豫め金利を引上げて此損失を補はんとするを以て勢ひ金利の騰上を見るべく、其引上は極端には行ひ難きを以て、其程度は物價の騰

貴に伴ふこと能はざるべきも大體に於て金利は物價に正比例すべき事は爭ふべからざるの道理なりとす。

物價指數の作成　然らば此測定の基準たるべき物價表は如何なるものなるかと云ふに、元來物價表の目的は幾多の消費品を集めて其物價を平均し、各種物價の變動を惹起せる一時特別の變動を互に相殺せしめ平均數を算出し以て高低の趨勢を知らんとせるにあるが故に、其平均なるものは價格と分量とを併算せざるべからず。こは頗る困難なる事業なりと雖も成るべく、(1)季節によりて其重要の度變化せざるもの、(2)價格の變動甚しからざるもの、(3)消費量に著しき懸隔なきものを選び仔細に其分類されたる內容に就きて、經濟上に及ぼす變動・差異に著眼すべし。現に物價の指數は日本銀行の調査にかゝるものゝ外、東洋經濟雜誌社、商業會議所、新聞社等の發表するものあり。依りて以て參考となすべき也。

國內商品の市價と國際商品の市價　國際商品 International Commodities とは國際貿易品として取扱はるゝ商品にして、我生絲・茶・銅の如きは之に屬し、其需給關係は廣く世界諸國に亙り、其市價安ければ輸出を促し、高ければ外國品の競爭を受くべきが故に大體其市價は運賃保險料等を除き各國平準に歸せんとする傾向あり。之に反し國內商品とは取引の範圍概ね國內に制限せらるゝものにして我國の酒・醬油・味噌・薪炭・魚類・菓子は固より、內地用反物・畳表・不動產・有價證券の大部等は之に屬す。之等貨物の市價は間接に國際取引の影響を蒙るべきは論なきも直接には外國市價の影響を蒙ることなく、主として國內の需給によりてのみ定まるものと云ふべし。

物價騰落の順序　物價の騰貴又は下落の趨勢に向ふや取引所に於て賣買せらるる株券の市價其先驅をなし、次で他の株式に移り、次に物產取引所に於て賣買さるゝ原料品・鑛產品・卸賣商品(橫濱の生絲・大阪の三品等)に及び、最後に小賣商品の市價に現はるゝものとす。銀行割引日步の騰貴は普通物價の騰貴に遲るるも終には其勢極めて大となるものあり。又地價の騰貴は財界の好況正に爛熟の域に在るを語るものなり。

原料品の市價の特に騰貴せる場合は工業者の利益を減殺すべく、製品が特に騰貴したる場合は其利益を增大すべし

(參照統計)

日銀物價指數算出品目

日本銀行發表の物價指數は左の五十六品目の平均指數なり

經濟界概況要覽

穀類—米、大麥、裸麥、小麥、大豆、小豆、小麦粉、

調味料及嗜好品—砂糖、製茶、鹽、味噌、醤油、酒、鰹節、鶏卵、刻煙、西洋煙、

繊維工業品—生絲、羽二重、絹手巾、甲斐絹、絹織物、織絹、絹糸、白木綿、金巾、綿織、麻、フランネル、毛斯倫、毛織子

金屬—洋鐵、洋釘、銅、

燃料—石炭、油、石油、薪、炭、

建築材料—木材、石材、瓦、機瓦、セメント

特殊工業品—藍、硝子板、日本紙、洋紙、皮革

肥料—肥料糟、魚肥、油〆粕、

雜品—人參、生漆、木鹽、燐寸

▶物價指數表

(年次)	(指數)	(年次)	(指數)	(年次)	(指數)
明治三六(十月)	100.00	四一	一二五.五五	元	一五四.九四
三四	九四.九七	四二	一二六.七六	六	一九四.三七
三五	九六.九〇	四三	一二〇.三〇	七	二五四.七七
三六	一〇三.〇九	四四	一二四.七〇	八	三二一.九八
三七	一〇六.三六	大正元	一二二.〇七	九	三四三.一九
三八	一一六.三六	二	一三二.三四	一〇	三六四.九四
三九	一一九.七四	三	一三六.三二		
四〇	一二六.二九	四	一三七.八四		

月別の騰

	大正九年	大正十年	大正十一年		大正九年	大正十年
一月	三九八	二六三	二七二	七月	三二六	二三九
二月	四二四	二七七	二六九	八月	三二二	二六四
三月	四三三	二三二	二六六	九月	三〇四	二七三
四月	三九七	二三一	二六一	十月	二九八	二六九
五月	三三九	二三二	二三七	十一月	二九二	二六四
六月	三三七	二三三	二六一	十二月	二七一	二六六

明治三十三年十月を一〇〇として算出

▶世界卸賣物價指數比較

	日本	英國	米國	佛國	獨逸		日本	英國	米國	佛國	獨逸
一九一二	一〇〇.〇	一〇〇	一〇〇.〇	一〇〇.〇	…	一九一八	一九九.九	一二六	一二三.二	一三九.二	…
一九一三	九六.五	一〇〇	九六.七	一〇一.〇	一〇〇.〇	一九一九	一二九.五	一四二	一二二.七	一三六.八	…
一九一四	九六.七	一一七	一〇七.〇	一二九.八	…	一九二〇	一三七.九	一二四	一六七.二	一四〇.四	一三六
一九一五	一一七.二	一六〇	一二八.四	一六七.〇	…	一九二一	一〇〇.五	一八二	一二二.三	一四四.九	一六六
一九一六	一四八.五	一〇六	一三〇.〇	一六一.六	…						

日本は日本銀行の調査、英國はスタチスト、米國はブラッドストリート、佛國は統計局、獨逸はフランクフルト新聞の調査による

▶又　(大正三年七月を一〇〇とす)

	東京	倫敦	紐育	巴里		東京	倫敦	紐育	巴里
大正10(十二月)	二二〇	一七〇	一二一	三三五	(五月)	二〇九	一七二	一五八	四〇五
11(〃 〃)	一七三	一六六	一五九	三六三	(六月)	二〇八	一六八	一五五	四〇四
三(二月)	一七三	一六九	一五八	三八七	(七月)	二〇二	一六二	一五一	四〇六
(二月)	二〇二	一七二	一五九	四三二	(八月)	二〇三	一六四	一五八	
(三月)	二〇六	一七一	一六一	四二四	(九月)	二〇四	一六九	一五一	
(四月)	二〇六	一七三	一六一	四一四					

▼卸小賣値段の比較指數

(月次)	(一般卸値段)	(小賣値段)	(月次)	(一般卸値段)	(小賣値段)
三年七月	一〇〇	一〇〇	十年六月	二〇一	二四〇
九年一月	三一七	三〇〇	九月	二一八	二五三
三月	三三八	三二六	十月	二三〇	二六四
五月	二八六	二五五	十二月	二三〇	二六二
十二月	二一六	二四九	十一年一月	二一六	二六一
十年一月	二一一	二四二	二月	二一四	二六八
二月	二〇五	二四〇	三月	二一一	二六九
三月	二〇一	二四一			

第十一章　財政の金融界に及ぼす影響

第一節　財政と市場との關係

財政の影響　財政Financeと金融との關係の極めて密接なるは論ずる迄もなし、例へば國債に就ては募集償還借換等、租税に就ては輕重納税期徴收方法等、豫算編成に就ては經常臨時費の區分官營事業の成績臨時歳入金の使途在外正貨の增減各省經費の分配特別會計制度金庫の組織等は直接間接に金融の張弛貿易の消長に關係すべく、又兌換券の發行法銀行制度關税率の改正鐵道船舶工業組織等に關する規則の變更特許を要する會社に關する法律及其施行等は孰れも市場に影響する處少からざるべし。

第二節　租税に關する觀察

租税と一般財政との關係　國費支辨の根本は租税Taxationなり。租税は公債の如き臨時歳入と異り年々繰返さるゝ國家收入の中心なれば、其金融市場に對しても亦重要なる關係を有す。就中徴收の時期並に徴收の金額は其影響する事特に大なるものあり。右の内徴收の時期は法律によりて略々之を知る事を得べきも、金額は明瞭に之を算定する事を得ず、只概かに豫算現計及決算によりて概算するの外なかるべし。

歳入には一般會計に屬するものと特別會計に屬するものとありて、租税は固より歳入の大部なりとは云ふべからざるも之を一體として他の款項と對比する時は租税の右に出づるものあるべからず。現時租税の重なるものを擧ぐれば左の如し。

地租、所得稅、營業稅、相續稅、通行稅、鑛業稅、免換券發行稅、酒稅、醬油稅、砂糖消費稅、織物消費稅、石油消費稅、賣藥營業稅、取引所稅、關稅、噸稅

右の內最も巨額を占むるは所得稅にして酒稅之に次ぎ此兩者にて租稅の大半を占めたり。

租稅と金融との關係　元來國民の所得の大部分は資金の供給として現はるべく最近金融機關普及の爲其感應する處著しく銳敏となれり。故に國民の所得より徵收せらるゝ租稅は資金の供給を少からしむると同時に需要を多からしめ、其結果は金融市場に引締りを呈すべし。而して其引締りの程度は徵稅の時期と金額とに依りて必ずしも一樣ならずと雖も、其收稅額は政府の歲出となりて早晩市場に流布せらるゝものなるが故に、外債の利子其他となりて海外に流出するものゝ外は其影響多くは永久的ならず。

徵稅期の觀察　徵稅の時期に就ては稅法に明に其時期を限定せるものと然らざるものとあり。期限の定めらるゝもの、內にも三種ありて

1. 月日の指定せらるゝもの——第三種所得稅、地租、營業稅、酒造稅、醬油稅、賣藥稅の類
2. 每月一定日限りにて繰返さるゝもの——取引所稅、免換券發行稅の類
3. 事實の發生と同時に徵收せらるゝもの——第二種所得稅、各種消費稅、通行稅、相續稅、關稅、噸稅

現行の規則に依り之を表示する時は左の如し

各種租稅徵收月

月	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三
所得稅 第一種	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
所得稅 第二種	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
所得稅 第三種						△				△		△
地租 宅地租田租		△		△					△		△	△
地租 其他						×		×				
營業稅		△						△			△	△
酒造稅			△									△
醬油造石稅	△								△			△

賣藥稅											△	
取引所稅		△										
鑛業稅		△										
兌換券發行稅	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

徵稅金額の觀察　徵稅金額の計算も亦精確を期し難し、豫算には所得稅額を計上しあるも之を各種類に分類されあらざるを以て、所得稅法の改正なき限り、前數年の統計を平均し其比率によりて略〻其大要を知るの外なかるべし。かくて得たる各種類に就き毎月の徵稅金額を求むるには

第一種所得稅は各會社銀行所得の申告後審査に時日を要すると共に、月により其徵稅額に大小あるも、大體に於て毎月大差なきものとして之を十二ヶ月に平均して可なるべし

第二種所得稅、定期預金の性質を有する銀行利子以外の公債社債利子の支拂は五六・十一・十二の諸月多額を占むるも、之亦大體十二等分して可なるべし

第三種所得稅、地租、營業稅、發行稅等は、納稅期に等分せらるべく、豫算額を納稅期の數を以て除し、以て其期の徵稅額を得べし

納稅期の翌月に跨るものは翌月に納稅するものと見て計算し、消費稅は納稅者に於て擔保を提供すれば三ヶ月間納稅延期の特典あるを以て、之亦金融市場に影響するは三ヶ月後なりとして計算する方事實に近かるべし。

砂糖及織物の消費稅は事實の發生卽ち取引せられたる場合に徵稅せらるゝものにして、取引の高は財界の景況によりて消長あるを以て、其計算には市況の好惡をも考慮に置くの要あり。從來織物消費稅は大阪稅務監督局管內大阪・京都外七縣)の織物消費稅其重要部分を占むるを以て之を基準として計算せば概ね大差なき數字を得べし

酒稅醬油稅は各納期略〻同額と見て差支なかるべく、砂糖、石油の消費稅、相續稅等何れも毎月の徵稅率不明なるを以て年額を十二等分して之を毎月の稅額を見るより外に術なからん

關稅率の變更と市場との關係　關稅 Custom duty は一定の境界線に於て之を出入する貨物に課する租稅を云ふ。關稅は其貨物の消費を標準として賦課せらるゝも

のなれば正に消費税の一種と稱すべきものなり。されば當然商品の價に轉嫁さるべき筈なりと雖も、課税品の種類、性質、分量、税率等の如何に依りて必ずしも其悉くが轉嫁せらるゝものと限る能はず。換言すれば課税によりて夫れだけ其品の價格を引上ぐるものとのみは斷定すべからず、こは課税品が左の何れに屬するかによりて其程度を判斷すべきなり

1. 需要の伸縮力の存否と其大小――價格上れば需要の減退するものは關税の引上は供給者の負擔となる。
2. 供給の伸縮力の存否と其大小
3. 獨占性の有無と其程度――賣獨占の場合は關税の引上は多く輸入者の負擔となり、買獨占の場合は多く輸出者の負擔となる
4. 代用品の有無
5. 內外生產力の大小
6. 內外生產費の多寡
7. 課税率の大小

尙茲に注意すべきは財政的關税は概ね消費者に轉嫁さるゝも保護關税に至りては轉嫁の方向と程度決して一樣ならざることと之なり。

（參照統計）

▼大正十一年度歲入

經常部	一、二三〇、七四四、二五六、〇〇〇円
臨時部	六二八、六五四、七六七、〇〇〇
計	一、八五九、三八九、〇二三、〇〇〇

▼同　歲出

經常部	八八七、三四七、六八三、〇〇〇
臨時部	三三七、九二九、八四九、〇〇〇
計	一、二二五、二六七、五三二、〇〇〇

▼累年租税の一般歲入に對する比率

（年次）	（歲入總額）	（租税の歲入に對する百分比）	（年次）	（歲入總額）	（租税の歲入に對する百分比）
三	七三四	四四三	七	一、四四七	五一九
四	七八八	三二二	八	一、〇六四	四九二
五	八一三	三四八	九	一、三一九	六一三
六	一、〇五四	四三〇	一〇	一、五六一	五五一

▼租稅の關合

過去五ヶ年間の平均割合に徴する時は三種の所得稅は大約左の如き百分率を示せり

第一種　五四%　第二種　一%　第三種　四五%

地租も其分類は豫算に示しあらざるを以て過去の割合によりて概算する外なし　（大正八年度）

田租　六一%　宅地租　二五%　其他　一四%

▼大阪管内物産賣稅　徴收高の全國同稅徴稅高に對する歩合

大正九年十月	六%	二月	七%	六月	九%
十一月	八%	三月	九%	七月	九%
十二月	八%	四月	九%	八月	九%
同　十年一月	七%	五月	九%	九月	一〇%

第十二章　其他

國際關係と市場　國際關係に就ては戰爭の物發は貿易の破壞を來し內地產業の萎靡を招來するを以て經濟界の受くる打擊の著しきは勿論、他國間の武力、外交、商業の衝突にして金利又は有價證劵の相場に影響する事項少からず、其影響の程度は本邦との貿易關係又は資本關係の厚薄、同盟の有無等によりて異るべし。外國の內亂は之に直接關係ある貿易品の價格を低落せしめ、該事業の不振を招くべく同盟協約の成立、對外懸案の解決は財界に好影響を與ふるを普通とす。

勞働の狀態　勞働需要の程度は亦以て市場景氣の一斑を知るべき資料なり。即ち固定資本と運轉資本とが圓滑に活動を續け、生產業盛にして運輸業從て振ひ、財界の景氣好調を示せる時は勞働の需要亦盛なりと雖も、事業界不振、市況不景氣の場合には勞働の需要も自ら減少するを常とす。之を貿易の消長に就て見るも輸出品の價格騰貴して企業家の收益向上する時は、該商品の製造に從事する勞働者の收入を增加せしめ牽て他の職工の賃銀に及ぼすべく、先づ職工收入額を增加せしめ、續いて賃率を高むるに至るべし。されば給料賃銀等は物價の騰落に伴ふて高低するは勿論なるも其時期は遙に一般商品に後れ後には急騰するを常とす。かくて一般に賃銀は財界の好景氣時代に於て物價よりも寧ろ低く、不況時代に於て物價よりも高きを示す傾向あり。而して成年者の勞働賃銀は未成年者女子等の賃銀の如く騰落の幅員大ならざるを原則とす。又不景氣の場合に在りては諸生產業者は其生產方法に改良を加へ、新機械を採用して勞力の節約を圖るを以て、勞働需要と同一の割合に

は生産額を減ずるものにはあらざるなり。

煙草賣上高、麥酒及酒稅消費稅納入高、生命保險契約高等の關係　煙草の賣上高麥酒及酒稅消費稅等の納入高、生命保險の契約高等の消長は何れも財界の景氣に正比例するものとす。此外貧困、死亡、出産、結婚數の統計はまた一般景氣の反影として乘つべからざる研究資料なり。

天災地妖の影響　暴風、地震、海嘯、火災等の天災地變は、其程度により影響する處輕からざるも、其衝動の多くは一時的にして久しきに亙るもの少し。

人氣　人氣とは公衆の人心に感應して綜合的に相場を上又は下に決せしむる心理的の狀態なり。人の需給關係を決定するや初めは冷靜なる判斷より來るも相場の歩みの景況、大手筋の擧動、通信、談話、記事等に刺激せられて遂には熱狂的となり其判斷を誤り、一時的には相場の變調を示すことあり。

（參照統計）

▶一日平均工場使用職工數　（一日平均十人以上を使用するもの）

（年次）	（男）	（女）	（計）	（年次）	（男）	（女）	（計）
三	三一千人	四三千人	六三千人	七	六四千人	七三千人	一、四〇六千人
六	四六千	千二一	一、二千九	九	千〇〇	千八六	一、四八六千

▶物價と賃金との比較　（東京商業會議所調査）

（年次）	（物價指數）	（賃金指數）	（年次）	（物價指數）	（賃金指數）
三	100	100	三	一二四	× 一四四
三四	九三	× 一〇三	四	一二九	× 一四四
三千	一〇四	一〇四	五	一四三	× 一五四
三九	一一一	× 一一一	六	一六六	一八一
四一	一一八	× 一三四	七	二千千	二一四
四三	一一千	× 一三五	八	二〇六	× 二一〇
元	一三一	× 一四一	九	二〇八	二四四
二	一三三	× 一四六			

× 印は賃金の方高き を示せる事也

▶株價指數

四一—元千月	四九、六四二	八千	千四、四三二
元—三千月	四三、九四三	八	九六、四千六
六	六四、六二一		

▶生命保險契約高　（年末現在）

（年次）		（年次）	
六	一、二二四、〇六千円	八	一、〇六二、六四八千円
七	一、三六八、二二九	九	一、四九千、二二一

第十三章　毎月經濟界の常勢

各年の特例を除き、例年繰返さるゝ常勢を摘錄せば左の如きものなり（農事は中國地方のものを記したり、地方によりて異なるを免れず）

一月の經濟界

年末年始用諸品の荷動き依然盛況を呈し、砂糖、酒等の出廻多し（地方により陰曆を用ふる處あればなり）所謂大節季としてさしも繁忙を極めし金融界も、本月に入りてよりは頓に閑散を告げ、二月三月と共に通貨の流通高最も少し。

注意すべき出廻商品左の如し

米穀（俵裝完了の矢先納稅期と舊正月とを控へ、農家の賣急ぎするもの少からず）

羽二重（一、二兩月に限り米國及印度向輕目物の出廻盛なり）

肥料（麥、菌、果樹肥用）

棉花、海產物、

農事＝麥類の踏壓及大小・裸麥・豌豆・蠶豆の中耕及施肥、漬菜類の收穫、果樹類の剪定施肥

二月の經濟界

米穀肥料の出廻盛況を呈し、棉花、砂糖及綿絲の荷動亦活況を示す

羊毛の輸入は三四月頃迄續くべし。

金融界は至て閑散

農事＝麥類の中耕、施肥、果樹類の剪定

三月の經濟界

金融界は此月下旬に一部の引締を見るべきも一般には繁忙を呈せず。製絲家及銀行は各放資の殆んど全部を回收し、生絲市場亦閑散を告ぐべし。然れども一面に於ては夏物仕入資金幷に製茶資金の需要起る

本月の出廻商品左の如し

肥料（藍、蜜柑、桑用）、米、洋傘、下駄等の雜貨、棉花、砂糖、綿絲、下旬頃より新酒出廻る

農事＝麥類の中耕、除草、柑橘類の移植、苗代地の準備

四月の經濟界

荷動き商品

米穀、肥料、棉花、新酒、新茶、砂糖、綿絲

生絲市場は四、五月の頃は古絲大部賣片付き、市場は補充賣買のみとなりて閑散を告ぐ。

金融界は此月下旬頃より漸次活潑となる。

夏物及春挽絲仕入資金の需要漸く多し。

農事——甘蔗、甘藷、百合、薑、玉蜀黍、南瓜、甜瓜等の下種、荷、莢豌豆、二十日大根夏蜜柑等の收穫

五月の經濟界

新茶の出廻盛況を呈し、綿絲の荷動き尙頻繁にして、味噌醬油の原料たる麥及豆の需要期なり

米穀の取引、稻肥として肥料の商狀活躍を見るべく、繭買入資金、夏物仕入資金の需要著し。春繭の取引は此月の二十日より七月二十日に至る二ヶ月間に行はる

前年九、十月以降盛に海外に取組みたる生絲荷爲替代金回收され、國際爲替關係順調となる

通貨流通高は概して少きも此月下旬より急速に增加し、六月中旬には非常の多額となるを例とす。

農事——稻の下種、瓜類の移植郊疇漸く多事ならんとす

六月の經濟界

茶の出廻活況を呈す

鰊粕の出廻繁く肥料界益々躍動す

夏物の仕入尙盛、繭買入資金の需要亦多し

公債利拂額は十二月と共に一年中最も多きも、半期決算を目前に控へ、金融界最も繁忙

農事——麥刈に引續き挿秧の爲繁忙

七月の經濟界

中元贈答品、茶、鰹、小麥、肥料の荷動盛にして、新生絲弗々市場に見はる

製絲資金の需要多しと雖も金融界は上半期決算期を過ぎて一般に閑散

農事──黍、粟の下種、稲田除草、灌漑、害蟲驅除、大麻、藺草の收穫

八月の經濟界

經濟界亦夏枯期に入ると雖も、生絲、三番茶、鰯、小麥、鹽、醬油原料)の出廻少からず、秋物の仕入期に入る

通貨流通高少きを普通とす

農事──稲田の除草、灌漑、害蟲驅除、瓜類の收穫

九月の經濟界

九月、十月は生絲の出盛時期なり。此外小麥、豆類、雜穀、酒、鰊、鰯の出廻多く、多物織出の爲め機業地に資金の需要起り、通貨の流通高稍多きを示し、秋の熟するに從ひ財界漸く活動期に入る

農事──稲花さく、二百十日前後の天候は此年の豐凶を左右す。稲田灌水、野菜類の下種

十月の經濟界

此月の出廻商品左の如し

生絲、新米、小麥、綿絲、海產物、麦粕、酒、薪炭、砂糖、鹽

多物の仕入盛にして資金の需要漸次多し。北海の終航に近づき貨物の需要增加す

農事──早稲、中稲の收穫、野菜類の手入

十一月の經濟界

十二月と共に酒の仕込時期なり。米の需要多し。

生絲、棉花、綿絲、薪炭の出廻を見る通貨流通高には變動多し

農事──晩稲、蕎、百合、甘藷、甘藷の收穫、小麥、大麥、裸麥、蠶豆の下種

十二月の經濟界

米、生絲、酒、藍、棉花其他年末年始用諸品の荷動盛にして、就中生絲は本月迄に當年度總輸出梱數の七八割方賣退く。

春物の仕入資金、幷に春物織出の爲機業地資金の需要多し

年末に金融界の多忙を示すこと勿論なり

農事──大麥、裸麥の下種

第十四章　結論

著眼の要點　財界は廣汎にして複雜なり。個々の現象の獨立して發生することは極めて稀にして、多くは凡百の現象相錯綜して起るを常とす。されば其一斑のみを捉へて直ちに全豹を斷ずる能はざるは勿論なりと雖も、實業家は常に其眼高を高うし、視界を廣うし、具さに經濟界のあらゆる報道統計に注視し、專門諸大家の所說と對照して自ら其大勢を審らかにし、以て觀察の過誤なきを期せざるべからず。

凡そ經濟界の流れには本流と支流とあり。或る一片の現象は時に或は其大勢と相副はざるものありとするも、之に囚はれて大勢の觀測を誤り、群盲象を撫するの愚に陷らざるを必要とす。之が爲には啻に己れの經營する事業に直接間係ある事項のみに止まらず、廣く各方面の事實に著目傾聽するの努力を惜まず、平素より斯くの如き研究に關する興味を有するの慣習を養成し置くことは最も必要なる商人性格の一たるを失はざるべし。

最新 **經濟界觀察要義** 終

大正十二年二月五日印刷
大正十二年二月十日發行
大正十三年八月五日改訂再版印刷
大正十三年八月十日改訂再版發行

定價金壹圓七拾錢

著作者　赤木雅二
發行者　大葉久吉　東京市日本橋區本銀町三丁目十四番地
印刷所　佐藤爲吉　神戸市吾妻通三丁目十七番地

印刷所中外印刷株式會社

發行所　東京市日本橋本銀町三丁目振替口座東京二八〇番　東京實文館
關西專賣　大阪市西區阿波堀通四丁目振替口座大阪四三番　株式會社大阪實文館

東京寶文館發行書目

商學士 飯島幡司 著

金融經濟講義

本書は先年公にせられて斯界に大歡迎を受けたる『金融經濟論』の全部に大改訂を加へて金融經濟界の推移に適應せしめたるものなり。金融市場と金融現象の出沒起伏とを闡明して餘蘊なきは本書を措いて他に求む可らず。而して本書は學理を解くを目的とすれども併せて純理と實際との關係を講究するに努め、特に多數の事例を引用して讀者をして金融の巨細を知るに遺憾なからしむ。洵に近時罕覯の名著たるを失はず。請ふ一閲を賜へ。

布裝全一冊
定價金四圓貳拾錢
送料金拾八錢

法學博士 津村秀松 著

訂補 國民經濟學原論

著者の創めて本書を公にせらるゝや江湖の歡迎湧くが如く、忽ちにして版を重ぬること十數回、其の間著者研鑽の進むに從ひ、從來の著に懷焉たるものあり、今回訂正增補して公にせらる、本書自ら是なり、能く北歐碩儒の學說を咀嚼し、著者一己の見によりて、組織論述を試みられたるは、實に類書に見ざる所、而かも著者の眞摯努力倦まざるの態度は、識者の定評ありて、多言を要せざるなり。國民經濟の原理を說ける唯一の好著たることは

布裝全二冊
上卷金四圓八拾錢
下卷金十圓八拾錢
送料金各貳拾四錢

512
621

終